調査報告

生涯学習社会の形成を目指す教育の協働に関する報告

～大分県における「学校支援地域本部事業」に係る意識調査から～

平成 21 年３月

大分大学高等教育開発センター

ご あ い さ つ

大分大学高等教育開発センター
センター長　西　村　善　博

大分大学高等教育開発センターは、平成 20 年度に旧生涯学習教育研究センターと旧高等教育開発センターが統合し、新しい「高等教育開発センター」として再出発することになりました。新しいセンターでは、従来のセンターが保持していた機能の充実を図り、大分大学の教育活動の発展・充実、高等教育・生涯学習に関する調査・研究・開発および生涯学習関連事業等を通した地域貢献に関する推進の役割を担うこととなりました。

その中で、県民の生涯学習支援に関する生涯学習関連業務については、本学の持つ高等教育機能を発揮して効果的・効率的、先進的・モデル的な取り組みを具体的に推進しております。それによって、学内の教育活動に反映するとともに、学内外の様々な分野・機関等と連携・協力して地域の発展に寄与することなどを目指しています。

本報告書は、そうした地域の大学としての役割を担うために、教育の協働に関して調査研究を行った成果の一部でございます。教育の協働は、生涯学習の振興、とりわけ、改正教育基本法第13条にも新たに盛り込まれるとともに、国の教育振興基本計画においてもその取り組みが示されるなど、現代的な課題となっているものです。学校教育の場を中心に、子どもと大人が関わりつつ、青少年の健全育成、地域社会の活性化をとおして、生涯学習社会の形成に向けた取り組みとして今後の推進が期待されているところです。

本調査研究に際して、本学の山崎清男教授（教育福祉科学部）および深尾誠教授（経済学部）に参画していただくとともに、県及び市町村教育委員会の多大なご協力をいただいて、ここにご報告する運びとなりました。関係各位に心からお礼を申し上げます。

今後、本報告書をご活用いただき、教育の協働の一層の推進に寄与できることを願ってご挨拶といたします。

平成 21 年 3 月

目　　次

ページ

はじめに　1

第１部　　調査概要

第１章　調査計画の概要　3

第２章　調査結果の概要　5

2.1　児童生徒の調査の結果　5

2.1-1　日常生活とその相関　5

2.1-2　地域での関わりとその相関　5

2.1-3　「学校に行くことの楽しさ」との相関　5

2.1-4　「地域住民の学校支援のニーズ」との相関　5

2.2　教職員の調査の結果

2.2-1　家庭に関する意識　6

2.2-2　子どもに関する意識　6

2.2-3　地域住民と子ども・学校との繋がりに関する意識　6

2.2-4　学校教育への地域住民の支援活動に関する意識　6

2.2-5　「子どもの学習意欲の低下」との相関　7

2.2-6　「勤務校における学校支援の必要性」との相関　7

2.3　地域住民の調査の結果

2.3-1　居住する地域に関する意識　7

2.3-2　家庭に関する意識　7

2.3-3　地域の子どもに関する意識　7

2.3-4　学校教育への支援活動に関する意識　7

2.3-5　「子どもの学習意欲の低下」との相関　8

2.3-6　「地域の学校への関心」との相関　8

2.3-7　「地域の子どもに大人が関わる必要性」との相関　8

2.3-8　「学校支援活動への参加経験の有無」との相関　8

2.3-9　「今後の学校支援活動への参加意思」との相関　8

第２部　調査データの分析

第３章　児童生徒の調査の結果　9

3.1　単純集計結果　9

3.1-1　児童生徒に関する基礎データ　9

3.1-2　家庭生活に関すること　10

3.1-3　他人との関わり方に関すること　10
3.1-4　家族との関わり方に関すること　11
3.1-5　地域との関わり方に関すること　12
3.1-6　学校に行く楽しさに関すること　12
3.1-7　学校での地域住民との交流・活動の経験に関すること　13
3.1-8　今後の地域住民からの学校支援に関すること　14

3.2　クロス集計結果及び項目の相関　15
3.2-1　「学校に行くことの楽しさ」のクロス結果　16
3.2-1-1　「誰とでも話をする」との関係　16
3.2-1-2　「学校のことについての家族との会話」との関係　16
3.2-1-3　「近所の人との挨拶」との関係　17
3.2-1-4　「地域活動への参加意思」との関係　17
3.2-1-5　その他の有意な相関　18
3.2-2　「学校支援（地域の人と交流・活動）の要望」のクロス結果　19
3.2-2-1　「学校のことについての家族との会話」との関係　19
3.2-2-2　「家の手伝い」との関係　19
3.2-2-3　「近所の人への挨拶」との関係　20
3.2-2-4　「地域の活動への参加意思」との関係　20
3.2-2-5　「地域の活動への参加状況」との関係　20
3.2-2-6　「学校へ行くことの楽しさ」との関係　21
3.2-2-7　「学校支援（地域の人との交流・活動）の経験」との関係　21
3.2-2-8　その他の有意な相関　23

第４章　教職員の調査の結果　24
4.1　単純集計結果　24
4.1-1　教職員に関する基礎データ　24
4.1-2　家庭に関すること　25
4.1-3　地域の子どもに関すること　25
4.1-4　地域住民の子ども・学校との繋がりに関すること　26
4.1-5　勤務校における学校支援の必要性に関すること　26
4.1-6　学校支援による期待する教育効果に関すること　27
4.1-7　支援して欲しい活動に関すること　28
4.1-8　学校支援が必要でない理由に関すること　28
4.1-9　学校支援充実のための行政への要望に関すること　29
4.1-10　学校支援充実のための学校の取り組みに関すること　29

4.2　クロス集計結果及び項目の相関　30
4.2-1　「子どもの学習意欲の低下」のクロス結果　30

4.2-1-1　「家庭の教育力の低下」との関係　30
4.2-1-2　「家庭の学校への協力状況」との関係　31
4.2-1-3　「子どもの道徳心や公共心の薄れ」との関係　31

4.2-2　「勤務校における学校支援の必要性」のクロス結果　32
4.2-2-1　「地域の子どもに大人が関わる必要」との関係　32
4.2-2-2　「学校の情報を伝えている」との関係　32
4.2-2-3　「学校への地域住民の協力状況」との関係　33
4.2-2-4　「学校支援活動の受け入れ状況」との関係　33
4.2-2-5　「学校支援活動への期待」との関係　34

第５章　地域住民の調査の結果　35
5.1　単純集計結果　35
5.1-1　地域住民に関する基礎データ　35
5.1-2　居住する地域に関すること　36
5.1-3　家庭に関すること　36
5.1-4　地域の子どもに関すること　37
5.1-5　地域住民の子ども・学校との繋がりに関すること　37
5.1-6　学校支援活動への参加経験に関すること　38
5.1-7　学校支援活動への参加のきっかけに関すること　38
5.1-8　学校支援活動への参加理由に関すること　39
5.1-9　学校支援活動へ参加しての自分の変化に関すること　39
5.1-10　今後の学校支援活動への参加意志に関すること　40
5.1-11　学校支援充実のための行政への要望に関すること　41
5.1-12　学校支援活動をするための学校の役割に関すること　42

5.2　クロス集計結果及び項目の相関　42
5.2-1　「子どもの学習意欲の低下」のクロス結果　43
5.2-1-1　「地域の教育力の低下」との関係　43
5.2-1-2　「家庭の教育力の低下」との関係　43
5.2-1-3　「子どもの道徳心や公共心の薄れ」との関係　44
5.2-1-4　「学校への家庭の協力状況」との関係　44

5.2-2　「地域の学校への関心」のクロス結果　45
5.2-2-1　「地域の大人の子どもへの関わり」との関係　45
5.2-2-2　「地域の大人同士の交流」との関係　45
5.2-2-3　「学校の情報の伝わり方」との関係　46
5.2-2-4　「地域の子どもに大人が関わる必要性」との関係　46
5.2-2-5　「学校支援活動の経験の有無」との関係　47

5.2-3 「地域の子どもに大人が関わる必要性」のクロス結果 47
5.2-3-1 「地域の教育力の低下」との関係 47
5.2-3-1 「地域の教育力の低下」との関係 48
5.2-3-3 「地域の大人の子どもへの関わりの状況」との関係 48
5.2-3-4 「地域の大人同士の交流」との関係 49
5.2-3-5 「子どもの道徳心・公共心の薄れ」との関係 49
5.2-3-6 「学校支援活動の経験の有無」との関係 50
5.2-3-7 「学校支援活動に参加しての自分の変化」との関係 50

5.2-4 「学校支援活動への参加経験の有無」のクロス結果 51
5.2-4-1 「学校の情報の伝わり方」との関係 51

5.2-5 「今後の学校支援活動への参加意志」のクロス結果 51
5.2-5-1 「地域の教育力の低下」との関係 51
5.2-5-2 「家庭の教育力の低下」との関係 52
5.2-5-3 「地域の大人の子どもへの関わりの状況」との関係 52
5.2-5-4 「地域の大人同士の交流」との関係 53
5.2-5-5 「地域の大人同士の挨拶」との関係 53
5.2-5-6 「学校の情報の伝わり方」との関係 54
5.2-5-7 「地域の学校への関心」との関係 54
5.2-5-8 「地域の子どもに大人が関わる必要性」との関係 54
5.2-5-9 「学校支援活動への参加経験の有無」との関係 55
5.2-5-10 「学校支援活動に参加しての自分の変化」との関係 55

5.2-6 学校支援活動に「参加した活動」と「今後参加したい活動」とのクロス結果 56

第３部 調査のまとめ
第６章 「教育の協働」を推進する視点 57
6.1 基本的事項の共通理解 57
6.2 課題への対応 58

【調査資料】
※児童生徒の集計結果 61
※教職員の集計結果 65
※地域住民（保護者）の集計結果 69

生涯学習社会の形成を目指す教育の協働に関する報告
～大分県における「学校支援地域本部事業」に係る意識調査から～

はじめに

子どもの教育を生活の視点からとらえることは、子どもの持っている体験や学習に裏打ちされた発達の可能性と、その基盤である各地域の特色ある生活環境によって形成された子どもの特性を把握し、多様な子どもの一人ひとりが、彼らの個性にもとづき日本の未来を創り出すための可能性を見いだすために必要なことである[南里　2008]。 この南里の言は子どもの諸能力の発達にとって、生活体験の重要性を指摘したものである。家庭や地域での生活をぬきに、子どもの教育は考えられない。子どもは特定の家庭や地域に生まれ、両親の影響や地域の影響をうけながら、まず自己を形成していく。そしてそこでさまざまな生活上の諸能力を獲得し、学校での生活に入っていく。かつて学校では記号化された文化や知識を学び、学校で学んだ知識や技術を家庭や地域で実践し、体験を通して社会生活を送る知識や技能を身につけ活用することができた。いいかえれば「命題知」と「経験知」が、有効に相互作用していたといえよう。子どもは、親に庇護されながら、地域での多くの人々や集団と関わりつつ自己を形成し、生活の自立へと立ち向かっているのである。

しかし社会が高度化・複雑化し、さらには利便化するに伴い、子どもの世界（教育）から「生活」が奪われていく現実は、子どもの成長発達にとってプラスに作用しないことは事実である。つまり地域の人々や集団との関わりをぬきにして、学校教育のみで子どもの成長発達は考えにくいといえよう。それゆえ、このような関わりが希薄になっている今日、生活体験活動の重要性が声高々に叫ばれていると思われる。

かつて学校教育にウエイトが置かれ、学校教育がすべてという時期があった。ところが、学校教育重視の結果は、社会の変化とも絡み、子どもを取り巻く諸問題を生起させることとなり、子どもの成長発達を阻害しているということを示した。子どもの教育を、学校のみで担当するという考え方は通用しなくなってきたのであり、もはや特定の教育機関が自己完結的に教育を行うという考え方は意味をなさない。そこで家庭、学校、地域等が協働して共通の土俵を創り、視点や方向性を同じくして子どもの教育を考えるための生活体験活動の場を提供することが要請される。子どもが精神的に自立し自己を主体として形成していくためには、多くの人々や集団とのかかわりが必要なことは言うまでもない。

教育振興基本計画では、教育基本法第13条の規定をふまえ家庭、学校、地域の連携・協力を強化し、社会全体の教育力を向上させることが謳われた。そこでは「地域ぐるみで学校を支援し、子どもたちをはぐくむ活動の推進」という施策のもとに、学校と地域との連携・協力体制を構築し、地域全体で学校を支え、子どもたちを健やかに育むことを目指し、「学校支援地域本部事業」等の取り組みを促している。

そこで本報告書では家庭、学校、地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを目的として「学校支援地域本部事業」が始まったことを受け、家庭、学校、地域

という三者における教育の協働を効果的に推進するために、本事業を実施する地域の児童生徒、教職員、地域住民（含保護者）を対象にアンケート調査を行いその結果を提示することを試みた。アンケート調査の具体的内容は後述するが、本報告書ではアンケート調査の結果とそこから見える問題点、さらに家庭、学校、地域の三者が効果的な協働を推進していく筋道を確立するための方策に関し若干の示唆を提示することを試みた。

第１部　　調査概要

第１章　調査計画の概要

学校支援地域本部事業を実施する市町村のうちの、13地域本部の児童生徒、教職員、地域住民を対象に行った。

（1）調査対象者（表1を参照）

①児童生徒：2,886 人（小学生 1,591　中学生 1,295）

②教職員　：　383 人（小学校　229　中学校　154）

③地域住民：2,127 人（保護者 1,234　保護者以外の住民 893）

（2）調査方法

調査は大分県教育委員会を通し、当該市町村へ依頼し、調査票を配布・回収したが、次のような調査方法をとった。

①児童生徒・教職員に関しては当該市町村教育委員会が直接学校に依頼し学校が調査票を配布・回収した。

②保護者に関しては、児童生徒を通して学校が調査票を配布・回収した。

③地域住民に関しては、市町村によって依頼方法は異なるが以下の方法で配布・回収した。

○主として、公民館講座・学級の参加者を対象として当日配布・回収

○自治会や老人クラブ等へ配布を依頼し、記入後集約して、後日回収

その後、当該市町村教育委員会がアンケートを回収して大分県教育委員会に送付し、大分県教育委員会が一括して処理した。

（3）調査期間

平成 20 年 9 月末から 10 月末

（4）調査内容

児童生徒への質問内容

①基本的な生活習慣や他人との関係に関すること（5 項目）

②家族との関わりに関すること（3 項目）

③地域との関わりに関すること（3 項目）

④学校生活に関すること（2 項目）

⑤学校での地域の人との交流・活動に関すること（4 項目）

教職員への質問内容

①家庭の教育力に関すること（2 項目）

②子どもの現状認識に関すること（2 項目）

③地域住民の子どもや学校への関わりに関すること（3 項目）

④学校への地域からの支援に関すること（7 項目）

地域住民への質問内容

①地域の教育力に関すること（4 項目）

②家庭の教育力に関すること（2 項目）

③子どもの現状認識に関すること（2項目）
④子ども・学校・地域の関わりに関すること（3項目）
⑤学校への地域からの支援に関すること（9項目）

表1　調査対象一覧表

番号	市町村	支援本部名	学校名	生徒数	教職員	地域住民	
						保護者	保護者外
1	中津市	今津中学校支援地域本部	1今津中学校	120	13	97	67
			2今津小学校	116	12		
2	豊後高田市	田染校区学校支援地域本部	1田染中学校	36	10	62	57
			2田染小学校	37	9		
3	宇佐市	駅川中学校区支援地域本部	1駅川中学校	243	19	144	172
			2駅館小学校	185	22		
			3西馬城小学校	23	12		
4	別府市	大平山小学校区ネットワーク会議	1大平山小学校	325	28	57	82
5	杵築市	大田中学校区支援地域本部	1大田中学校	47	13	74	8
			2朝田小学校	23	10		
			3田原小学校	15	12		
6	国東市	武蔵学校支援地域本部	1武蔵中学校	158	12	91	86
			2武蔵東小学校	179	16		
			3武蔵西小学校	37	10		
7	姫島村	姫島村学校支援地域本部	1姫島中学校	74	10	8	32
			2姫島小学校	74	13		
8	津久見市	第2中学校支援本部	1第2中学校	161	11	100	97
			2青江小学校	165	10		
			3堅徳小学校	73	12		
9	佐伯市	蒲江翔南中校区学校支援本部	1蒲江翔南中学校	219	19	200	26
			2蒲江小学校	77	16		
10	竹田市	直入中学校支援地域本部	1直入中学校	55	13	108	91
			2直入小学校	66	8		
11	豊後大野市	千歳地区学校支援地域本部	1千歳中学校	56	8	87	38
			2千歳小学校	67	12		
12	日田市	大明中学校区支援本部	1大明中学校	63	14	110	64
			2静修小学校	47	12		
			3夜明小学校	27	8		
13	玖珠町	八幡中学校支援地域本部	1八幡中学校	63	12	96	73
			2八幡小学校	55	7		
			計	2886	383	1234	893

区　分	回答数		備考
児童生徒	2,886		小学3年生～中学3年生
地域住民	2,127		
		保護者　1,234	1市100名で依頼
		保護者以外　893	1市100名で依頼
教職員分	383		
総　計	5,396		

第２章　調査結果の概要

2.1　児童生徒の調査の結果

2.1-1 日常生活とその相関

子どもの日常生活のすべての項目に関する相関をみると、「基本的な生活習慣等」と「家族との関係」及び「地域との関係」の部分が集中して相関が高いことがわかった。このことから、子どもの「基本的な生活習慣」、「他人とのコミュニケーション」、「家族や地域での生活体験」が連動して成長しているのではないかと推測できる。

また、「学校種間の相関」は、学校外の日常生活にもみられることがわかった。「小中学校間」「学年間」では多くの項目において、いわゆる「きちんとできる」という傾向については小学生ほど「あてはまる」、中学生ほど「あてはまらない」という有意な相関がある。

2.1-2　地域での関わりとその相関

「地域行事への参加」、「地域行事への参加意思」、「地域の人への挨拶」など、他人との関わりについて有意な相関がある。特に「参加意思」と「参加経験」には高い有意な相関（.600**）があり、小学生ほど地域との関わりが強いことなどから、早い段階で、組織的な教育活動を行う学校教育などにおいて、地域住民との関わりを通して他人とのコミュニケーション能力の育成を図ることも一つの手段ではないかと考える。

2.1-3　「学校に行くことの楽しさ」との相関

「学校に行くのがあまり楽しくない」「全く楽しくない」という否定的回答を合わせると 22.0%にもおよぶことに留意する必要がある。また、「学校で楽しいこと」としては、「休み時間に先生や友達と遊ぶ」ことが多いが、「体育等の教科学習」（37.7%）、「数学等の教科学習」（12.8%）なども子どもにとって楽しみにしていることがわかった。この「学校へ行くことの楽しさ」は「他人や家族との会話」「近所の人への挨拶」「地域活動への参加」など、多くの項目との有意な相関が見られる。

2.1-4　「地域住民の学校支援のニーズ」との相関

小学校又は中学校への入学後に、「学校で地域住民との交流・活動や学習指導の支援等を経験した」と回答した子どもは 74.1%である（小学生：82.4%、中学生：66.3%）。今後の地域の大人からの支援についてのニーズについては「して欲しい」が 62.0%（小学生：70.2%・中学生：52.3%）、「して欲しくない」が 37.9%である。この２項目の間には「学校支援の経験が多い」ほど「今後も地域の人との交流や活動をしたい」（.253**）と考えているという有意な相関がある。

また、「地域住民の学校支援のニーズ」については、「家族との会話」「家の手伝い」「近所の人への挨拶」「地域活動への参加」「学校行くことの楽しさ」など、多くの項目と有意な相関があることから、「子どものニーズがないから、学校支援をしない」で

はなく、そうした子どもへの配慮をしつつ、学校支援の効果を総合的に見て積極的に取り組む必要があるのではないだろうか。さらに、内容別の「今後して欲しい支援」と「学校支援の経験」には有意な相関があるものが多いこともわかった。

2.2　教職員の調査の結果

2.2-1　家庭に関する意識

「家庭の教育力の低下」については様々な調査において指摘されているが、本調査においても 74.6%の教職員が「家庭の教育力が低下していると思う」と回答している（地域住民：47.4%）。教職員は地域住民と比較すると家庭の教育力を捉えやすい立場にあり、家庭の教育力を補完しているケースが多く、「学校の多忙化」の原因となっていることも指摘されている。

2.2-2　子どもに関する意識

「学習意欲の低下」については 40.7%、「道徳心・公共心の薄れ」は 68.6%の教職員が「低下している」と回答している。「学習意欲の低下」については小学校と中学校で逆転しており、今、盛んに言われる「中１ギャップ」などの原因と関連付けながら、その背景・根拠を探る必要がありそうである。

2.2-3　地域住民と子ども・学校との繋がりに関する意識

学校の取り組みや、学校・子どもと地域住民との関わりについては 90%程度の教職員が肯定的である。地域住民のボランティア活動の受け入れについても 80%程度が「受け入れている」と回答しているが、その頻度や内容には大きな差があると考えられる。こうした実態から、教職員の「学校だけで教育する」という考え方からの意識変革が進んだと捉えられるであろう。

2.2-4　学校教育への地域住民の支援活動に関する意識

学校教育への地域住民の支援活動の必要性については 89.6%の教職員が「必要である」と回答しており、小学校の方が若干多い。また、その効果としては、子どもについては、「学校内活動への関心・意欲・態度の向上」に期待（40.2%）しており、「授業における理解力・集中力の向上」への期待は 5.7%と少ない。平成 19 年度に別府市で実施した調査研究事業の調査結果では、「学校内活動への関心・意欲・態度の向上」（76.1%）、「授業における理解力・集中力の向上」（64.3%）に効果があったとしていることから、今後の調査と比較していきたい。また、学校全般としての期待は、「学校全体としての地域住民との協力・連携」（64.2%）、「学校環境の整備」（35.8%）への期待が多い。

支援内容としては「総合的な学習の時間等でのゲストティーチャー」（60.6%）、「安全パトロール」（54.6%）、「学校環境の整備」（28.7%）など、教職員では時間的な問題や知識・技能などにおいて困難なことなどがあげられている。

「学校支援が必要ない」という考え方については、「学校の内部情報の保守」（37.3%）、

「教職員の仕事量の増加」（36.6%）、「事故責任の所在が不明」（35.8%）、「予算の確保」（31.1%）を大きな課題として捉えていることがわかった。

学校支援を充実する方策としては、行政に対しては「予算の確保」（75.7%）、「コーディネーターの配置」（34.2%）を望む声が多く、学校としては「して欲しい情報」（64.2%）や「学校支援活動状況の情報」（28.5%）などを地域へ発信していくことを上げている。

2.2-5 「子どもの学習意欲の低下」との相関

「子どもの学習意欲の低下」については、「家庭の教育力の低下」や「学校に協力的でない家庭」、「子どもの道徳心・公共心の薄れ」と有意な相関があることから、家庭の教育力を向上することが、学習意欲の向上の方策の１つであることが推測できる。

2.2-6 「勤務校における学校支援の必要性」との相関

「勤務校における学校支援の必要性」については、「地域の子どもに大人が関わる必要性」や「学校の情報発信」、「地域住民の学校へ協力」、「学校支援の受け入れ状況」などと有意な相関があるが、「期待される効果」との相関は見られない。

2.3 地域住民の調査の結果

2.3-1 居住する地域に関する意識

「地域の教育力の低下」については、地域住民の 47.9%が「低下している」、「地域の安全」については 37.0%が「安全でなくなった」と回答するなど半数以下であるが、地域の大人同士の関係や子どもへの関わりの現状については約 70%が肯定的である。大人同士の挨拶については「している」が約 90%である。

2.3-2 家庭に関する意識

「学校に協力的でない家庭」については、地域住民の 37.1%が「多い」と回答している。「家庭の教育力の低下」では 47.4%が「低下している」と回答しており、教職員の 74.6%と比較すると少なくなっている。

2.3-3 地域の子どもに関する意識

「学習意欲の低下」については、地域住民の 41.8%が「低下した」（教職員:40.7%）、「道徳心・公共心の薄れ」は 66.1%が「薄れている」（教職員:68.6%）と回答しており、教職員とほぼ同じである。

2.3-4 学校教育への支援活動に関する意識

地域住民の意識としては、「子どもへの関わりが必要である」、「学校への関心がある」、「学校の情報が伝わる」など、70%以上が学校支援活動の基盤となる意識を持っており、地域住民の 50.9%がこれまでに学校支援活動をした経験がある。活動の内容は、「安全パトロール」（32.0%）、「学校環境の整備」（25.2%）などが多い。

学校支援活動に参加する理由は、「子どもが通学している」（32.8%）が最も多く、「学校への協力」（20.2%）などである。「参加したことによる自己変化」については、「学校や子どもの様子がわかった」（52.6%）や「子どもへの関心が高まった」（34.7%）などとなっており、支援活動に参加することによって、学校への理解を深める効果が見られる。また、「人と知り合う機会が増えた」（43.7%）や「地域のために活動したくなった」（11.0%）など、自分自身への効果も見られる。

今後の学校支援活動については「参加したい」が 61.3%であり、活動内容としては、これまで経験した「安全パトロール」や「学校環境の整備」が多くなっている。

2.3-5 「子どもの学習意欲の低下」との相関

「子どもの学習意欲の低下」については、教職員と同様に「地域の教育力の低下」や「家庭の教育力の低下」、「子どもの道徳心・公共心の薄れ」、「学校への家庭の協力状況」とに有意な相関があり、特に、「地域の教育力の低下」（.401**）、「家庭の教育力の低下」（.352**）には高い有意な相関がある。

2.3-6 「地域の学校への関心」との相関

「地域の学校への関心」については、「地域の大人の子どもへの関わりの状況」や「地域の大人同士の交流」、「学校の情報の伝わり方」、「地域の子どもに大人が関わる必要性」、「今後の学校支援活動への参加意思」とに有意な相関がある。特に、「地域の子どもに大人が関わる必要性」（.429**）、「今後の学校支援活動への参加意思」（.390**）、「学校の情報の伝わり方」（.399**）には高い有意な相関がある。

2.3-7 「地域の子どもに大人が関わる必要性」との相関

「地域の子どもに大人が関わる必要性」については、「地域の教育力の低下」や「家庭の教育力の低下」、「地域の大人の子どもへの関わりの状況」、「地域の大人同士の交流」、「子どもの道徳心・公共心の薄れ」、「学校支援活動の経験の有無」、「今後の学校支援活動への参加意思」とには有意な相関がある。特に、「地域の学校への関心」（前述）や「今後の学校支援活動への参加意思」（後述）とは高い有意な相関がある。

2.3-8 「学校支援活動への参加経験の有無」との相関

「学校支援活動への参加経験の有無」については、「今後の学校支援活動への参加意思」（.344**）と高い有意な相関があり、その他の「地域の学校への関心」や「地域の子どもに大人が関わる必要性」などとも有意な相関がある。

2.3-9 「今後の学校支援活動への参加意思」との相関

「今後の学校支援活動への参加意思」については、「地域の大人の子どもへの関わりの状況」、「地域の大人同士の交流」などとの有意な相関があるが、特に、「地域の学校への関心」（.390**）「地域の子どもに大人が関わる必要性」（.382**）、「学校支援活動の経験の有無」（.344**）と高い有意な相関ある。

第２部　調査データの分析

回答には、2 択の項目と 4 択の項目があり、記述に際して、全体の構成上、4 択の項目については「とてもあてはまる（とてもそう思う)」と「まあてはまる（そう思う)」を「あてはまる（思う)」、「あまりあてはまらない（あまりそう思わない)」と「全くあてはまらない（全くそう思わない)」を「あてはまらない（思わない)」として記述することとする。また、表記においては、設問に対する回答としてわかりやすくするために「出きる」や「食べる」、「起きる」等の記述とする。

第３章　児童生徒の調査の結果

3.1　単純集計結果

3.1-1　児童生徒に関する基礎データ

表1の調査対象一覧表により調査したものを、基礎データとして市町村別、小中学校種、学年別、性別に示したものが図 3.1-1 である。学校支援地域本部の規模によって、市町村別のデータ数が異なっている。

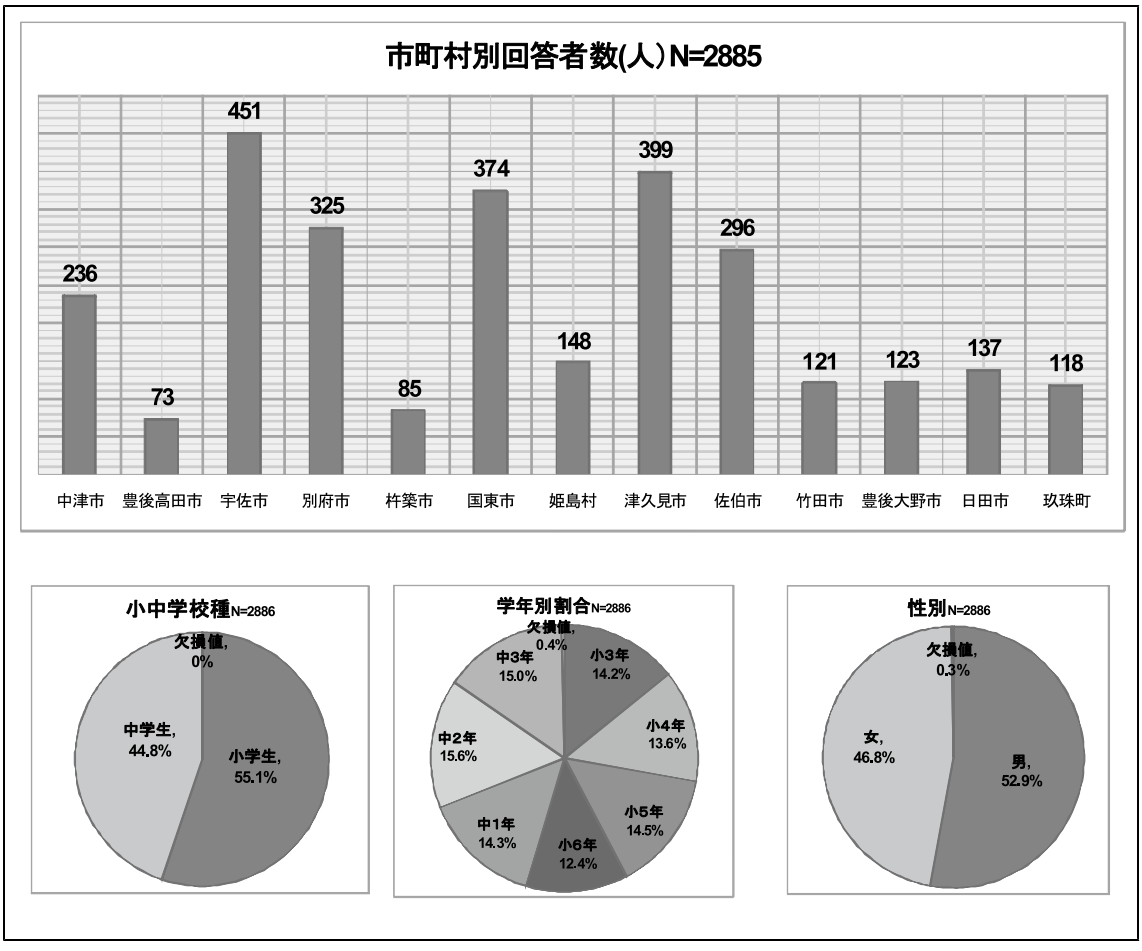


図3.1-1　子どもに関する基礎データ

3.1-2　家庭生活に関すること

図 3.1-2 は、子どもたちの家庭生活に関する状況を示したものである。
「夜は、決まった時間に寝ますか」については、「寝る」が 49.8%、「寝ない」が 49.7%となっている。「朝ごはんを食べますか」については、「食べる」が 93.2%、「食べない」が 6.3%となっている。「自分で起きますか」については、「起きる」が 65.0%、「起きない」が 34.8%となっていることから、「就寝」と「起床」が課題でであることがうかがえる。小中学生別に見ると「就寝」と「朝食」は小学生、「起床」は中学生の方が出来ている。

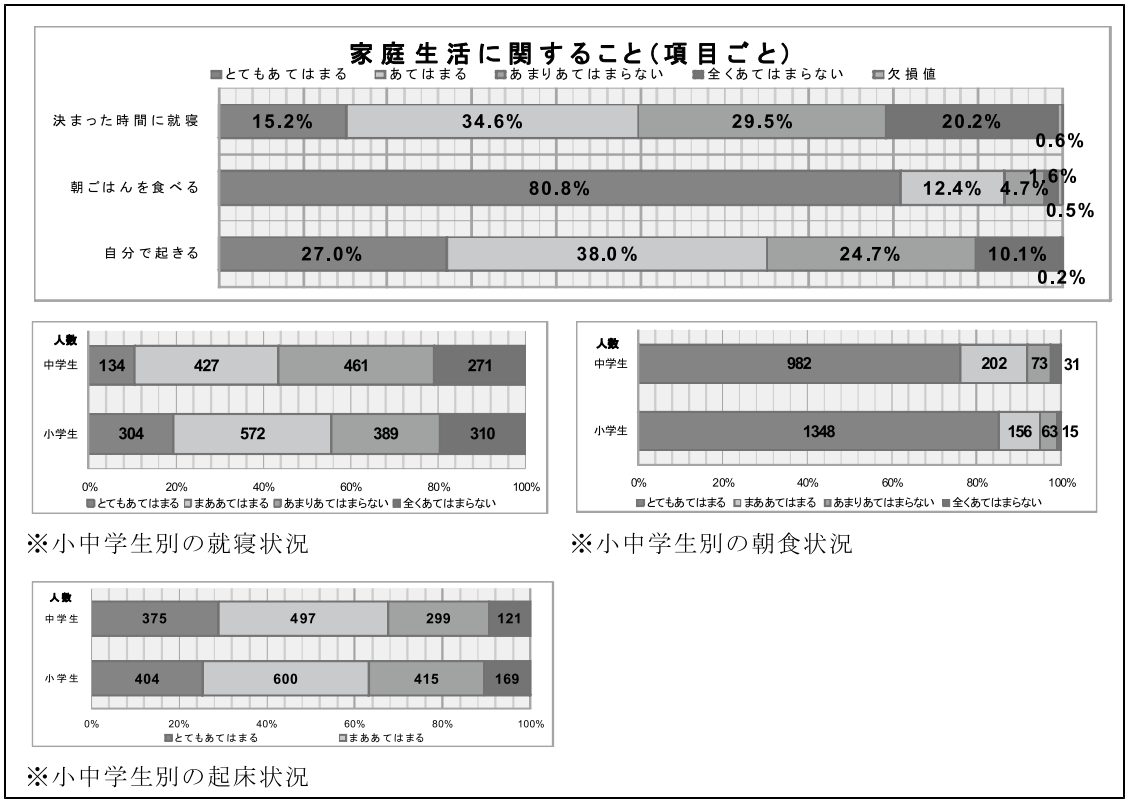


図3.1-2　家庭生活の状況

3.1-3　他人との関わり方に関すること

図 3.1-3 は、子どもたちの他人との会話や、勉強で困った時などの他人との関わり方などに関する状況を示したものである。
「少し難しい勉強などにぶつかると、すぐに他人に手伝ってもらいますか」については「手伝ってもらう」が 49.5%、「手伝ってもらわない」が 50.0%とほぼ同じ割合である。「誰とでも話をよくしますか」については、「する」が 81.8%、「しない」が 18.1%となっている。小中学生別に見ると、「手伝ってもらう」は中学生の方が多く、「誰とでも話す」は小学生の方が多くなっている。

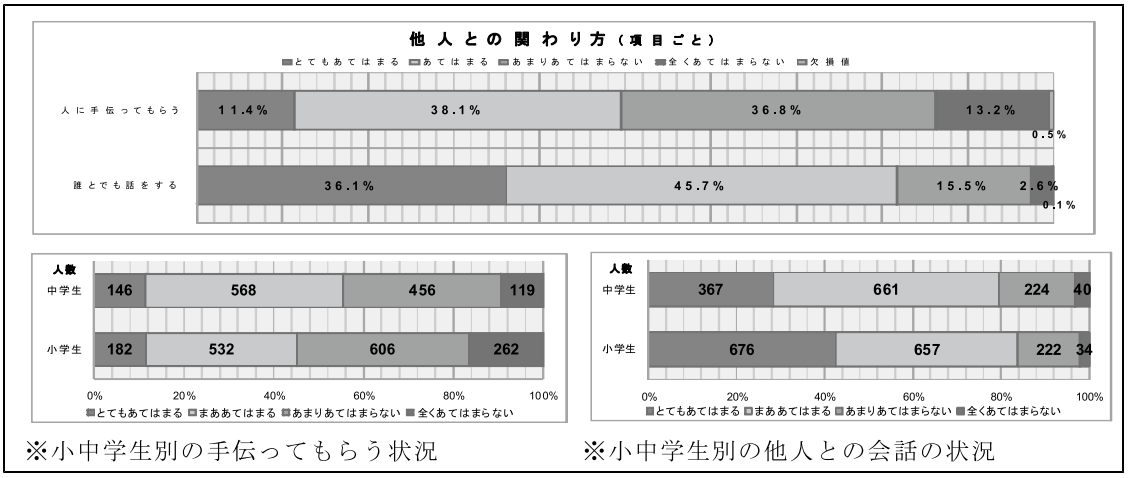


図3.1-3　他人との関わり方の状況

3.1-4　家族との関わり方に関すること

図 3.1-4 は、子どもたちの日常的な家族との関わりに関する状況を示したものである。

「家の手伝いをしますか」については、「手伝いをする」が 58.6%、「手伝をしない」が 41.1%となっている。「家族と買い物や遊びなどに行きますか」については、「行く」が 75.5%、「行かない」が 24.1%となっている。「学校の出来ごとについて家族と話しますか」では「話す」が 64.9%、「話さない」が 34.4%となっている。小中学生別に見ると、すべての項目において小学生ほど家族との関わりが多いという傾向がある。

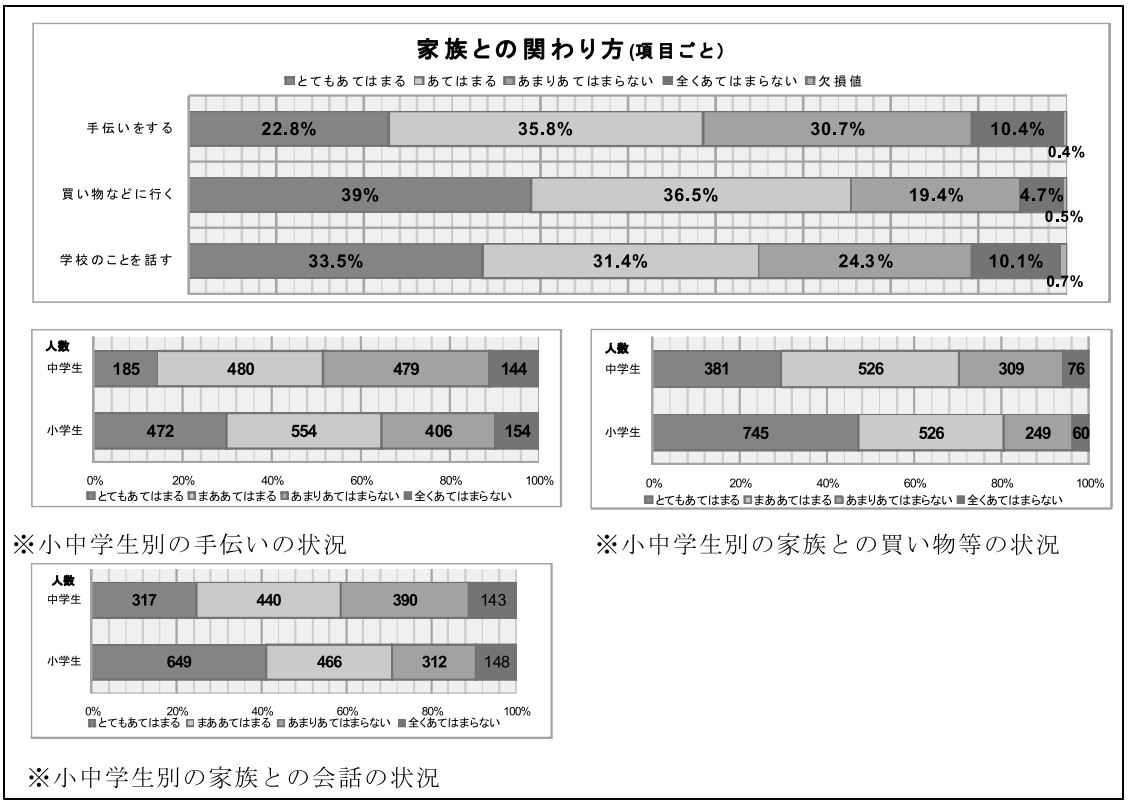


図3.1-4　家族との関わり方の状況

3.1-5　地域との関わり方に関すること

図 3.1-5 は、子どもたちの地域との関わり方に関する状況を示したものである。

「近所の人に挨拶をしますか」については、「挨拶をする」が 85.3%、「挨拶をしない」が 14.2%となっている。「地域での活動に参加したいですか」については、「参加したい」が 61.2%、「参加したくない」が 38.2%となっている。実際の地域活動への参加状況については「参加する」が 61.7%、「参加しない」が 38.0%となっており、参加意志と参加状況がほぼ一致している。小中学生別に見ると、すべての項目において小学生ほど地域との関わりが強いという傾向がある。

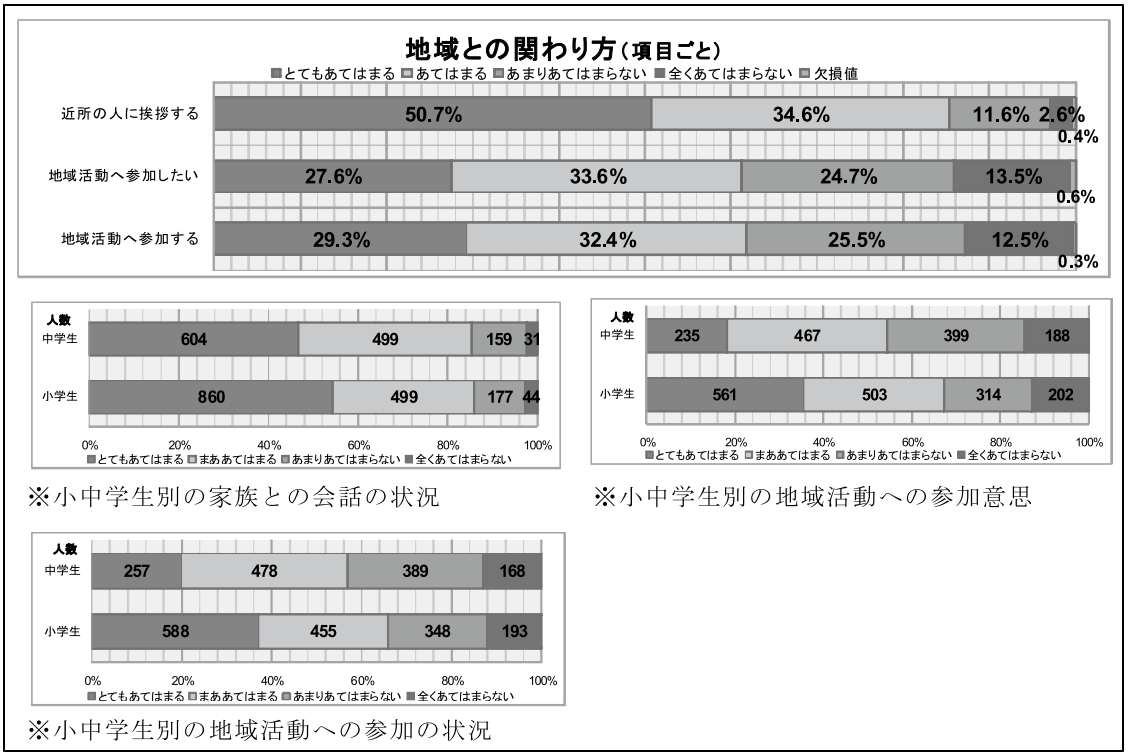


図3.1-5　地域との関わり方の状況

3.1-6　学校に行く楽しさに関すること

図 3.1-6 は、子どもたちが学校へ行くことの楽しさに関する状況を示したものである。

「学校に行くのが楽しいですか」については、「楽しい」が 77.9%であるが、「楽しくない」が 22.0%であることに留意する必要がある。「楽しさ」に関する小中学生別の違いはあまり見られない。学校での「楽しいこと」としては、「休み時間に先生や友達と遊ぶ」が 56.8%、「体育、音楽、家庭、美術（図工）等の教科学習」が、「遠足等の学校行事」（3 位：36.2%）や「クラブ・部活動」（4 位）を抜いて 2 位（37.7%）となっている。さらに、「数学、国語、英語等の教科学習」が「朝の読書活動」や「総合的な学習の時間」以上に「楽しい」と感じていることもわかる。小中学生を比較して見ると、中学生では「休み時間」、小学生は「体育、音楽、家庭、美術（図工）等の教科学習」と「遠足等の学校行事」が楽しい時間になっていることがわかる。

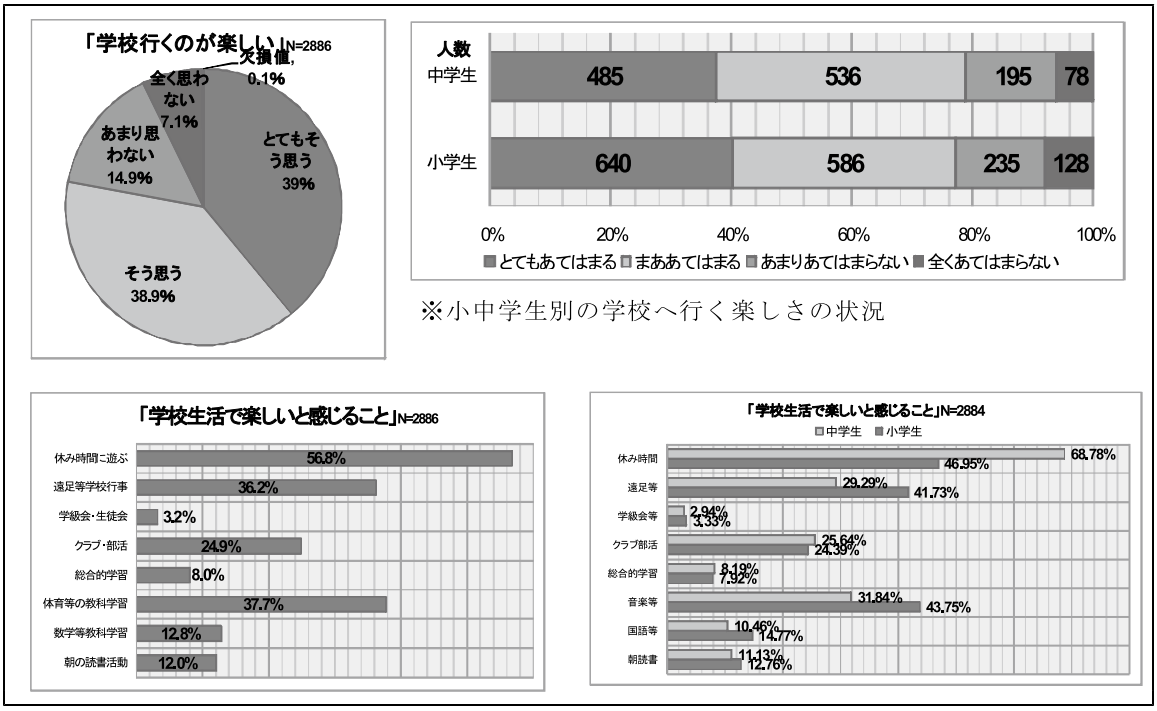
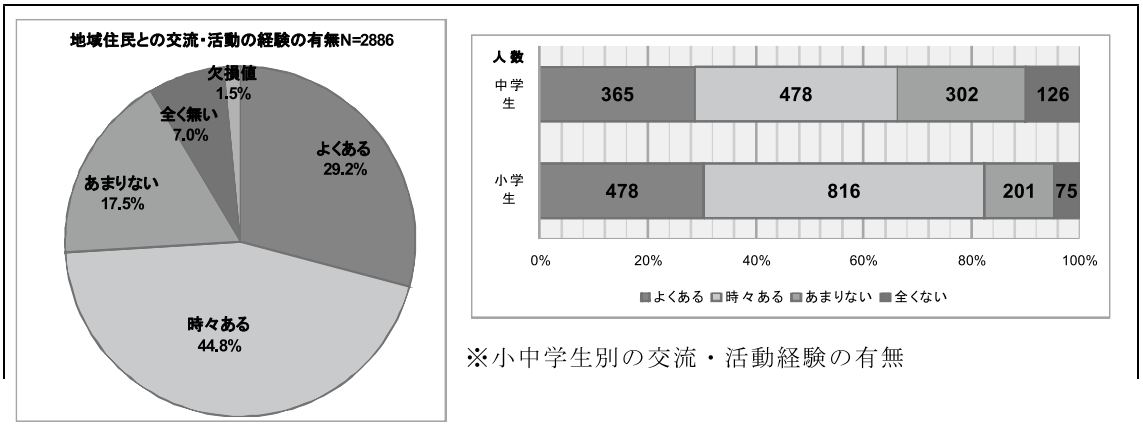


図3.1-6　学校に行く楽しさの状況（楽しいこと：２つまで選択）

3.1-7　学校での地域住民との交流・活動の経験に関すること

図 3.1-7 は、子どもたちが学校で地域の人たちと交流・活動した経験に関する状況を示したものである。

「小学生（中学生）になって、先生以外の人に学校で勉強やクラブ活動・部活動などを教えてもらったり、一緒に活動したりしたことがありますか」については、「ある」が 74.0%、「ない」が 24.5%である。活動内容としては「クラブ・部活動」（33.0%）、「教科学習」（31.4%）、「読み聞かせ・図書館活動」（30.0%）、「総合的な学習の時間」（28.0%）が多くなっている。小中学生別では、活動経験は小学生の方が 18%程多く、内容としては、中学生は「クラブ・部活動」（75.5%）、「教科学習」（33.3%）が多く、小学生は「読み聞かせ・図書館活動」（62.6%）、「総合的な学習の時間」（53.3%）、「教科学習」（46.6%）が多くなっている。



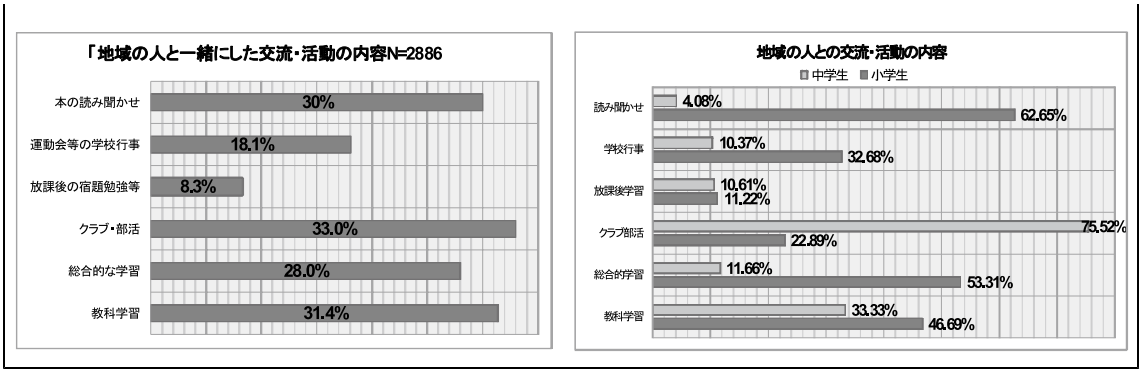
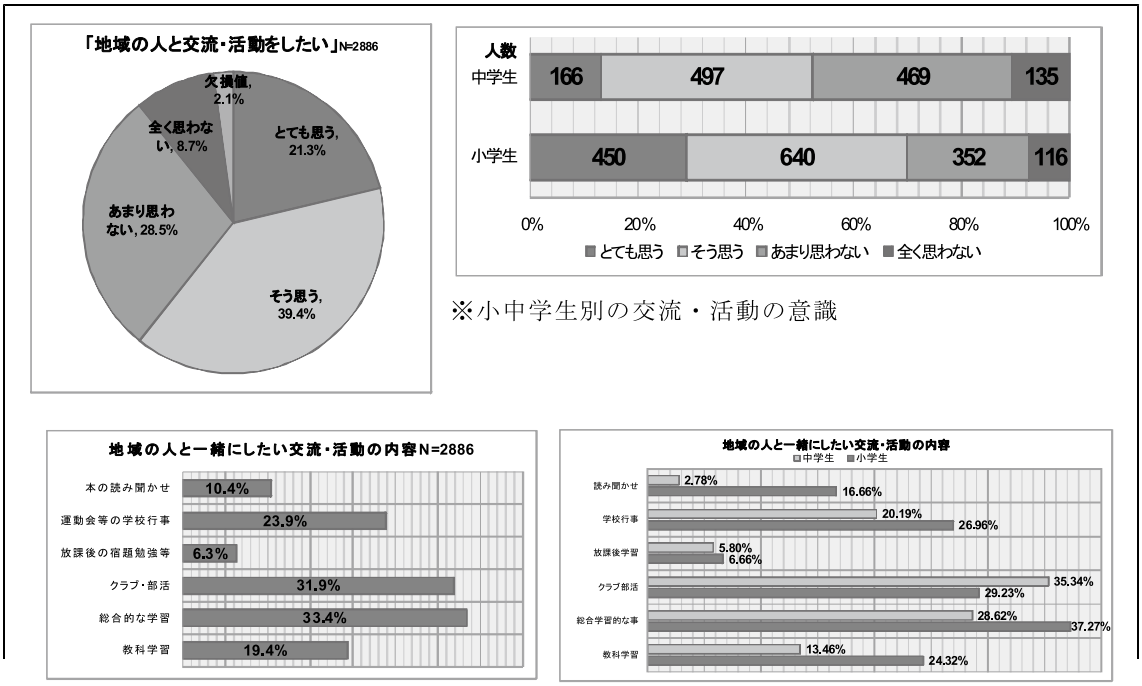


図3.1-7　学校での地域住民との交流・活動の経験に関する状況（活動内容：すべて選択）

3.1-8　今後の地域住民からの学校支援に関すること

図 3.1-8 は、子どもたちの、今後、学校で地域の人たちと交流・活動したいかどうかに関する状況を示したものである。

「今後、地域の人に学校に来てもらって勉強やクラブ活動・部活動などを教えてもらったり、一緒に活動したりしたいと思いますか」については、「したい」が 60.7%、「したくない」が 37.2%である。また、活動内容としては「総合的な学習の時間」（33.4%）「クラブ・部活動」（31.9%）、「運動会等の学校行事」（23.9%）、「教科学習」（19.4%）が多くなっている。「した活動」と「したい活動」には関連が見られるが、「読み聞かせ・図書館活動」については差が大きい。小中学生別では、「活動したい」が小学生の方が 20%程多く、内容としては、中学生は「クラブ・部活動」（35.3%）、「総合的な学習の時間」（28.5%）、「学校行事」（20.1%）、「教科学習」（13.5%）が多いのに対して、小学生は「総合的な学習の時間」（37.3%）、「クラブ・部活動」（29.2%）、「学校行事」（27.0%）、「教科科学習」（24.3%）、「読み聞かせ・図書館活動」（16.6%）となっている。



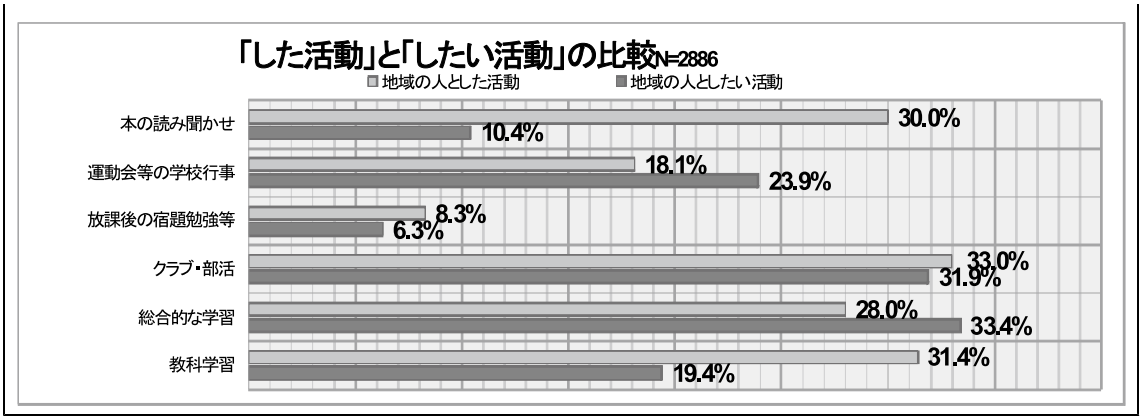


図3.1-8　今後の地域住民からの学校支援に関する意識

3.2　クロス集計結果及び項目の相関

調査項目においての様々なクロス集計を行ったが、ここでは学校教育への支援活動に関係が深いと思われる項目のうち、表 3.2-①及び表 3.2-②を参考にして有意な相関がみられる項目を中心に示すこととする。

表3.2-①　基本的な生活習慣等」「家族との関係」「地域との関係」の相関表（N=2,886）

	基本的生活習慣等					家族との関係			地域との関係		
項目	起床	朝食	就寝	会話	依存	会話	行動	手伝い	参加	意思	挨拶
小中間	-.048(**)	.108(**)	.114(**)	.125(**)	-.100(**)	.153(**)	.171(**)	.160(**)	.134(**)	.158(**)	.051(**)
学年間	-.061(**)	.108(**)	.124(**)	.140(**)	-.140(**)	.161(**)	.187(**)	.151(**)	.148(**)	.181(**)	.039(*)
起床	1	.058(**)	.227(**)	.060(**)	.03	.062(**)	.012	.166(**)	.067(**)	.083(**)	.117(**)
朝食	.058(**)	1	.219(**)	.097(**)	-.036	.157(**)	.117(**)	.125(**)	.150(**)	.140(**)	.158(**)
就寝	.227(**)	.219(**)	1	.164(**)	-.016	.257(**)	.117(**)	.223(**)	.168(**)	.219(**)	.177(**)
会話	.060(**)	.097(**)	.164(**)	1	.071(**)	.230(**)	.195(**)	.119(**)	.218(**)	.211(**)	.279(**)
依存	.03	-.036	-.016	.071(**)	1	.056(**)	.070(**)	-.031	-.005	.028	-.02
会話	.062(**)	.157(**)	.257(**)	.230(**)	.056(**)	1	.387(**)	.283(**)	.219(**)	.245(**)	.276(**)
行動	.012	.117(**)	.117(**)	.195(**)	.070(**)	.387(**)	1	.225(**)	.205(**)	.221(**)	.201(**)
手伝い	.166(**)	.125(**)	.223(**)	.119(**)	-.031	.283(**)	.225(**)	1	.210(**)	.270(**)	.272(**)
参加	.067(**)	.150(**)	.168(**)	.218(**)	-.005	.219(**)	.205(**)	.210(**)	1	.600(**)	.252(**)
意思	.083(**)	.140(**)	.219(**)	.211(**)	.028	.245(**)	.221(**)	.270(**)	.600(**)	1	.294(**)
挨拶	.117(**)	.158(**)	.177(**)	.279(**)	-.02	.276(**)	.201(**)	.272(**)	.252(**)	.294(**)	1

* p ＜ 0.05　** p ＜ 0.01

表3.2-②　地域支援の賛否と家庭、学校、地域における人との繋がりの相関表（N=2,886）

	他人との関係		家族との関係			地域との関係			学校関係	
	会話	**依存**	**会話**	**行動**	**手伝い**	**地域参加**	**参加意思**	**挨拶**	**楽しさ**	**支援有無**
楽しさ	.275(**)	.051(**)	.247(**)	.174(**)	.145(**)	.157(**)	.220(**)	.235(**)	1	.111(**)
支援賛否	.189(**)	-.008	.250(**)	.192(**)	.203(**)	.252(**)	.362(**)	.209(**)	.254(**)	.253(**)

** p ＜ 0.01

3.2-1　「学校に行くことの楽しさ」のクロス結果

子どもたちが学校に行くことが楽しいということは、「子どもの学習意欲」や「人間関係」の基盤となることである。前述したように 78.9%の子どもが、学校へ行くことが「楽しい」と回答しており、この「学校に行くことの楽しさ」と有意な相関が見られる項目について示すこととする。

3.2-1-1　「誰とでも話をする」との関係

「学校に行くことの楽しさ」と「誰とでも話をする」の関係を示したものが図 3.2-1-1 である。

この図から、「学校に行くのがとても楽しい」と回答したうちの 90.9%が「誰とでも話をする」（とてもする：594 人・まあする：427 人）と回答し、「学校に行くのがとても楽しい」と回答したうちの 9.1%が「話をしない」（あまりしない：83 人・全くしない：19 人）と回答している。また、「学校に行くのが楽しい」と回答したうちの 81.8%が「誰とでも話をする」（とてもする：308 人・まあする：602 人）と回答し、「学校に行くのが楽しい」と回答したうちの 18.9%が「話をしない」（あまりしない：198 人・全くしない：14 人）と回答している。さらに、「学校に行くのがあまり楽しくない」と回答したうちの 67.0%が「誰とでも話をする」（とてもする：74 人・まあする：214 人）と回答し、「学校に行くのがあまり楽しくない」と回答したうちの 33.0%が「話をしない」（あまりしない：121 人・全くしない：21 人）と回答している。このことから、「学校に行くことの楽しさ」と「誰とでも話をする」には、「学校に行くことが楽しい」と回答した子どもほど「誰とでも話をする」という有意な相関があることがわかる。

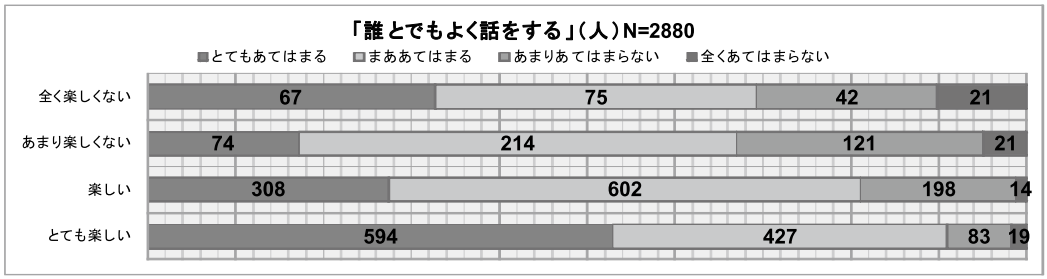


図3.2-1-1　「学校に行くことの楽しさ」と「誰とでも話をする」の関係

以下、このような有意な相関がみられる項目について、小中学生の回答をクロスしながら分析することとする。

3.2-1-2　「学校のことについての家族との会話」との関係

「学校に行くことの楽しさ」と「学校のことについての家族との会話」の関係を示したものが図 3.2-1-2 である。

この図から、「学校に行くことが楽しい」という回答の中での「家族ととても会話を

する」「まあ会話をする」の割合から、徐々に「あまり楽しくない」「全く楽しくない」という回答へ目を移していくと、「学校に行くことの楽しさ」と「学校のことについての家族との会話」には、「学校に行くことが楽しい」と回答した子どもほど「学校のことについて家族との会話する」という有意な相関があることがわかる。

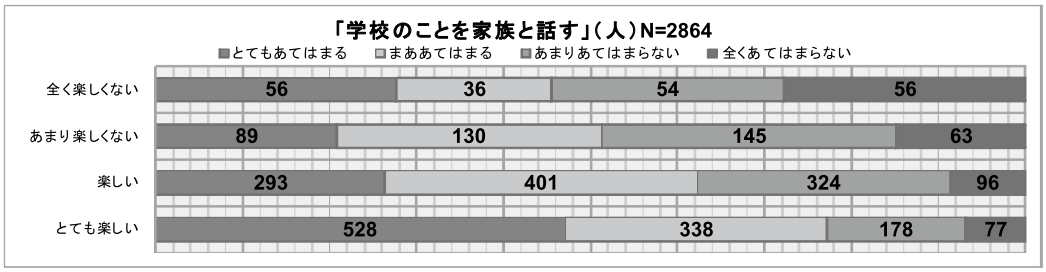


図3.2-1-2「学校に行くことの楽しさ」と「学校のことの家族との会話」の関係

3.2-1-3 「近所の人との挨拶」との関係

「学校に行くことの楽しさ」と「近所の人との挨拶」の関係を示したものが図 3.2-1-3 である。

この図から、「学校に行くことが楽しい」という回答の中での「とても挨拶する」「まあ挨拶する」の割合から、徐々に「あまり楽しくない」「全く楽しくない」という回答へ目を移していくと、「学校に行くことの楽しさ」と「近所の人との挨拶」には、「学校に行くことが楽しい」と回答した子どもほど「近所の人に挨拶する」という有意な相関があることがわかる。

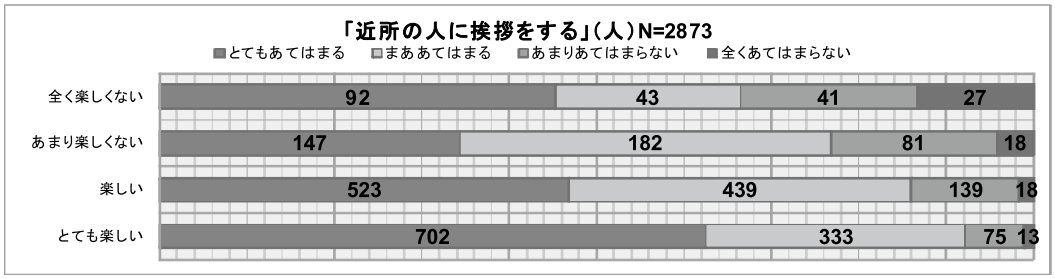


図3.2-1-3 「学校に行くことの楽しさ」と「近所の人との挨拶」の関係

3.2-1-4 「地域活動への参加意思」との関係

「学校に行くことの楽しさ」と「地域の活動への参加意思」の関係を示したものが図 3.2-1-4 である。

この図から、「学校に行くことが楽しい」という回答の中での「地域活動にとても参加したい」「まあ参加したい」の割合から、徐々に「あまり楽しくない」「全く楽しくない」という回答へ目を移していくと、「学校に行くことの楽しさ」と「地域の活動への参加意思」には、「学校に行くことが楽しい」と回答した子どもほど「地域の活動へ参加したい」という有意な相関がある。

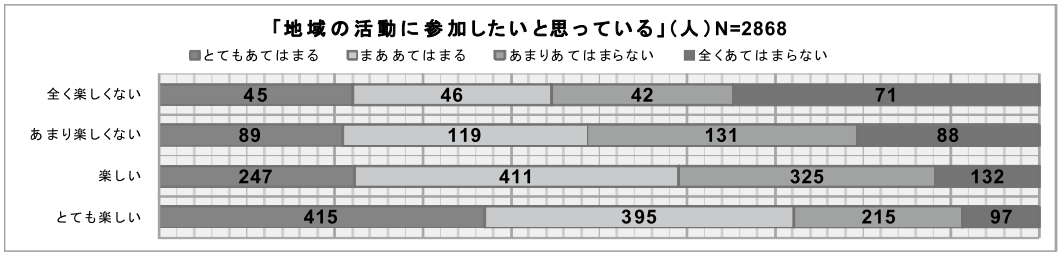


図3.2-1-4 「学校に行くことの楽しさ」と「地域の活動への参加意思」の関係

3.2-1-5 その他の有意な相関

その他の「学校に行くことの楽しさ」と有意な相関が見られるものについて参考資料として示した図が図 3.2-1-5 である。

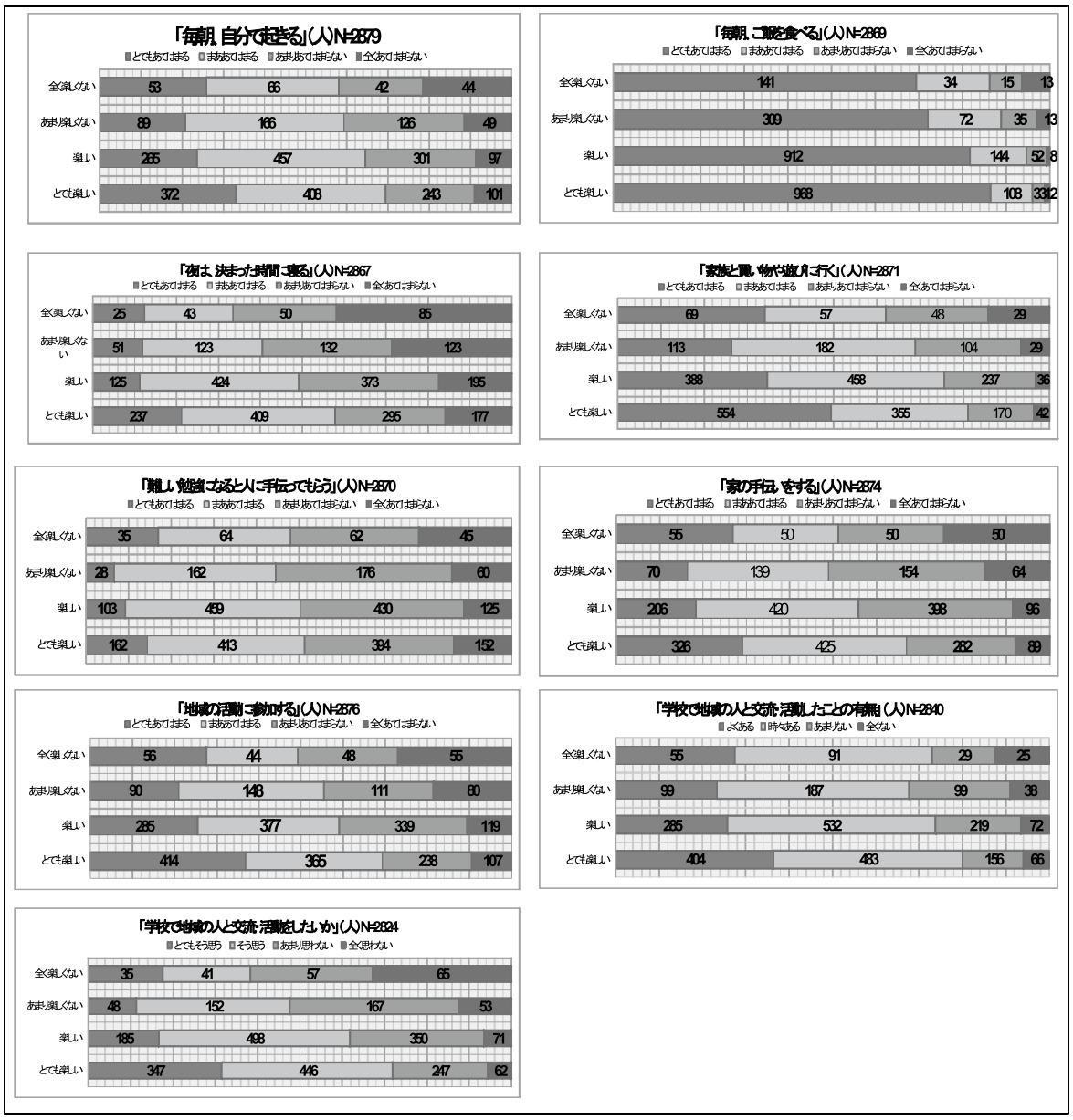


図3.2-1-5 「学校に行くことの楽しさ」とその他の項目の関係

3.2-2　「学校支援（地域の人と交流・活動）の要望」のクロス結果

地域住民からの学校支援が子どもたちにとってどうなのか、ということは「学校支援地域本部事業」の基盤となることであり、前述したように「地域の人と交流・活動したい」が 60.7%、「したくない」が 37.2%であることから、その背景等を分析するために「学校支援の要望」と有意な相関がみられる項目について示すこととする。

3.2-2-1　「学校のことについての家族との会話」との関係

「学校支援の要望」と「学校のことについての家族との会話」の関係を示したものが図 3.2-2-1 である。

この図から、「地域の人と一緒に活動したいととても思う」という回答の中での「家族ととても会話をする」「まあ会話をする」の割合から、徐々に「あまり活動したくない」「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「学校支援の要望」と「学校のことについての家族との会話」には、「地域の人と一緒に活動したいと思う」と回答した子どもほど「学校のことについて家族と会話する」という有意な相関があることがわかる。

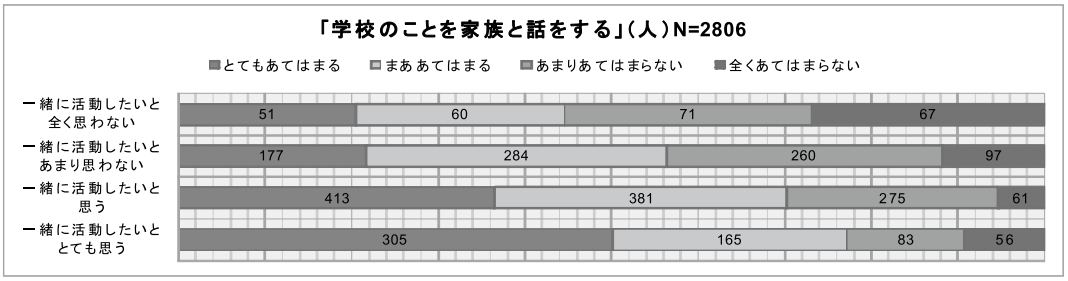


図3.2-2-1 「学校支援の要望」と「学校のことについての家族との会話」の関係

3.2-2-2　「家の手伝い」との関係

「学校支援の要望」と「家の手伝い」の関係を示したものが図 3.2-2-2 である。

この図から、「地域の人と一緒に活動したいととても思う」という回答の中での「家の手伝いをとてもする」「まあする」の割合から、徐々に「あまり一緒に活動したくない」「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「学校支援の要望」と「家の手伝い」には、「地域の人と一緒に活動したいと思う」と回答した子どもほど「家の手伝いをよくする」という有意な相関があることがわかる。

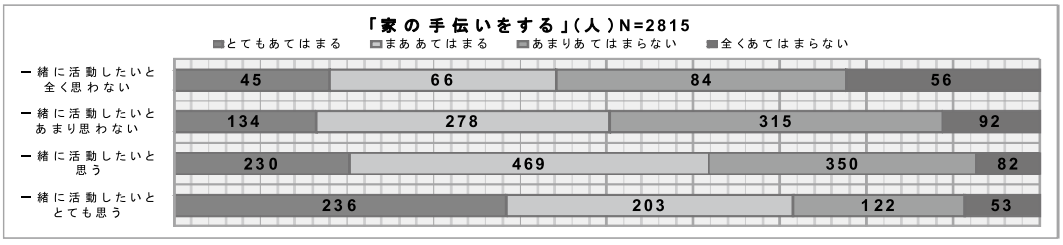


図3.2-2-2 「学校支援の要望」と「家の手伝い」の関係

3.2-2-3　「近所の人への挨拶」との関係

「学校支援の要望」と「近所の人への挨拶」の関係を示したものが図 3.2-2-3 である。

この図から、「地域の人と一緒に活動したいととても思う」という回答の中での「近所の人に挨拶をとてもする」「まあする」の割合から、徐々に「あまり一緒に活動したくない」「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「学校支援の要望」と「近所の人への挨拶」には、「地域の人と一緒に活動したいと思う」と回答した子どもほど「近所の人への挨拶をよくする」という有意な相関があることがわかる。

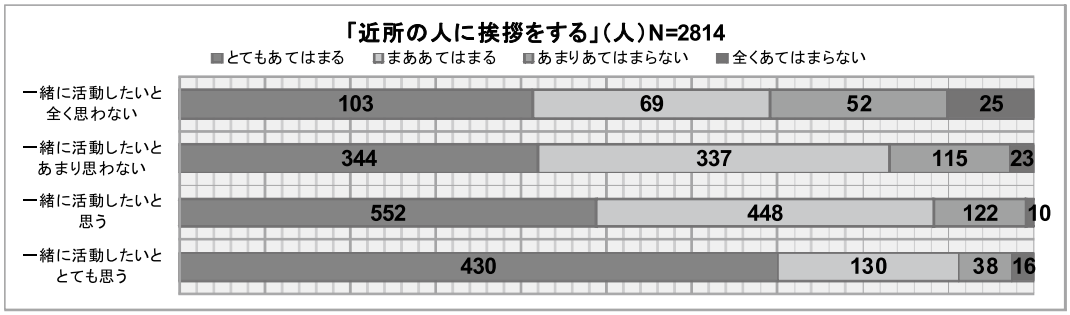


図3.2-2-3 「学校支援の要望」と「近所の人への挨拶」の関係

3.2-2-4　「地域の活動への参加意思」との関係

「学校支援の要望」と「地域の活動への参加意思」の関係を示したものが図 3.2-2-4 である。

この図から、「地域の人と一緒に活動したいととても思う」という回答の中での「地域の行事へ参加したいととても思っている」「まあ思っている」の割合から、徐々に「あまり一緒に活動したくない」「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「学校支援の要望」と「地域の活動への参加意思」には、「地域の人と一緒に活動したいと思う」と回答した子どもほど「地域の行事へ参加したいと思っている」という有意な相関があることがわかる。

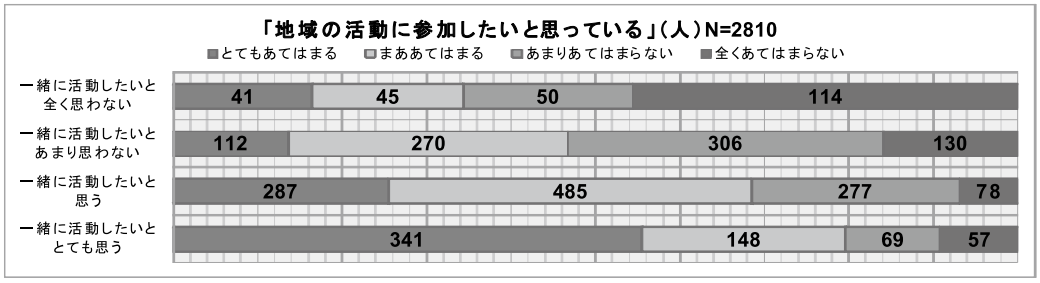


図3.2-2-4 「学校支援の要望」と「地域の活動への参加意思」の関係

3.2-2-5　「地域の活動への参加状況」との関係

「学校支援の要望」と「地域の活動への参加状況」の関係を示したものが図 3.2-2-5 である。

この図から、「地域の人と一緒に活動したいととても思う」という回答の中での「地域の活動への参加をとてもする」「まあする」の割合から、徐々に「あまり一緒に活動したくない」「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「学校支援の要望」と「地域の活動への参加状況」には、「地域の人と一緒に活動したいと思う」と回答した子どもほど「地域の活動への参加をよくする」という有意な相関があることがわかる。

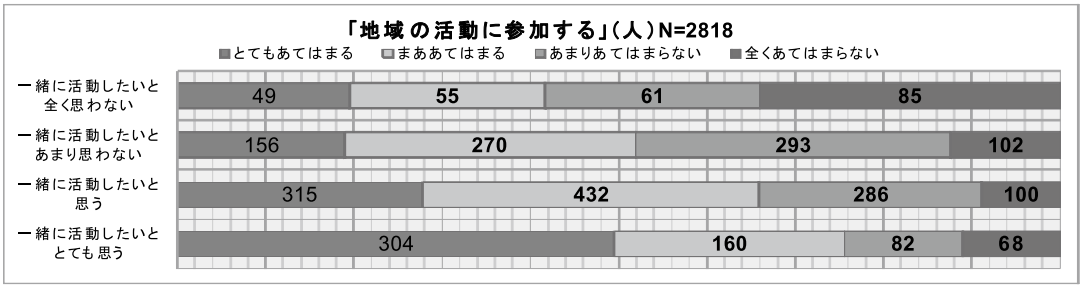


図3.2-2-5 「学校支援の要望」と「地域の活動への参加状況」の関係

3.2-2-6 「学校へ行くことの楽しさ」との関係

「学校支援の要望」と「学校へ行くことの楽しさ」の関係を示したものが図 3.2-2-6 である。

この図から、「地域の人と一緒に活動したいととても思う」という回答の中での「学校へ行くことがとても楽しい」「まあ楽しい」の割合から、徐々に「あまり一緒に活動したくない」「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「学校支援の要望」と「学校へ行くことの楽しさ」には、「地域の人と一緒に活動したいと思う」と回答した子どもほど「学校へ行くことが楽しい」という有意な相関があることがわかる。

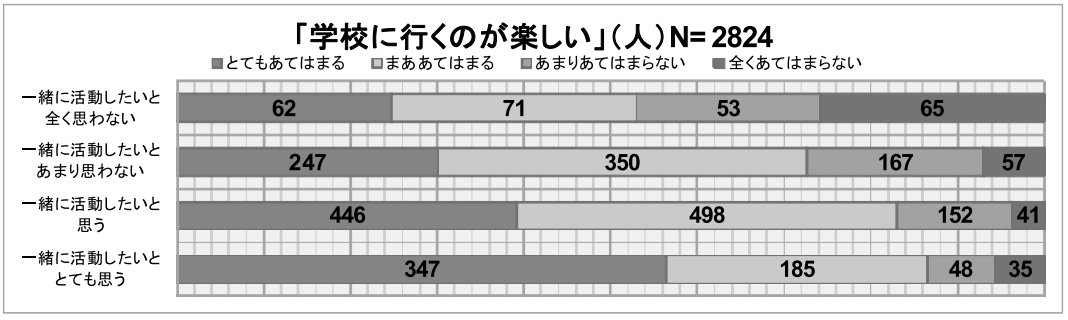


図3.2-2-6 「学校支援の要望」と「学校へ行くことの楽しさ」の関係

3.2-2-7 「学校支援（地域の人との交流・活動）の経験」との関係

「学校支援の要望」と「学校支援の経験」の関係を示したものが図 3.2-2-7 である。

この図から、「地域の人と一緒に活動したいととても思う」という回答の中での「学校支援の活動の経験がよくある」「時々ある」の割合から、徐々に「あまり一緒に活動したくない」「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「学校支援の要望」と「学校支援の経験」には、「地域の人と一緒に活動したいと思う」と回答した子どもほど「学校支援の活動の経験がある」という有意な相関があることがわかる。

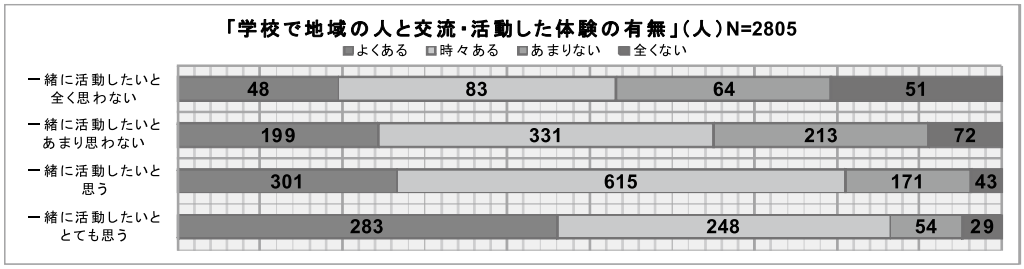


図3.2-2-7 「学校支援の要望」と「学校支援の経験」の関係

表 3.2-2-7-1 は、学校での地域の人たちとの交流・活動支援の経験及び今後して欲しい活動支援と支援内容との相関を示したものであり、表 3.2-2-7-2 は、その相関を小中学校別及び学年別に示したものであり、次のようなことがわかる。

①支援経験の内容と、今後求める支援内容には有意な相関がある。

②小学生と中学生の間には、放課後学習を除いてすべての項目において有意な相関があり、今後も支援を希望する子どもは小学生の方が多い（.203**）。支援経験の内容について特筆するものとして、クラブ・部活動は中学生ほど高く（.518**）、読み聞かせ（－.585**）や地域等学習（－.421**）は小学生ほど高い有意な相関がある。

表3.2-2-7-1 経験した支援内容（縦軸）と今後して欲しい支援内容（横軸）の相関表（N=2,886）

支援経験	支援賛否	教科学習	総合学習等	クラブ部活	放課後学習	学校行事	読み聞かせ	その他
支援有無	.253(**)	-.077(**)	-.058(**)	-.142(**)	-.022	-.005	-.033	-.033
教科学習	-.059(**)	.133(**)	.041	-.047(*)	.004	.025	.076(**)	.045(*)
総合学習等	-.083(**)	-.005	.135(**)	-.076(**)	-.048(*)	.116(**)	.072(**)	.059(**)
クラブ部活	.050(*)	-.118(**)	-.019	.238(**)	-.022	-.050(*)	-.179(**)	-.084(**)
放課後学習	-.032	.012	.061(**)	-.049(*)	.153(**)	.024	-.008	.006
学校行事	-.068(**)	-.069(**)	.065(**)	-.011	.057(**)	.196(**)	.042	.024
読み聞かせ	-.085(**)	.113(**)	.009	-.112(**)	-.014	.064(**)	.227(**)	.083(**)
その他	-.026	.002	-.012	-.044(*)	-.013	.115(**)	.003	.132(**)

* p ＜ 0.05　** p ＜ 0.01

表3.2-2-7-2 地域の人たちとの交流・活動支援に関する小中別・学年別相関表（N=2,886）

	小・中学校種間		小・中通した学年間		小学校での学年間		中学校での学年間	
活動内容	支援経験	求める支援	支援経験	求める支援	支援経験	求める支援	支援経験	求める支援
校種・学年	.131(**)	.203(**)	.112(**)	.207(**)	-.021	.085(**)	.014	.025
教科学習	-.133(**)	-.137(**)	-.097(**)	-.150(**)	.047	-.102(**)	.047	.037
地域等学習	-.421(**)	-.092(**)	-.363(**)	-.075(**)	-.011	.016	.086(*)	.005
クラブ･部活	.518(**)	.065(**)	.485(**)	.082(**)	.155(**)	.152(**)	-.045	-.102(**)
放課後学習	-.01	-.018	.015	-.011	.026	-.021	.104(**)	.056(*)
学校行事	-.255(**)	-.073(**)	-.223(**)	-.060(**)	.045	.026	.038	.012
読み聞かせ	-.585(**)	-.226(**)	-.546(**)	-.228(**)	-.131(**)	-.074(**)	.069(*)	-.027
その他	-.246(**)	-.099(**)	-.257(**)	-.085(**)	-.115(**)	-.004	-.03	.016

* p ＜ 0.05　** p ＜ 0.01

3.2-2-8　その他の有意な相関

その他、「学校支援の要望」と有意な相関が見られるものについて参考資料として示した図が図 3.2-2-8 である。

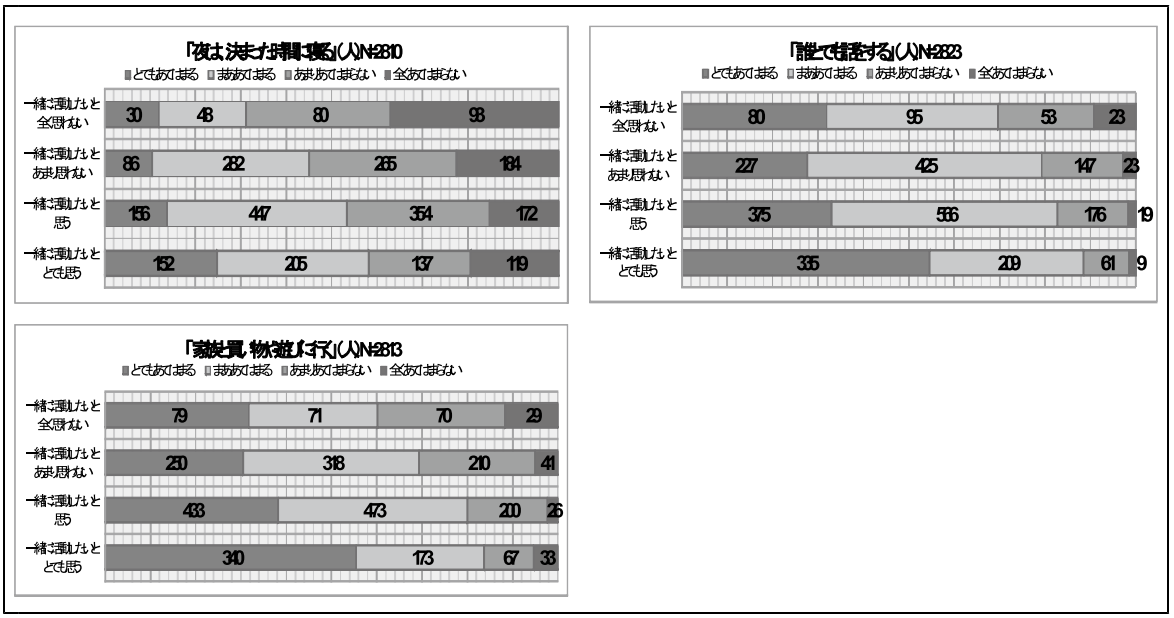


図3.2-2-8　「学校支援の要望」とその他の項目の関係

第４章　教職員の調査の結果

4.1　単純集計結果

4.1-1　教職員に関する基礎データ

表１の調査対象一覧表により、調査したものを、基礎データとして市町村別、小中学校種、年代別、役職、当該校勤務年数、性別に示したものが図 4.1-1 である。学校支援地域本部の規模によって、市町村別のデータ数が異なっている

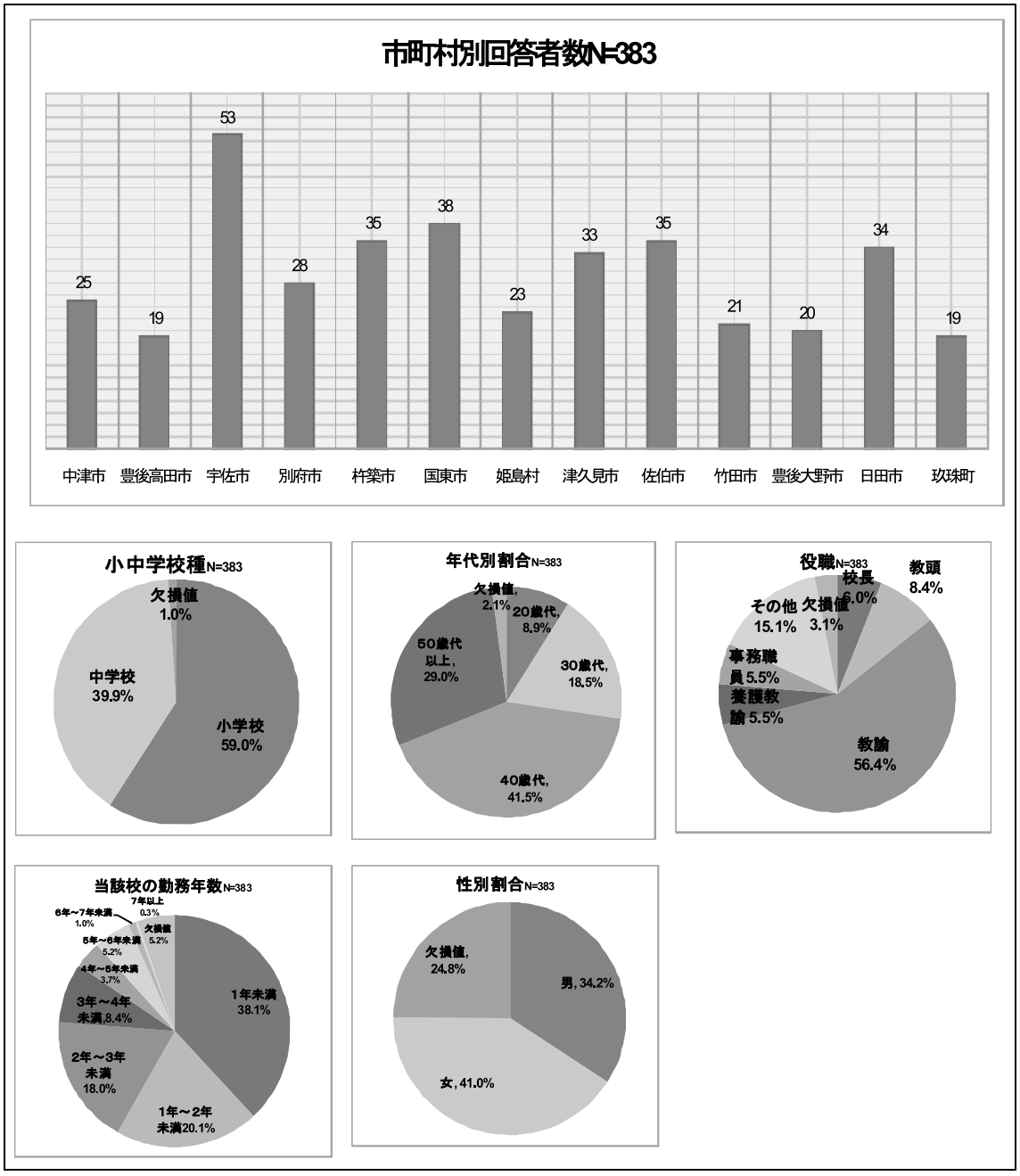


図4.1-1 教職員に関する基礎データ

4.1-2　家庭に関すること

図 4.1-2 は、自分の子どもの頃に比べての、今の家庭の様子についての状況を示したものである。

「学校に協力的でない家庭が多いですか」については、「多い」が 39.2%、「家庭の教育力が低下していますか」については、「低下している」が 74.6%となっている。

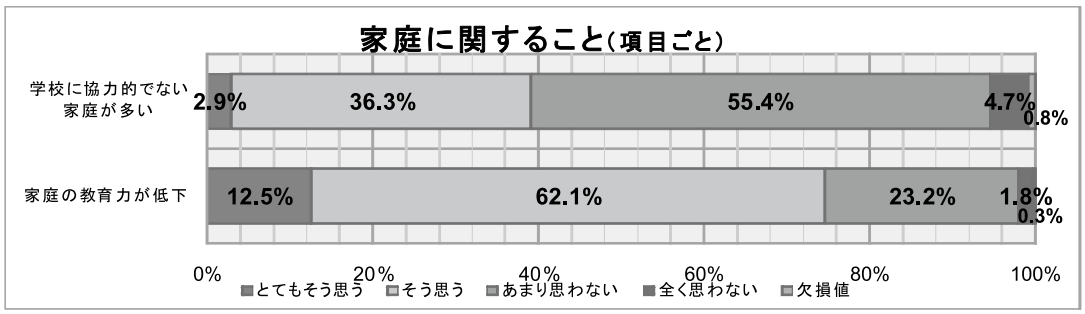


図4.1-2 家庭教育の状況

4.1-3　地域の子どもに関すること

図 4.1-3-1 は、自分の子どもの頃に比べての、地域の子どもの様子についての状況を示したものである。

「子どもたちの学習意欲が低下していますか」については、「低下している」が 40.7%、「子どもたちの道徳心や公共心が薄れていますか」については「薄れている」が 68.6%となっており、地域住民とほぼ同じである。このことから、「学習意欲の低下」より、「道徳心や公共心の薄れ」の方を強く感じていることがうかがえる。「学習意欲の低下」について図 4.1-3-2 で小中学校別に見ると、中学校の教職員の方が「低下している」と捉えていることがわかる。

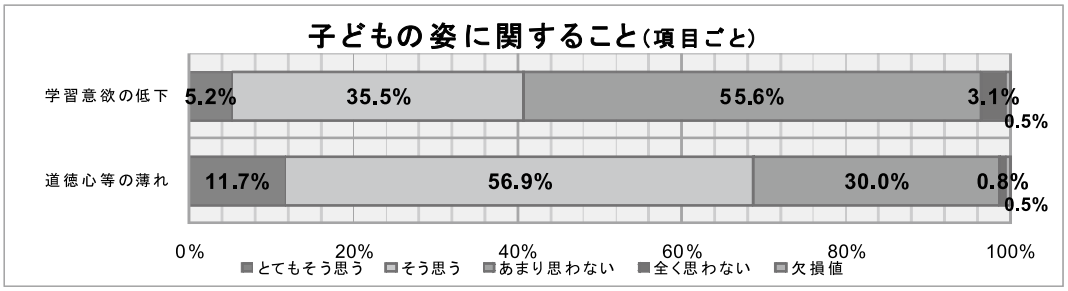


図4.1-3-1 教職員の子どもの頃と比べた子どもに関する意識

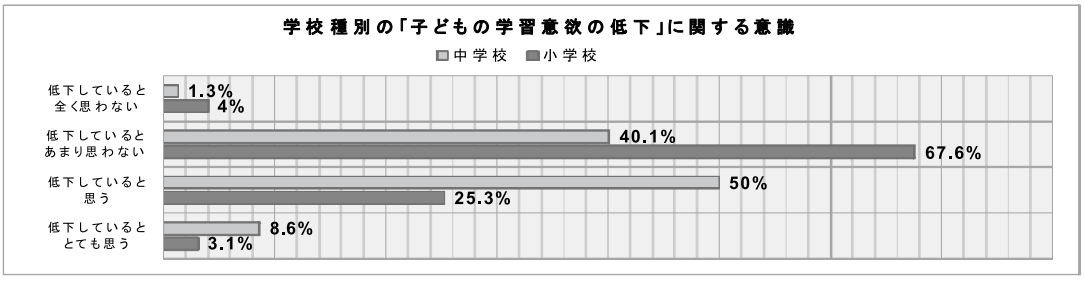


図4.1-3-2 小中学校別の子どもに関する意識

4.1-4　地域住民の子ども・学校との繋がりに関すること

図 4.1-4-1 は、地域住民の子ども・学校との繋がりに関すること示したものである。

「勤務校は地域住民のボランティア活動を積極的に受け入れていますか」については、「受け入れている」が 79.3%、「勤務校の地域住民は学校に協力してくれる人が多いですか」については、「多い」が 94.7%、「学校の行事などの情報を地域によく伝えていますか」については、「伝えている」が 94.5%、「地域の子どもに対して地域の大人が積極的に関わる必要がありますか」については、「必要がある」が 88.0%となっている。

小中学校別のボランティアの受入状況を示した図が図 4.1-4-2 である。「受け入れている」という回答は、小学校の 85.4%に対して、中学校では 70.0%と少なくなっている。

このことから、学校の地域住民への期待感や、学校と地域住民との良好な関係があることなどがうかがえるとともに、小学校の方が受け入れやすい状況であることや必要度が高いことなどがうかがえる。

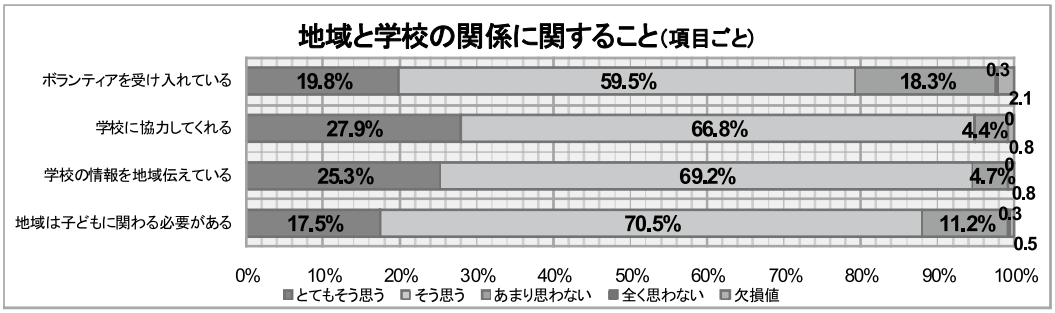


図4. 1-4-1　地域住民と子ども・学校との繋がりに関する状況

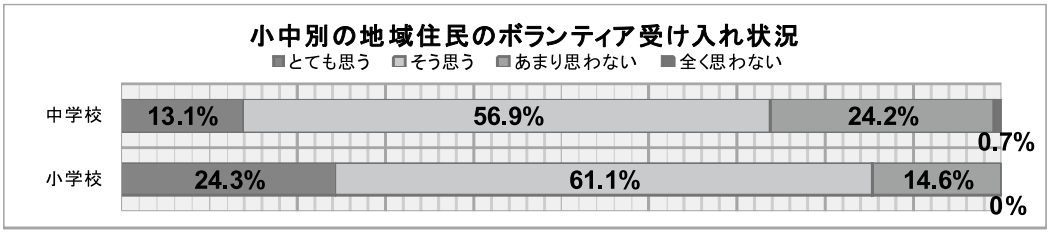


図4. 1-4-2　小中学校別の地域住民のボランティア受け入れ状況

4.1-5　勤務校における学校支援の必要性に関すること

図 4.1-5 は、勤務校における地域住民の学校支援活動の必要性について示したものである。

「勤務校にとって地域住民のボランティア活動は必要ですか」については、「必要である」が 89.6%、「必要でない」が 8.9%となっており、地域住民への期待が大きいことがわかる。小中学校に別に見ると、小学校の方が「必要である」という回答が多く、「学校支援の受け入れ状況」と同じ傾向であることがわかる。特に、小学校においては「とても必要である」が 24.8%にもなっている。

「学校支援の必要性」は本事業を実施するうえで重要な要素であり、他の項目とのクロスを後述することとする。

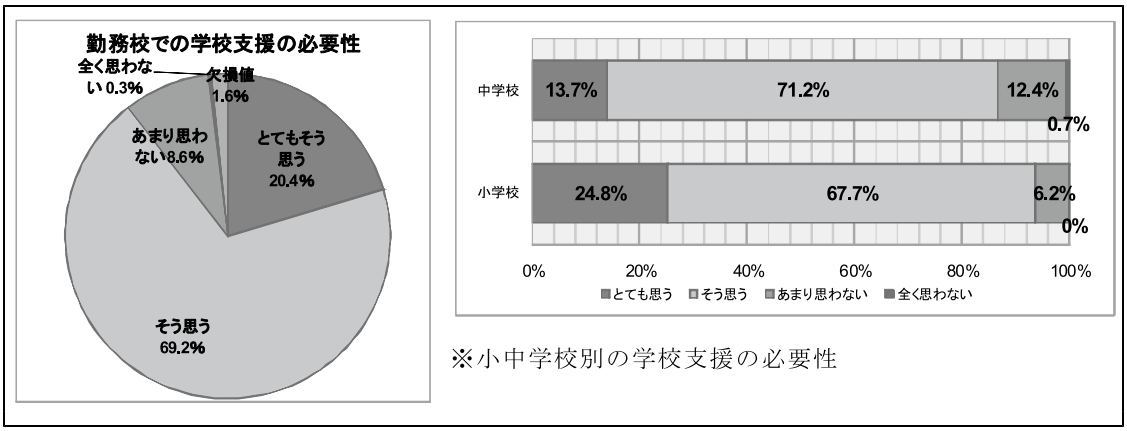


図4.1-5　勤務校における学校支援の必要性

4.1-6　学校支援による期待する教育効果に関すること

図 4.1-6 は、地域住民の学校教育への支援活動に期待する教育効果について示したものである。

子どもへの効果として期待することは、「学校内活動への関心・意欲・態度の向上」が最も多く 40.2%、「基本的生活習慣の向上」が 19.8%となっており、「授業における理解力・集中力の向上」は 5.7%と低くなっている。

学校の教育活動全般としては、「学校全体としての地域住民との協力・連携」が最も多く 64.2%、「学校環境の充実」が 35.8%である。「学校全体としての地域住民との協力・連携」への期待について教職員がイメージとして持っているものを具体化することが今後の方向性であると考える。小中学校別に見ると、小学校において「学校内活動に関すること」と「授業の理解力・集中力」が多くなっているが、ほぼ同じ傾向である。

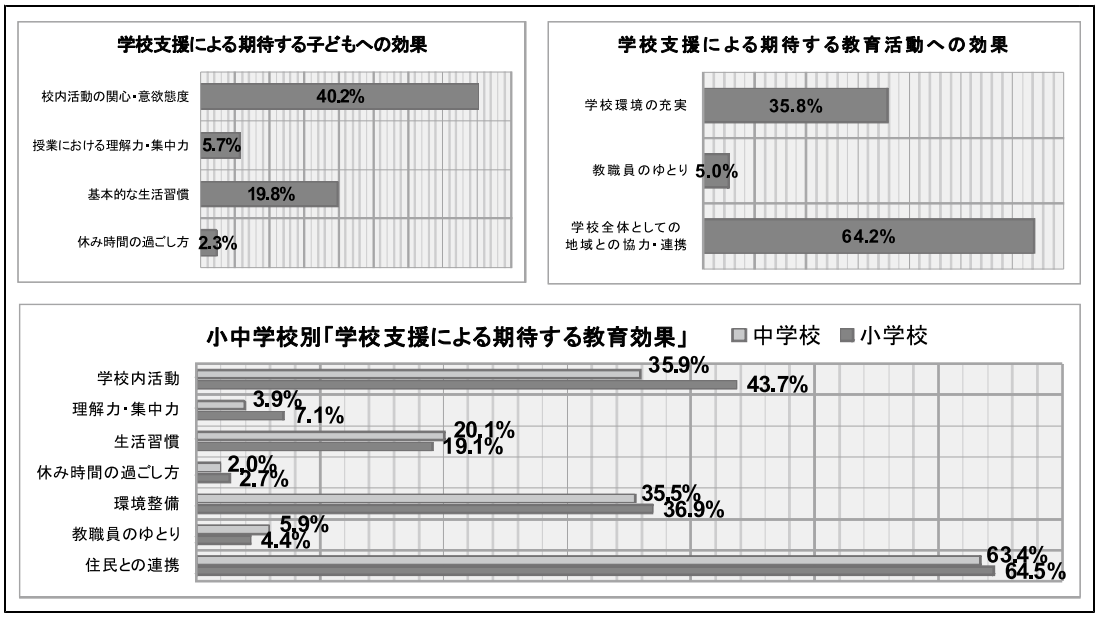


図4.1-6 学校支援による期待する教育効果（２つまで選択）

4.1-7　支援して欲しい活動に関すること

図 4.1-7 は、地域住民にして欲しい支援活動について示したものである。

「総合的な学習の時間等におけるゲストティーチャー」が最も多く 60.6%、「安全パトロール」が 54.6%、「学校環境の整備」が 28.7%、「読書・図書館活動」が 22.5%となっている。要望の多い支援活動を小中学校を比較して見ると、「安全パトロール」は小学校が多く、その他の活動は中学校が若干多いもののほぼ同じ傾向である。

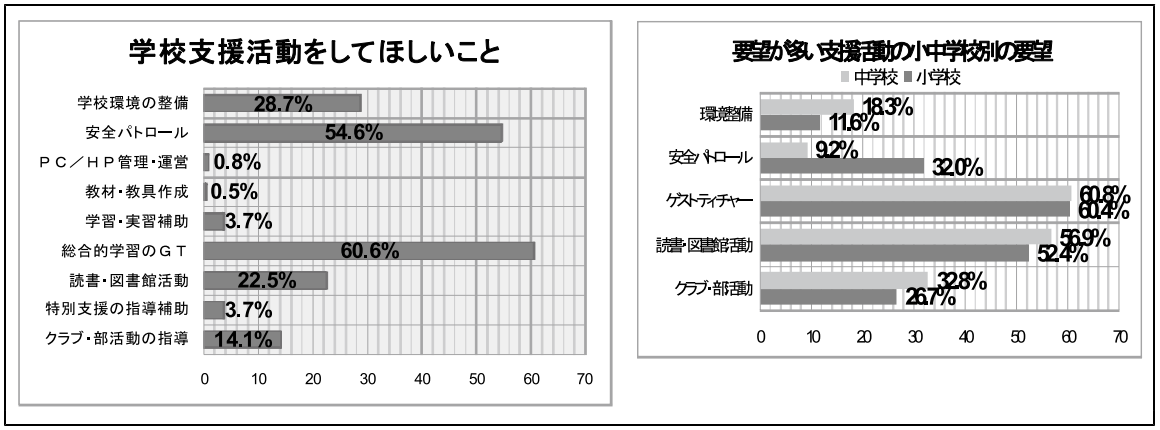


図4.1-7支援して欲しい活動（２つまで選択）

4.1-8　学校支援が必要でない理由に関すること

図 4.1-8 は、学校支援が必要でないという理由について示したものである。

「学校支援が必要でないという意見もありますがどのような理由からだと思いますか」について、「守るべき個人情報・学校の内部情報の保守が心配」（37.3%）、「教職員の仕事量が増加して多忙になる」（36.6%）、「事故責任の所在が不明確」（35.8%）、「予算が充分に確保されていない」（31.1%）が多くなっている。小中学校を比較して見ると、「内部情報の保守」は小学校が多く、「多忙化」「予算の確保」は中学校が多くなっている。

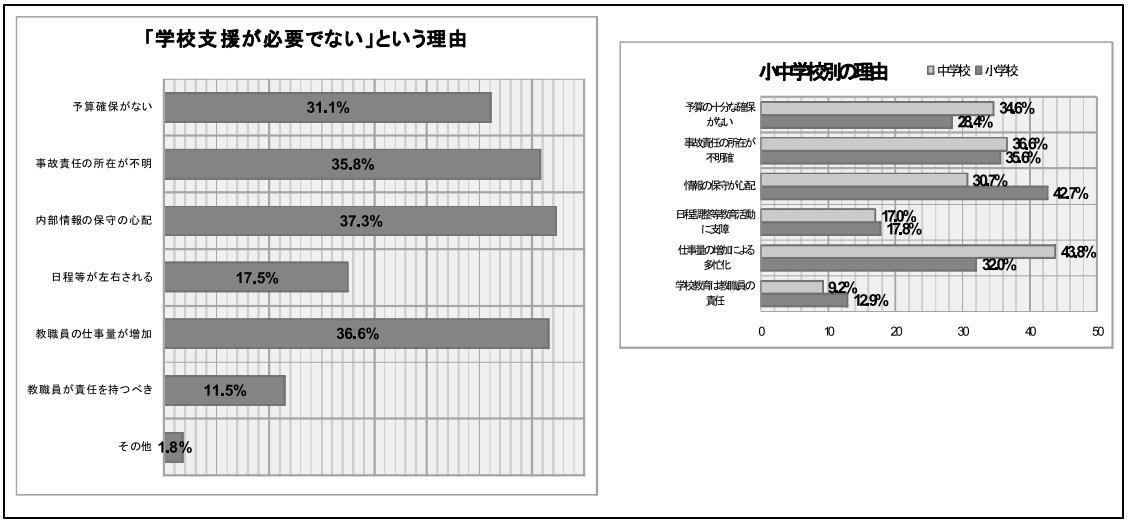


図4.1-8 学校支援が必要でない理由（２つまで選択）

4.1-9　学校支援充実のための行政への要望に関すること

図 4.1-9 は、学校支援活動を充実するための行政への要望について示したものである。

「学校支援活動を充実するため行政にして欲しいことは何ですか」という質問について、「予算の確保」が 75.7%と最も多く、「コーディネーターの配置」（34.2%）、「地域住民への啓発・広報」（20.1%）、「ボランティアの活動拠点」（18.5%）が多くなっている。

行政としてはこうした声に耳を傾けて検討する必要があるが、「コーディネーターの配置」は「学校支援地域本部事業」の中核として実施しており、この取り組みと他の課題をセットしながら対応することが求められる。

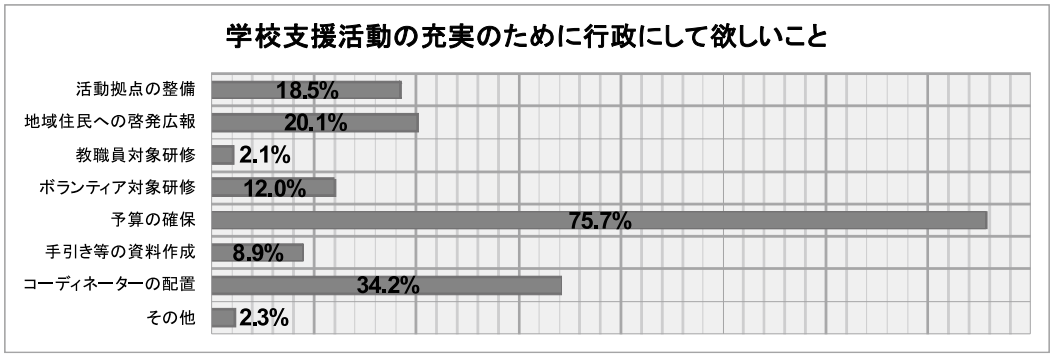


図4.1-9 学校支援活動の充実のために行政に求められること（２つまで選択）

4.1-10　学校支援充実のための学校の取り組みに関すること

図 4.1-10 は、学校支援活動を充実するために必要な学校の取り組みについて示したものである。

「学校支援活動を充実するため学校は何をしたらいいですか」という質問について、「して欲しい活動の情報発信」が 64.2%と最も多く、「地域の機関や団体・組織との連携」（31.1%）、「実施している学校支援活動の情報発信」（28.6%）、「教職員と地域住民の日常的な交流」（22.7%）、「学校全体としての取り組み」（15.7%）が多くなっている。

「学校開放」という視点からも学校からの情報発信は重要であり、地域住民の学校理解を促進するうえで重要な取り組みである。

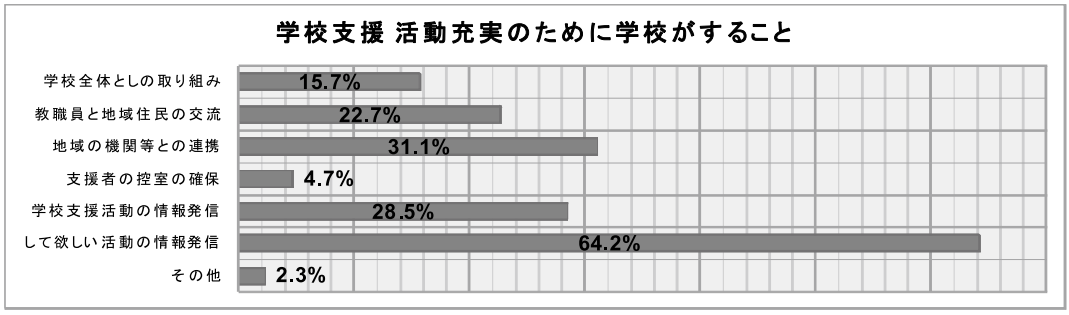


図4.1-10 学校支援活動の充実のために学校すること（２つまで選択）

4.2　クロス集計結果及び項目の相関

調査項目においての様々なクロス集計を行ったが、ここでは学校教育への支援活動に関係が深いと思われる項目のうち、表 4.2 を参考にして有意な相関がみられる項目を中心に示すこととする。

表4.2 子ども、家庭、地域、学校に関する相関表

	家庭教育力	学校へ協力	道徳公共心	学習意欲	地域の関り	情報提供	学校へ関り	支援受入状況	支援の賛否
家庭教育力	1	.220(**)	.442(**)	.393(**)	.227(**)	.108(*)	.032	.069	.108(*)
学校へ協力	.220(**)	1	.210(**)	.237(**)	-.029	-.115(*)	-.142(**)	-.111(*)	-.086
道徳公共心	.442(**)	.210(**)	1	.417(**)	.228(**)	.032	-.072	-.009	.043
学習意欲	.393(**)	.237(**)	.417(**)	1	.109(*)	-.063	-.077	-.096	.002
地域の関り	.227(**)	-.029	.228(**)	.109(*)	1	.223(**)	.092	.208(**)	.312(**)
情報提供	.108(*)	-.115(*)	.032	-.063	.223(**)	1	.381(**)	.363(**)	.249(**)
学校へ関り	.032	-.142(**)	-.072	-.077	.092	.381(**)	1	.468(**)	.402(**)
支援受入状況	.069	-.111(*)	-.009	-.096	.208(**)	.363(**)	.468(**)	1	.521(**)
支援の賛否	.108(*)	-.086	.043	.002	.312(**)	.249(**)	.402(**)	.521(**)	1

* p ＜ 0.05　** p ＜ 0.01

4.2-1　「子どもの学習意欲の低下」のクロス結果

「子どもの学習意欲」は学校教育の基盤となることであり、教職員から見た「学習意欲の低下」については前述したように 40.7%（地域住民：42.0%）が「低下した」と答えており、この「学習意欲の低下」と有意な相関がみられる項目について示すこととする。

4.2-1-1　「家庭の教育力の低下」との関係

「学習意欲の低下」と「家庭の教育力の低下」の関係を示したものが図 4.2-1-1 である。

この図から、「学習意欲が低下したととても思う」と回答したうちの 100%が「家庭の教育力が低下したと思う」（とても低下した：11 人、低下した：9 人）と回答し、「学習意欲が低下したと思う」と回答したうちの 87.5%が「家庭の教育力が低下したと思う」（とても低下した：21 人、低下した：98 人）と回答している。さらに、「学習意欲が低下したとあまり思わない」と回答したうちの 66.5%が「地域の教育力が低下したと思う」（とても低下した：16 人、低下した：125 人）と回答し、「学習意欲が低下した全く思わない」と回答したうちの 33.3%が「地域の教育力が低下したと思う」（とても低下した：0 人、低下した：4 人）と回答している。このことから、「学習意欲の低下」と「家庭の教育力の低下」には、「学習意欲が低下している」と回答した人ほど「家庭の教育力が低下している」と見ているという有意な相関があることがわかる。

以下、このような有意な相関がみられる項目について、教職員の回答をクロスしながら分析することとする。

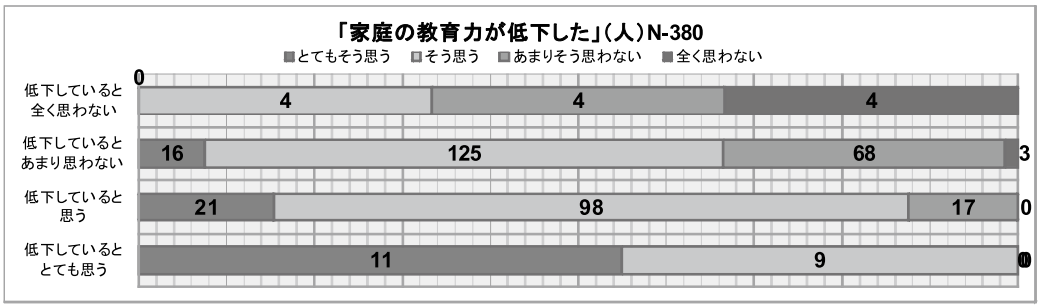


図4.2-1-1 「学習意欲の低下」と「家庭の教育力の低下」の関係

4.2-1-2 「家庭の学校への協力状況」との関係

「学習意欲の低下」と「家庭の学校への協力状況」の関係を示したものが図 4.2-1-2 である。

この図から、「学習意欲が低下したととても思う」という回答の中での「学校に協力的でない家庭が多いととても思う」「思う」の割合から、徐々に「学習意欲が低下したと全く思わない」という回答へ目を移していくと、「学習意欲の低下」と「学校に協力的でない家庭が多い」には、「学習意欲が低下していると思う」と回答した人ほど「学校に協力的でない家庭が多い」と見ているという有意な相関があることがわかる。

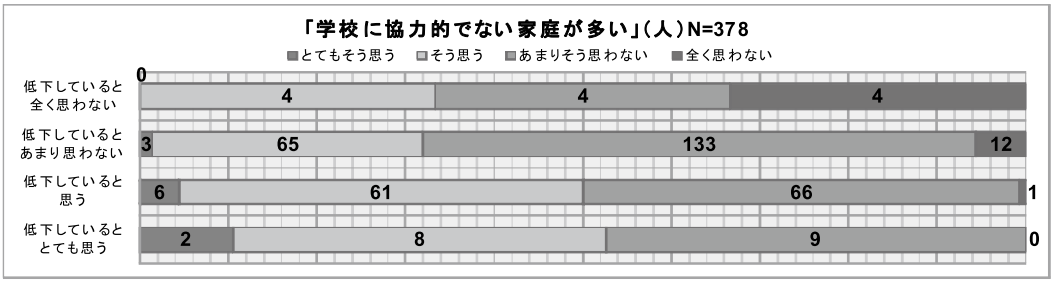


図4.2-1-2 「学習意欲の低下」と「学校に協力的でない家庭」の関係

4.2-1-3 「子どもの道徳心や公共心の薄れ」との関係

「学習意欲の低下」と「子どもの道徳心や公共心の薄れ」の関係を示したものが図 4.2-1-3 である。

この図から、「学習意欲が低下したととても思う」という回答の中での「子どもの道徳心や公共心が薄れているととても思う」「思う」の割合から、徐々に「学習意欲が低下したと全く思わない」という回答へ目を移していくと、「学習意欲の低下」と「子どもの道徳心や公共心の薄れ」には、「学習意欲が低下している」と回答した人ほど「子どもの道徳心や公共心が薄れている」と見ているという有意な相関があることがわかる。

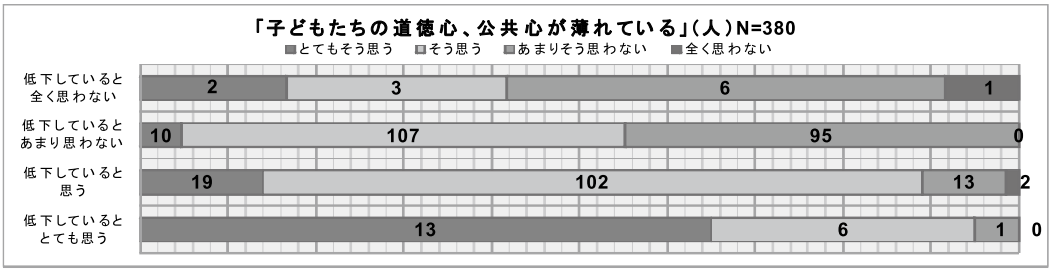


図4.2-1-3　「子どもの学習意欲の低下」と「子どもの道徳心や公共心の薄れ」の関係

4.2-2　「勤務校における学校支援の必要性」のクロス結果

学校支援活動は、その学校の教職員の意識が重要であり、前述したように、教職員の89.6%が「必要である」と回答しており、この「学校支援活動の必要性」と有意な相関がみられる項目について示すこととする。

4.2-2-1　「地域の子どもに大人が関わる必要」との関係

「学校支援の必要性」と「地域の子どもに大人が関わる必要」の関係を示したものが図 4.2-1-1 である。

この図から、「学校支援活動がとても必要と思う」という回答の中での「地域の子どもに大人が関わることが必要ととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く必要ない」という回答へ目を移していくと、「学校支援の必要性」と「地域の子どもに大人が関わる必要」には、「学校支援活動が必要と思う」と回答した人ほど「地域の子どもに大人が関わる必要がある」と見ているという有意な相関があることがわかる。

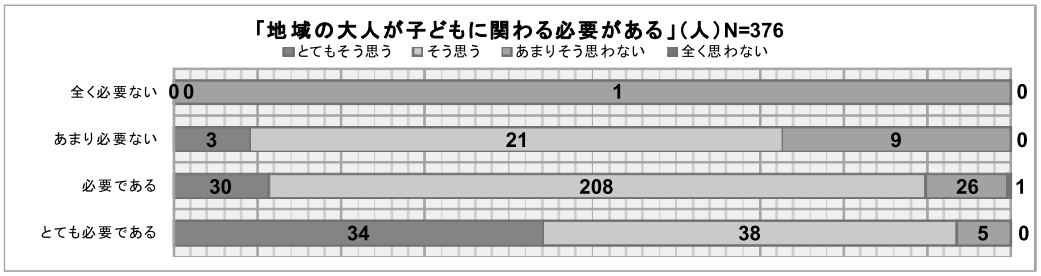


図4.2-1-1「学校支援の必要性」と「地域の子どもに大人が関わる必要」の関係

4.2-2-2　「学校の情報を伝えている」との関係

「学校支援の必要性」と「学校の情報の伝達状況」の関係を示したものが図 4.2-2-2 である。

この図から、「学校支援活動がとても必要と思う」という回答の中での「学校の情報を伝えているととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く必要ない」という回答へ目を移していくと、「学校支援の必要性」と「学校の情報の伝達状況」には、「学校支援活動が必要と思う」と回答した人ほど「学校の情報を伝えている」と見ているとい

う有意な相関があることがわかる。

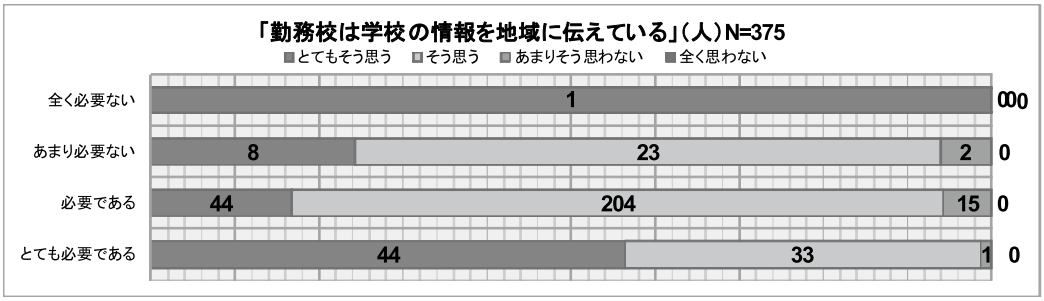


図4.2-2-2 「学校支援の必要性」と「学校の情報の伝達状況」の関係

4.2-2-3 「学校への地域住民の協力状況」との関係

「学校支援の必要性」と「学校への地域住民の協力状況」の関係を示したものが図4.2-2-3である。

この図から、「学校支援活動がとても必要と思う」という回答の中での「学校へ協力してくれる人が多いととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く必要ない」という回答へ目を移していくと、「学校支援の必要性」と「学校への地域住民の協力状況」には、「学校支援活動が必要と思う」と回答した人ほど「学校へ協力してくれる地域住民が多い」と見ているという有意な相関があることがわかる。

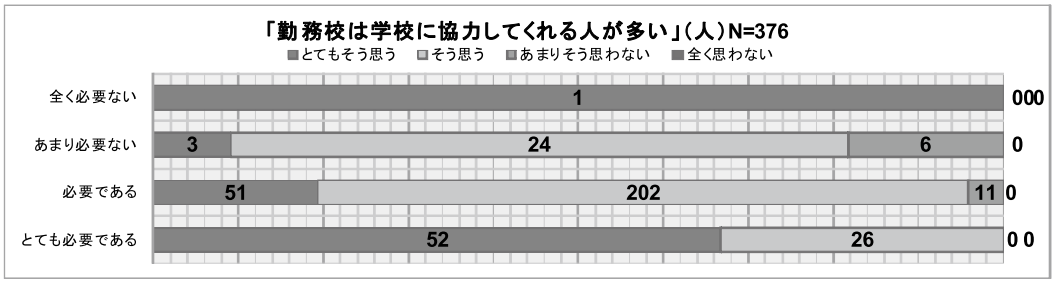


図4.2-2-3 「学校支援の必要性」と「学校への地域住民の協力状況」の関係

4.2-2-4 「学校支援活動の受け入れ状況」との関係

「学校支援の必要性」と「学校支援活動の受け入れ状況」の関係を示したものが図4.2-2-4である。

この図から、「学校支援活動がとても必要と思う」という回答の中での「学校は支援活動を受け入れているととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く必要ない」という回答へ目を移していくと、「学校支援の必要性」と「学校支援活動の受け入れ状況」には、「学校支援活動が必要と思う」と回答した人ほど「これまで、学校支援活動を受け入れている」という有意な相関があることがわかる。

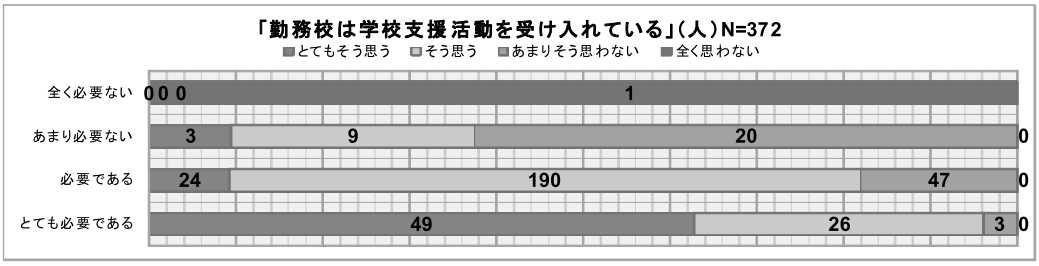


図4.2-2-4 「学校支援の必要性」と「学校支援活動の受け入れ状況」の関係

4.2-2-5 「学校支援活動への期待」との関係

「学校支援の必要性」と「学校支援活動への期待」の関係を示したものが図 4.2-2-5 である。

この図から、「学校支援の必要性」と「学校支援活動への期待」には特別な関係は見られず、すべての回答において同じような割合で、それぞれの期待がある。

表 4.2-2-1 は、期待される効果についてクロス集計したものであり、「学校全体としての地域との協力・連携」と回答した教職員について見ると、「学校内での関心・意欲・態度の向上」(22.2%)、「学校環境の整備」(17.0%)、「基本的な生活習慣の向上」(8.1%)を期待していることなどがわかる。

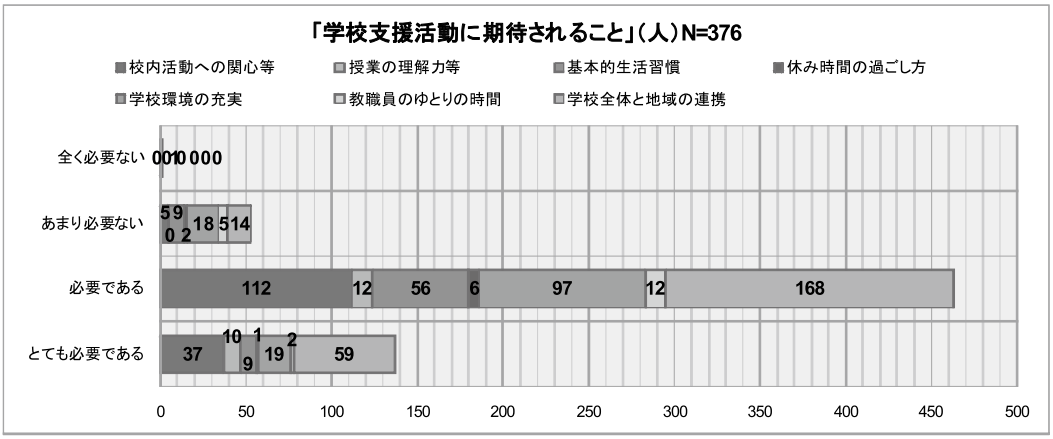


図4.2-2-5 「学校支援の必要性」と「学校支援活動への期待」の関係

表4.2-2-1 期待される効果に関するクロス集計

	校内で関心等	授業理解力等	生活習慣	休み時間	学校環境	教職員ゆとり	全体的連携
校内で関心等	-	12人:3.1%	17人:4.4%	2人:0.5%	25人:6.5%	3人:0.8%	85人:22.2%
授業理解力等	12人:3.1%	-	0人:0%	0人:0%	2人:0.5%	1人:0.3%	4人:1.0%
基本的生活習慣	17人:4.4%	0人:0%	-	1人:0.3%	18人:4.7%	3人:0.8%	31人:8.1%
休み時間	2人:0.5%	0人:0%	1人:0.3%	-	1人:0.3%	0人:0%	5人:1.3%
学校環境	25人:6.5%	2人:0.5%	18人:4.7%	1人:0.3%	-	8人:2.1%	65人:17.0%
教職員ゆとり	3人:0.8%	1人:0.3%	3人:0.8%	0人:0%	8人:2.1%	-	4人:1.0%
全体的連携	85人:22.2%	4人:1.0%	31人:8.1%	5人:1.3%	65人:17.0%	4人:1.0%	-

第５章　地域住民の調査の結果

5.1　単純集計結果

5.1-1　地域住民に関する基礎データ

表１の調査対象一覧表により調査したものを、基礎データとして市町村別、年代別、通学児童生徒の有無、性別、居住年数別に示したものが図 5.1-1 である。学校支援地域本部の規模によって、市町村別のデータ数が異なっている

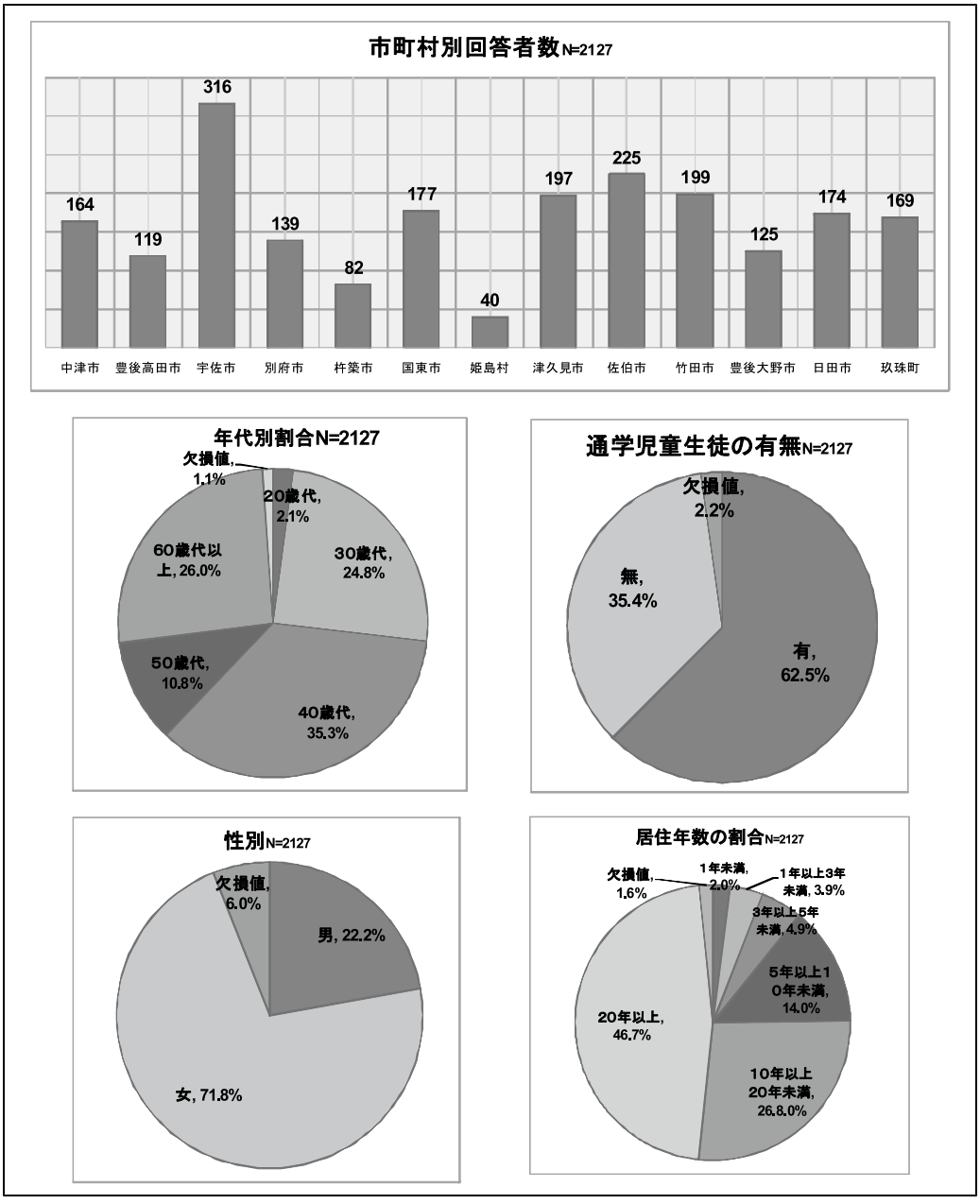


図5.1-1 地域住民に関する基礎データ

5.1-2　居住する地域に関すること

図 5.1-2 は、自分の子どもの頃に比べての、居住する地域の教育力や大人同士の関係についての状況を示したものである。

「地域の教育力が低下していますか」については「低下している」が 47.9%、「地域が安全でなくなりましたか」については、「安全でなくなった」が 37.0%となっている。地域の大人同士の繋がりに関する項目については、「挨拶をする」が 88.2%、「交流が盛ん」が 67.1%となっている。また、「大人が子どもに関わっているか」については、「関わっている」が 68.0%となっている。

このことから、地域住民の繋がりや子どもへの関わりについては、約 70%の住民が肯定的であるが、「地域の教育力の低下」の指摘が 50%程度あることから、今後は地域全体としての教育力の向上の方策が求められる。

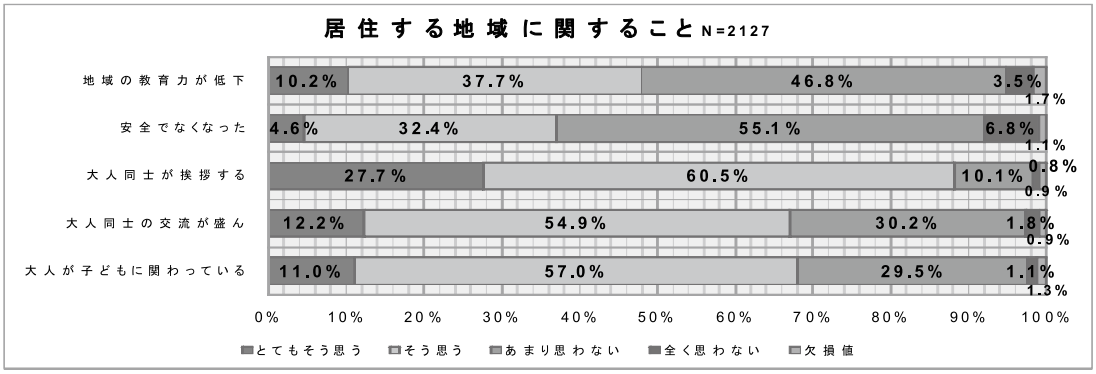


図5.1-2 地域住民の状況

5.1-3　家庭に関すること

図 5.1-3 は、自分の子どもの頃に比べての、今の家庭の様子についての状況を示したものである。

「学校に協力的でない家庭が多いですか」については、「多い」が 37.1%、「家庭の教育力が低下していますか」については、「低下している」が 47.4%となっている。

「家庭の教育力の低下」（47.4%）と「地域の教育力の低下」（47.9%）がほぼ同じ割合である。

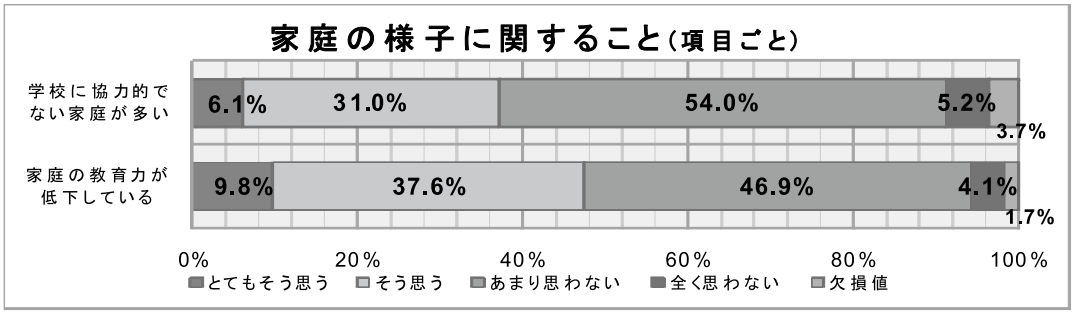


図5.1-3 家庭教育の状況

5.1-4　地域の子どもに関すること

図 5.1-4 は、自分の子どもの頃に比べての、地域の子どもの様子についての状況を示したものである。

「子どもたちの学習意欲が低下していますか」については、「低下している」が 42.0%、「子どもたちの道徳心や公共心が薄れていますか」については、「薄れている」が 66.1%となっている。

このことから、保護者でない地域住民にとっては、「学習意欲の低下」を感じる場が少ないこともあるが、「学習意欲の低下」より、「道徳心や公共心の薄れ」の方を強く感じていることがうかがえる。

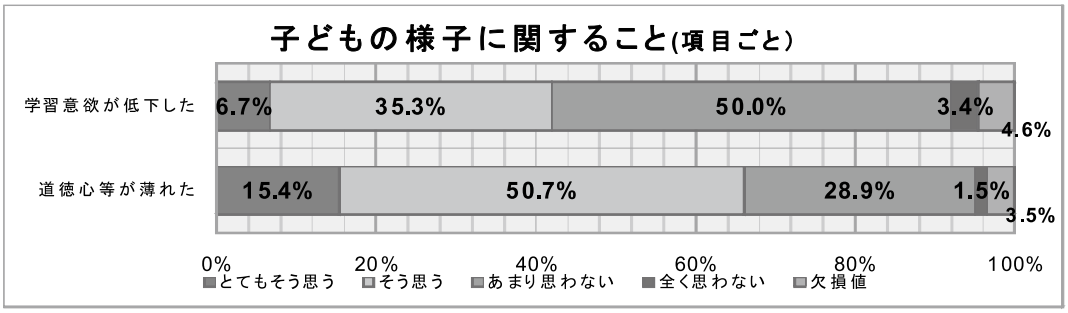


図5.1-4 地域の子どもの状況

5.1-5　地域住民の子ども・学校との繋がりに関すること

図 5.1-5 は、子どもや学校との関係についての意識に関すること示したものである。

「地域の子どもたちに地域の大人が積極的に関わる必要がありますか」については、「必要がある」が 82.3%、「あなた自身は学校に関心がありますか」については、「関心がある」が 73.6%、「学校の行事などの情報が伝わってきますか」については、「伝わってくる」が 73.3%となっている。

このことから、学校教育活動への支援に関する各種条件は 70%以上が満たされていることとなるが、「あなたは、今後、学校教育活動への支援をしますか」等の項目とのクロスについては、後述することとする。

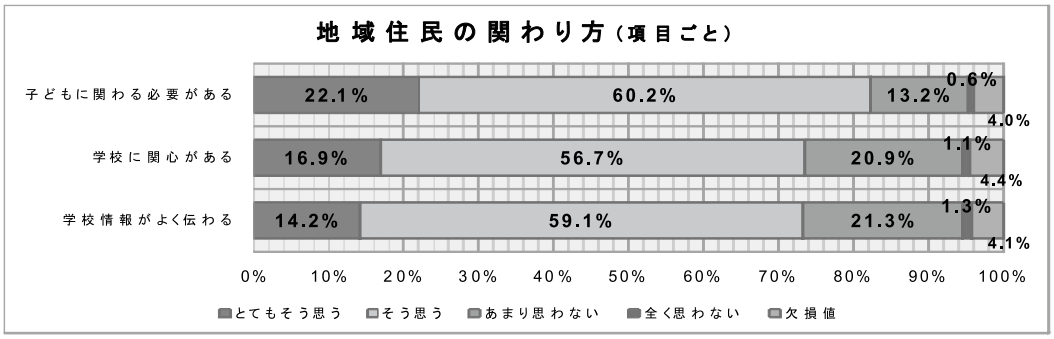


図5.1-5　子ども・学校との繋がりに関する状況

5.1-6　学校支援活動への参加経験に関すること

図 5.1-6 は、地域住民がこれまでの学校教育への支援を行ってきた状況に関することを示したものである。

「今まで学校に対するボランティア活動に参加したことがありますか」については、「ある」が 50.9%となっており、そのうち、通学する子どもがいない住民では 37.5%、通学する子どもがいる保護者は 58.9%となっている。「経験がある人」の「経験した学校支援活動の内容」については、安全パトロールや学校環境の整備などが多くなっており、通学する子どもがいない住民にとっても気軽に参加できる学校支援の活動があることがわかる。

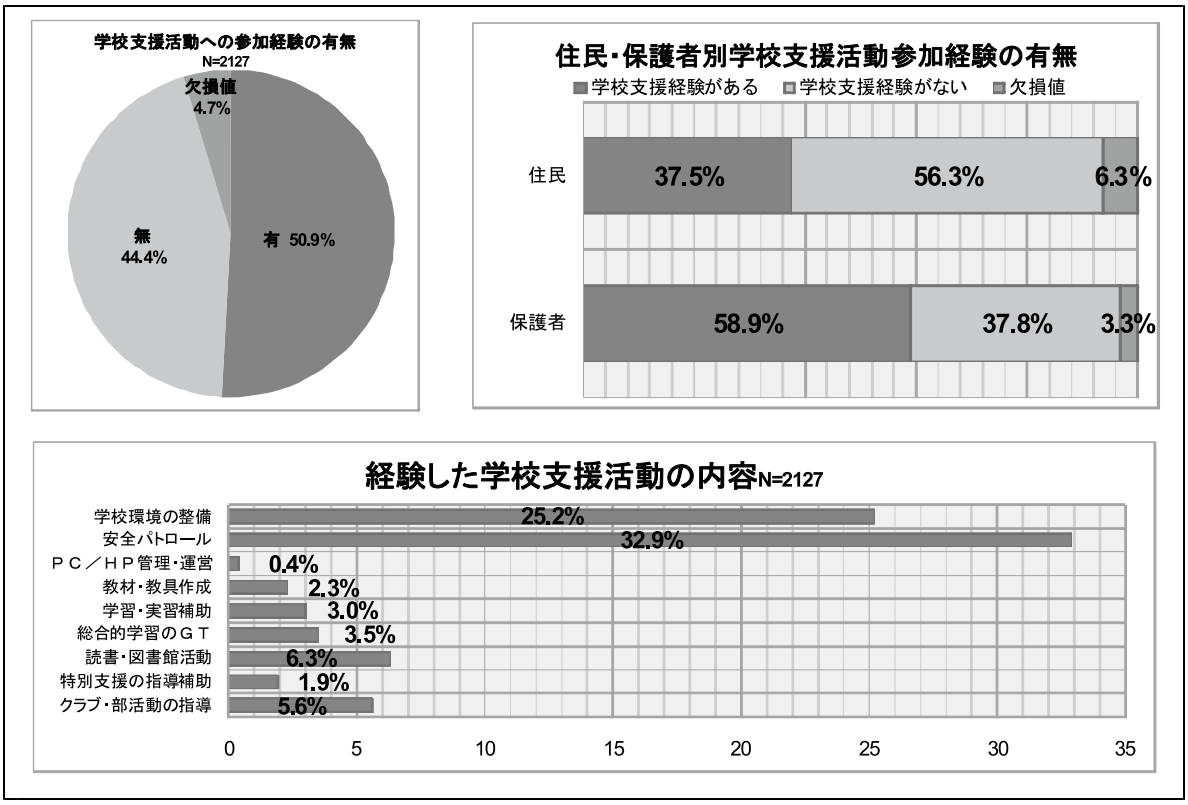


図5.1-6　学校支援活動への参加経験に関すること（経験した活動内容をすべて選択）

5.1-7　学校支援活動への参加のきっかけに関すること

図 5.1-7 は、学校教育への支援をした人の、参加のきっかけに関することを示したものである。

学校支援のきっかけは「学校だより等を見て」が 19.8%と多く、「授業参加等での募集」が 11.8%となっており、保護者にとってはこうした情報や呼びかけが有効であることがうかがえる。さらに、「学校から個人的に誘われて」（10.8%）、「すでに参加している人やコーディネーターに誘われて」（6.6%）など、人脈を通じての参加が多くなっていることがわかる。

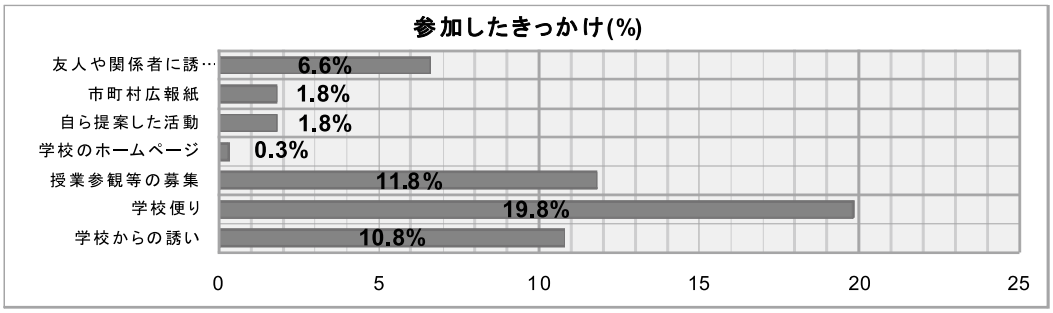


図5.1-7　学校支援活動への参加のきっかけ（経験のある人：２つまで選択）

5.1-8　学校支援活動への参加理由に関すること

図 5.1-8 は、学校支援活動を経験した人の参加の理由に関することを示したものである。

学校支援への参加理由は「子どもが通学している」という保護者の立場からが 32.8%、「学校の教育活動に協力したい」が 20.2%、「学校での子どもの様子を知りたい」が 11.5%、「地域のためになる」が 10.5%の順になっている。少数ではあるが「自分の生きがいになる」（3.6%）、「自分の知識・技能を生かしたい」（2.5%）などもあり、単に「学校のため」でなく、「子どもの育成」や「自分のため」と思っていることがうかがえる。

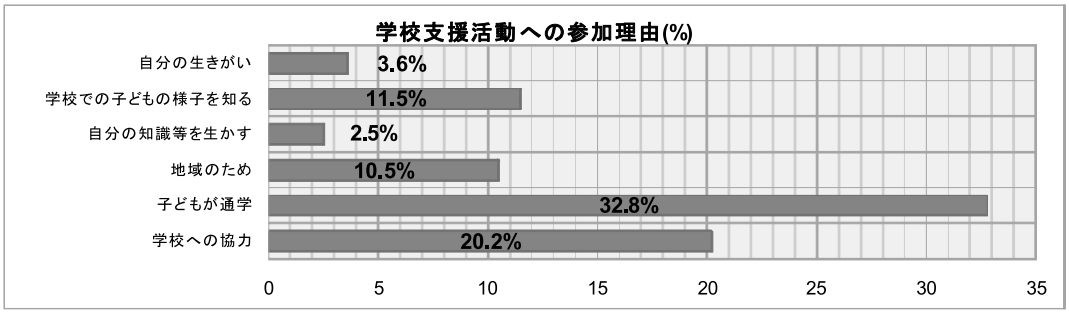


図5.1-8　学校支援活動への参加理由（経験のある人：２つまで選択）

5.1-9　学校支援活動へ参加しての自分の変化に関すること

図 5.1-9 は、学校支援活動を経験した人の、参加してからの自分の変化に関することを示したものである。

自分の変化については「学校や子どもの様子がわかってきた」が 52.6%と最も多く、学校を知っていただくという、学校支援活動の大きな目的が果たせることがわかる。次いで、「人と知り合う機会が増えた」（43.7%）、「子どもへの関心が高まった」（34.7%）、「周囲の人と学校の話題を話すようになった」（21.2%）の順になっている。また、少数ではあるが、「地域のために何かやってみたいと考えるようになった」（11.0%）、「生活に張りができた」（8.1%）などもある。

このことから、学校支援活動の目的としての地域住民の学校理解や、大人自身の生きがいや繋がりなどに効果が期待できることがわかる。

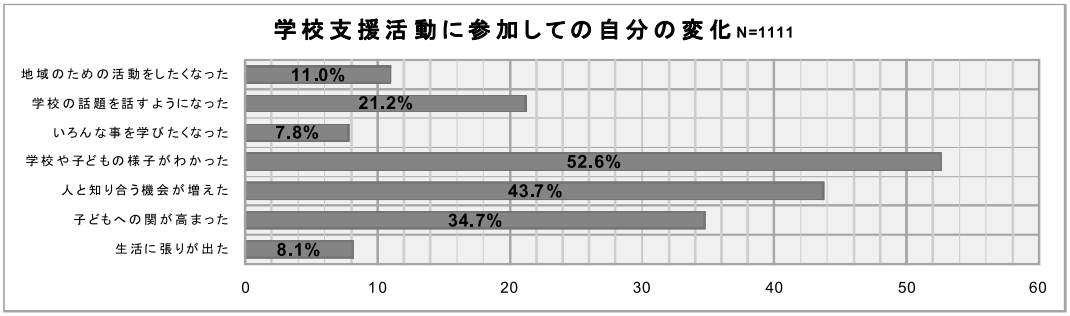


図5.1-9　学校支援活動へ参加しての自分の変化（経験のある人：２つまで選択）

5.1-10　今後の学校支援活動への参加意志に関すること

図 5.1-10-1 は、今後学校教育への支援活動に参加する意志について示したものである。

「参加したい」が 61.3%、「参加したくない」が 30.3%となっている。前述の「地域の子どもたちに地域の大人が積極的に関わる必要がある」の 82.3%と比較すると少なくなっているのは、地域住民の関わりは必要だが、「学校へ行って活動する（学校を支援する）」ことへの抵抗や「地域において子どもに関わる活動をしたい」、「必要だが自分はできない（したくない）」などが考えられる。

また、「したい活動」は、「安全パトロール」（34%）、「環境整備」（24%）、「読書・図書館活動」（11%）など、これまでした活動と同じことが多くなっている。

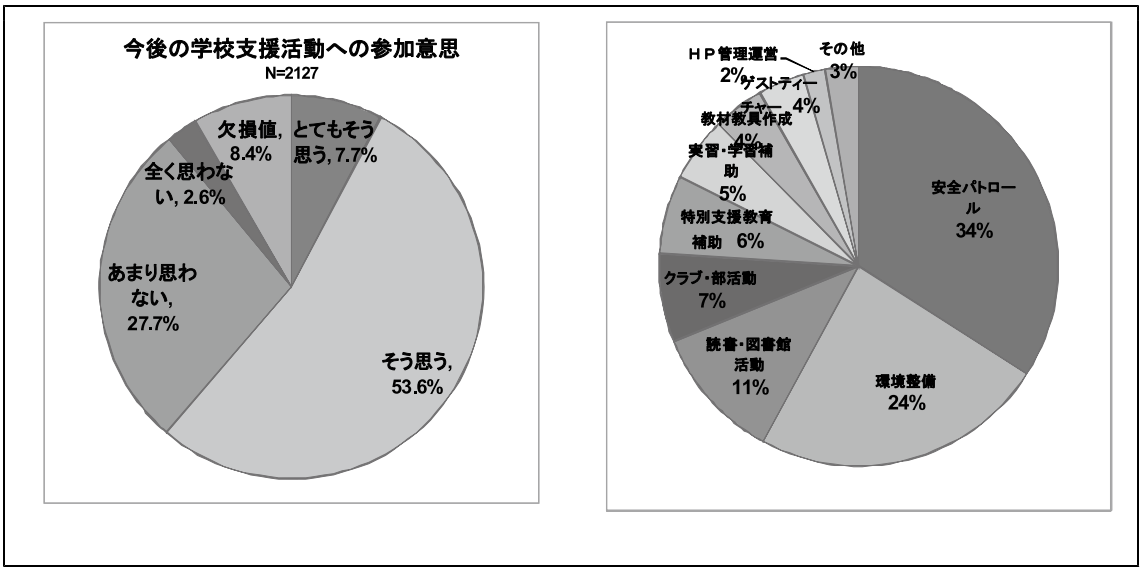


図5.1-10-1　今後の学校支援活動への参加意志

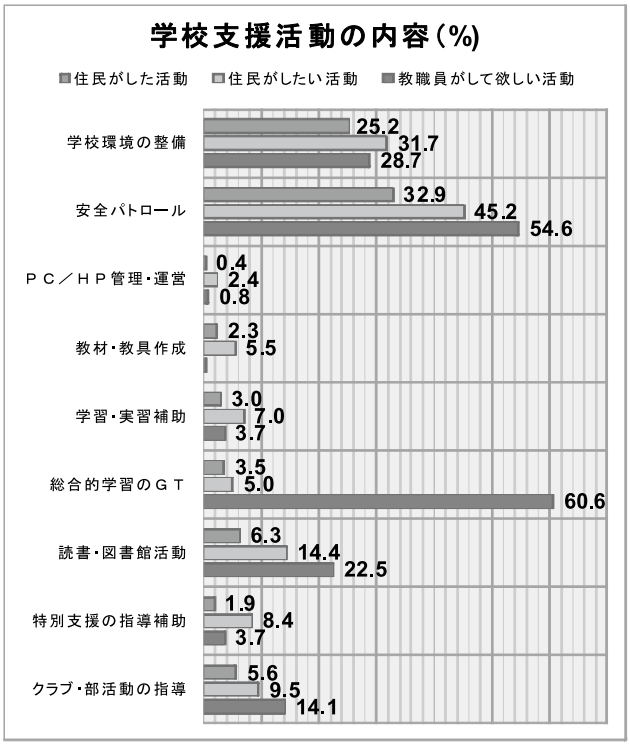


図5.1-10-2　学校支援活動の内容（２つまで選択）

図 5.1-10-2 は、地域住民が「した活動」「したい活動」と、教職員が「して欲しい活動」を比較して示したものである。

地域住民が「した活動」「したい活動」と教職員が「して欲しい活動」が一致して多いのが「安全パトロール」と「学校環境の整備」である。教職員が「して欲しい活動」と願っていても、地域住民にとって抵抗があるのが「総合的な学習の時間等におけるゲストティチャー」であることがわかる。よって、地域住民への学校支援の依頼については、学校での充分な検討が必要である。

5.1-11　学校支援充実ための行政への要望に関すること

図 5.1-11 は、地域住民が学校への支援活動を充実するために行政にして欲しいことを示したものである。

「活動に必要な予算の確保」が 38.6%、「地域住民への啓発・広報」が 29.3%、「コーディネーターの配置」が 25.0%の順になっている。この中で、地域住民、教職員の意識の開きが大きい「予算の確保」について比較すると、教職員では 75.7%、地域住民は 38.6%となっており、次いで「コーディネーターの配置」については、教職員では 34.2%、地域住民は 25.0%となっている。

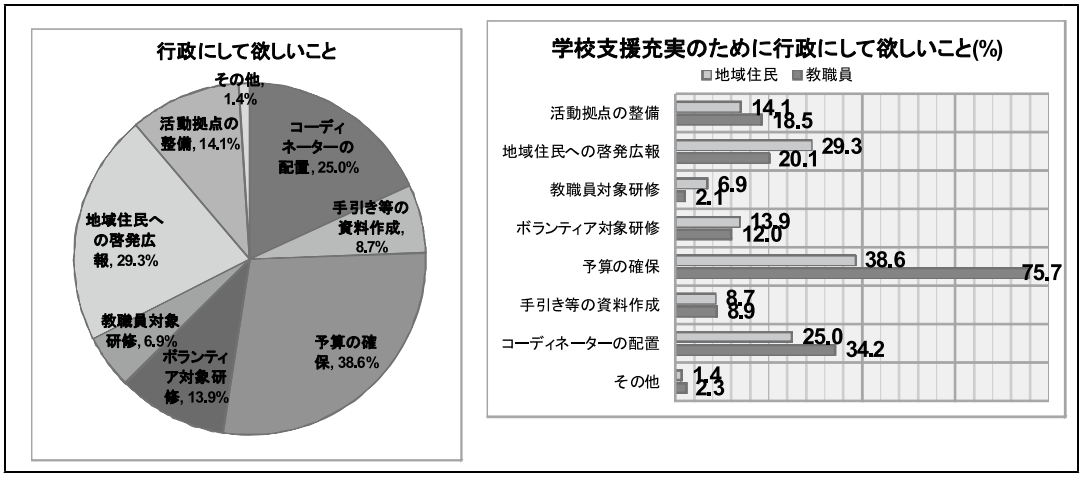


図5.1-11　学校支援活動をするための行政の役割（２つまで選択）

5.1-12　学校支援活動をするための学校の役割に関すること

図 5.1-12 は、地域住民が学校への支援活動を行うために学校にして欲しいこと（学校がすること）を示したものである。

「学校がして欲しい内容を情報発信する」が 59.4%、「学校での支援活動の状況を情報発信する」が 26.0%と情報提供の充実を望んでいる。その他、「学校と地域住民の交流機会をつくること」(24.8%)、「地域の機関や自治会と連携すること」(20.0%) となっている。このことについて、地域住民と教職員の意識を比較してみるとほぼ同じ傾向であり、教職員も含めて「情報提供の充実」が挙げられ、その仕組み作りの検討が必要である。

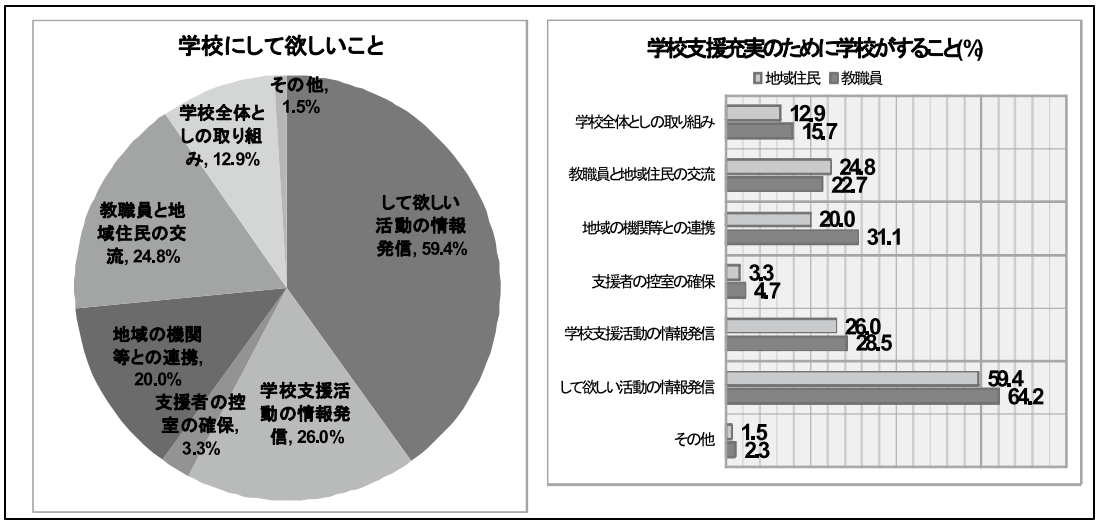


図5.1-12　学校支援活動をするための学校の役割（２つまで選択）

5.2　クロス集計結果及び項目の相関

調査項目においての様々なクロス集計を行ったが、ここでは学校教育への支援活動に関係が深いと思われる項目のうち、表 5.2 を参考にして有意な相関がみられる項目を中心に示すこととする。

表5.2　子ども、地域、支援活動に関する相関表

	地域関り	大人交流	地域挨拶	地域教育力	家庭教育力	学校協力	道徳心等	学校情報	学校関心	必要性	参加経験	活動意思
学習意欲	-.016	-.037	-.050(*)	.401(**)	.352(**)	.235(**)	.399(**)	-.045(*)	.004	.067(**)	.018	.064(**)
学校へ関心	.267(**)	.252(**)	.224(**)	-.053(*)	-.028	-.014	-.012	.374(**)	1	.429(**)	.187(**)	.390(**)
必要性	.156(**)	.175(**)	.178(**)	.053(*)	.069(**)	.145(**)	.120(**)	.168(**)	.429(**)	1	.139(**)	.382(**)
ボ参加経験	.127(**)	.074(**)	.023	.001	0	.001	0.04	.108(**)	.187(**)	.139(**)	1	.344(**)
活動意思	.192(**)	.209(**)	.182(**)	.047(*)	.036	.073(**)	.041	.160(**)	.390(**)	.382(**)	.344(**)	1

* p ＜ 0.05　** p ＜ 0.01

5.2-1　「子どもの学習意欲の低下」のクロス結果

「子どもの学習意欲」は学校教育の基盤となることであり、地域住民から見た「学習意欲の低下」については前述したように 42.0%（教職員：40.7%）が「低下した」と答えており、この「学習意欲の低下」と有意な相関がみられる項目について示すこととする。

5.2-1-1　「地域の教育力の低下」との関係

「学習意欲の低下」と「地域の教育力の低下」の関係を示したものが図 5.2-1-1 である。

この図から、「学習意欲が低下したととても思う」と回答したうちの 85.7%が「地域の教育力が低下したと思う」（とても低下した：59 人・低下した：61 人）と回答し、「学習意欲が低下したと思う」と回答したうちの 64.7%が「地域の教育力が低下したと思う」（とても低下した：88 人・低下した：393 人）と回答している。さらに、「学習意欲が低下したとあまり思わない」と回答したうち 34.4%が「地域の教育力が低下したと思う」（とても低下した：51 人・低下した：312 人）と回答し、「学習意欲が低下したと全く思わない」と回答したうち 19.4%が「地域の教育力が低下したと思う」（とても低下した：6 人・低下した：8 人）と回答している。このことから、「学習意欲の低下」と「地域の教育力の低下」には、「学習意欲が低下している」と回答した人ほど「地域の教育力が低下している」と見ているという有意な相関があることがわかる。

以下、このような有意な相関がみられる項目について、地域住民の回答をクロスしながら分析することとする。

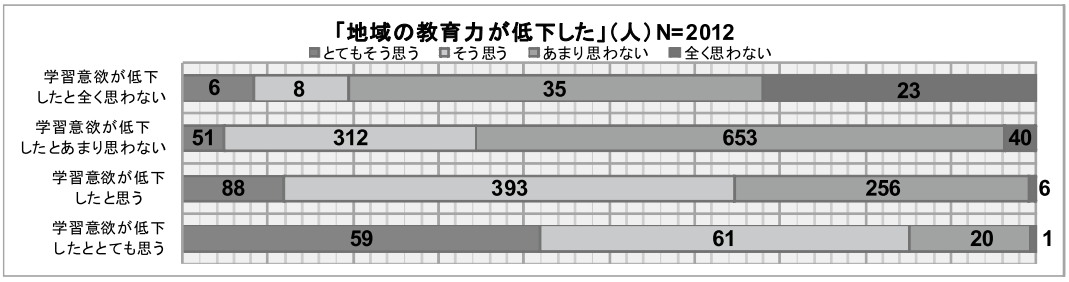


図5.2-1-1　「子どもの学習意欲の低下」と「地域の教育力の低下」の関係

5.2-1-2　「家庭の教育力の低下」との関係

「学習意欲の低下」と「家庭の教育力の低下」の関係を示したものが図 5.2-1-2 である。

この図から、「学習意欲が低下したととても思う」という回答の中での「家庭の教育力が低下したととても思う」「思う」の割合から、徐々に「学習意欲が低下したと全く思わない」という回答へ目を移していくと、「地域の教育力の低下」と同様に、「学習意欲の低下」と「家庭の教育力の低下」には、「学習意欲が低下している」と回答した人ほど「家庭の教育力が低下している」と見ているという有意な相関があることがわかる。

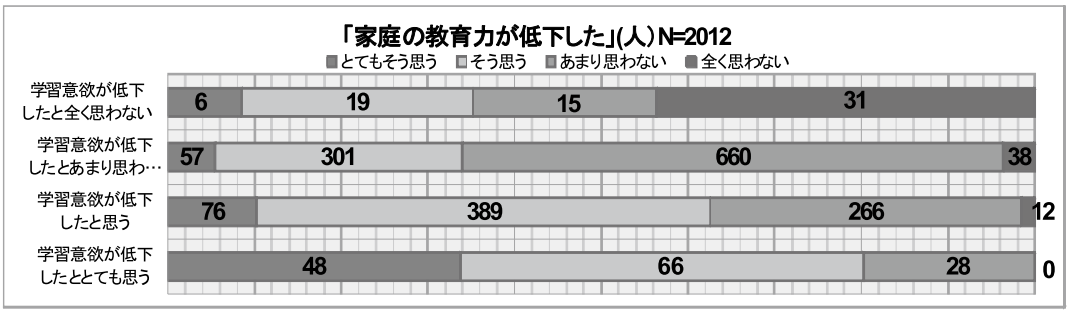


図5.2-1-2　「子どもの学習意欲の低下」と「家庭の教育力の低下」の関係

5.2-1-3　「子どもの道徳心や公共心の薄れ」との関係

「学習意欲の低下」と「子どもの道徳心や公共心の薄れ」の関係を示したものが図5.2-1-3である。

この図から、「学習意欲が低下したととても思う」という回答の中での「子どもの道徳心や公共心が薄れているととても思う」「思う」の割合から、徐々に「学習意欲が低下したと全く思わない」という回答へ目を移していくと、前述の項目と同様に、「学習意欲の低下」と「子どもの道徳心や公共心の薄れ」には、「学習意欲が低下している」と回答した人ほど「子どもの道徳心や公共心が薄れている」と見ているという有意な相関があることがわかる。

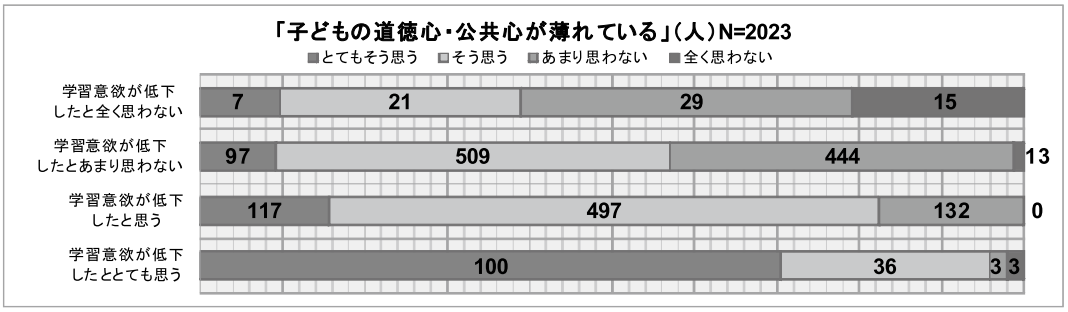


図5.2-1-3　「子どもの学習意欲の低下」と「子どもの道徳心や公共心の薄れ」の関係

5.2-1-4　「学校への家庭の協力状況」との関係

「学習意欲の低下」と「学校への家庭の協力状況」の関係を示したものが図5.2-1-4である。

この図から、「学習意欲が低下したととても思う」という回答の中での「学校に協力的でない家庭が多いととても思う」「思う」の割合から、徐々に「学習意欲が低下したと全く思わない」という回答へ目を移していくと、前述の項目と同様に、「学習意欲の低下」と「学校に協力的でない家庭が多い」には、「学習意欲が低下している」と回答した人ほど「学校に協力的でない家庭が多い」と見ているという有意な相関があることがわかる。

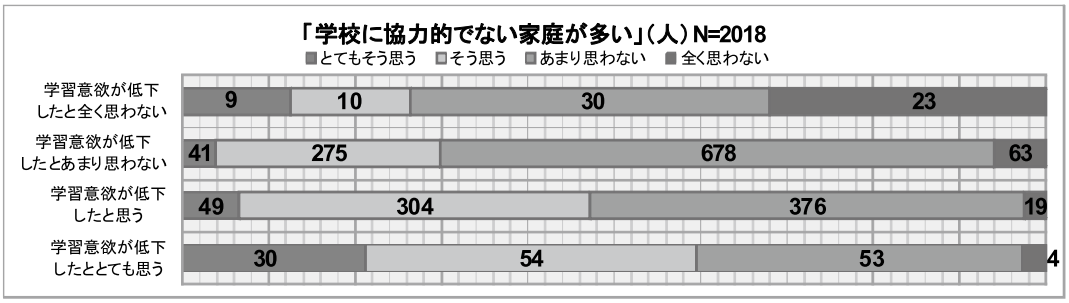


図5.2-1-4　「子どもの学習意欲の低下」と「学校への家庭の協力状況」の関係

5.2-2　「地域の学校への関心」のクロス結果

地域住民の学校への関心は、学校教育への支援活動を推進するうえで重要な要素であることから、地域住民の「学校への関心」と有意な相関がみられる項目について示すこととする。

5.2-2-1　「地域の大人の子どもへの関わり」との関係

「地域の学校への関心」と「地域の大人の子どもへの関わり」の関係を示したものが図 5.2-2-1 である。

この図から、「とても関心がある」という回答の中での「地域の大人が子どもに関わっているととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く関心がない」という回答へ目を移していくと、「地域の学校への関心」と「地域の大人が子どもに関わっている」には、「地域の学校へ関心がある」と回答した人ほど「地域の大人が子どもに関わっている」と見ているという有意な相関があることがわかる。

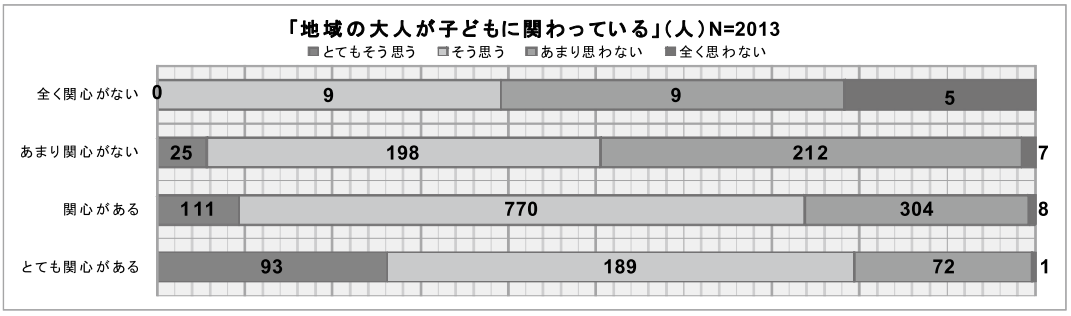


図5.2-2-1　「地域の学校への関心」と「地域の大人の子どもへの関わり」の関係

5.2-2-2　「地域の大人同士の交流」との関係

「地域の学校への関心」と「地域の大人同士の交流」の関係を示したものが図 5.2-2-2 である。

この図から、「とても関心がある」という回答の中での「地域の大人同士の交流が盛んであるととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く関心がない」という回答へ

目を移していくと、「地域の学校への関心」と「地域の大人同士の交流が盛んである」には、「地域の学校へ関心がある」と回答した人ほど「地域の大人同士の交流が盛んである」と見ているという有意な相関があることがわかる。

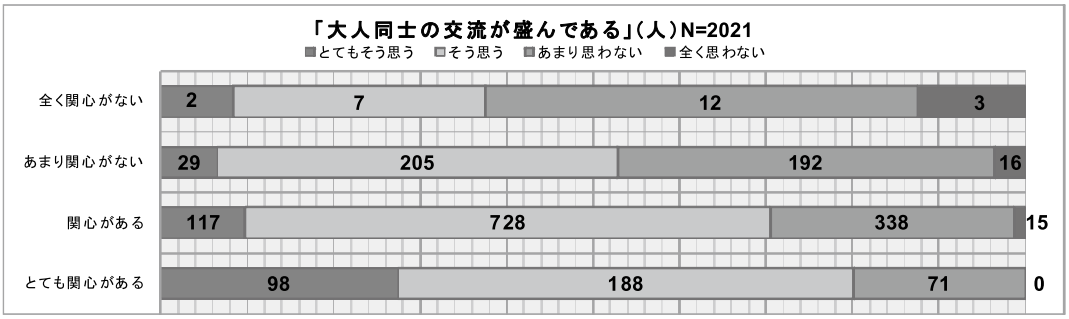


図5.2-2-2　「地域の学校への関心」と「地域の大人同士の交流」の関係

5.2-2-3　「学校の情報の伝わり方」との関係

「地域の学校への関心」と「学校の情報の伝わり方」の関係を示したものが図 5.2-2-3 である。

この図から、「とても関心がある」という回答の中での「学校の情報が伝わってくるととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く関心がない」という回答へ目を移していくと、「地域の学校への関心」と「学校の情報提供」には、「地域の学校へ関心がある」と回答した人ほど「学校の情報が伝わってくる」と感じているという有意な相関があることがわかる。このことから、特に、「地域の学校へ関心がある」人への情報提供のシステムを検討する必要がある。

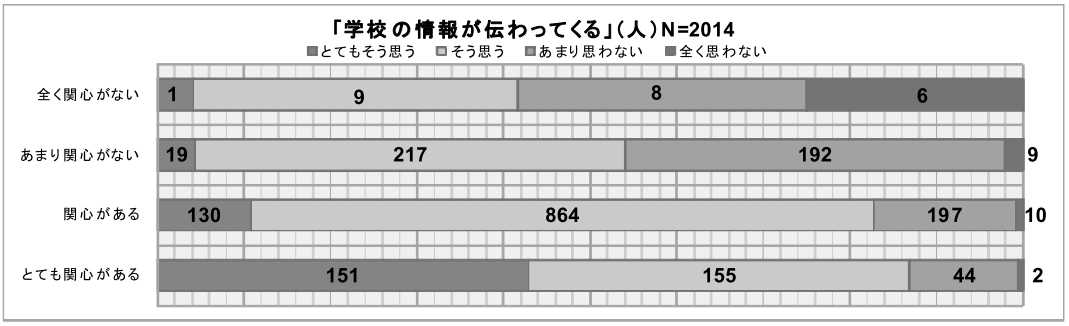


図5.2-2-3　「地域の学校への関心」と「学校の情報の伝わり方」の関係

5.2-2-4　「地域の子どもに大人が関わる必要性」との関係

「地域の学校への関心」と「地域の子どもに大人が関わる必要性」の関係を示したものが図 5.2-2-4 である。

この図から、「とても関心がある」という回答の中での「地域の子どもに地域の大人が関わる必要があるととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く関心がない」という回答へ目を移していくと、「地域の学校への関心」と「地域の子どもに大人が関わる必要性」には、「地域の学校へ関心がある」と回答した人ほど「地域の子どもに地域

の大人が関わる必要がある」と感じているという有意な相関があることがわかる。

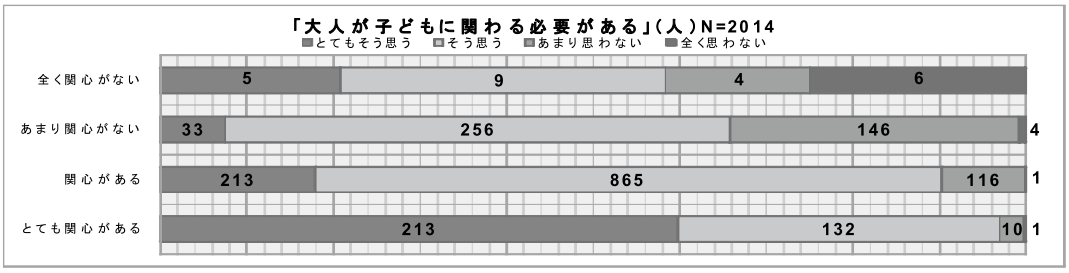


図5.2-2-4　「地域の学校への関心」と「地域の子どもに大人が関わる必要」の関係

5.2-2-5　「学校支援活動の経験の有無」との関係

「地域の学校への関心」と「学校支援活動の経験の有無」の関係を示したものが図5.2-2-5である。

この図から、「とても関心がある」ほど「経験がある」ことがわかるが、関心があっても経験がない人が 41.8%（110 人＋ 528 人）もいることから、今後の情報提供やコーディネート機能の発揮などを検討する必要があることがわかる。

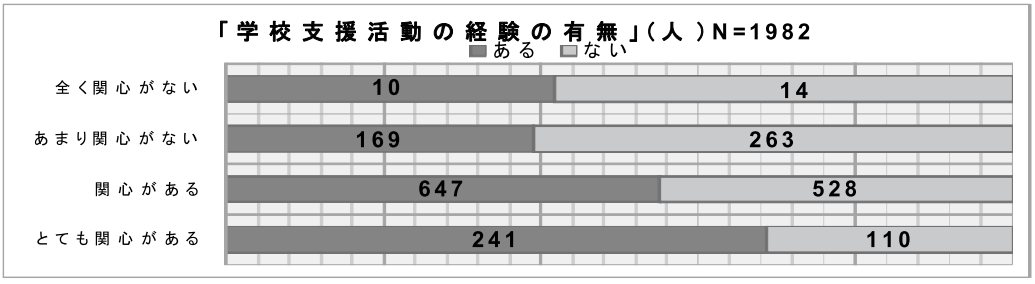


図5.2-2-5 「地域の学校への関心」と「学校支援活動の経験の有無」の関係

5.2-3　「地域の子どもに大人が関わる必要性」のクロス結果

地域の子どもたちへの地域住民の関わりの意識は、学校や学校外の様々な活動への関わりを推進するうえで重要な要素であることから、地域住民の「地域の子どもに大人が積極的に関わる必要がある」と地域及び家庭の教育力の関係を示したうえで、有意な相関がみられる項目について示すこととする。

5.2-3-1　「地域の教育力の低下」との関係

「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「地域の教育力の低下」の関係を示したものが図 5.2-3-1 である。

この図から、「とても必要がある」という回答の中での「地域の教育力が低下したととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く思わない」という回答へ目を移してい

くと、「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「地域の教育力の低下」には、若干ではあるが「地域の子どもに大人が関わる必要がある」と回答した人ほど「地域の教育力が低下している」という傾向があることがわかる。

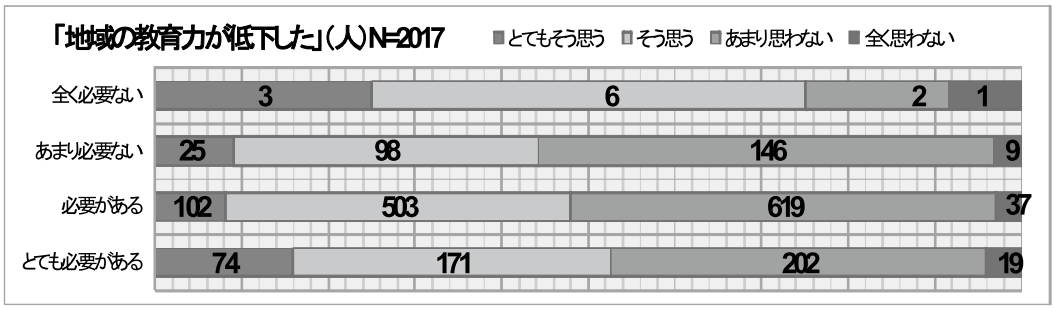


図5.2-3-1 「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「地域の教育力の低下」の関係

5.2-3-2 「家庭の教育力の低下」との関係

「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「家庭の教育力の低下」の関係を示したものが図 5.2-3-2 である。

この図から、「とても必要がある」という回答の中での「家庭の教育力が低下したととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く思わない」という回答へ目を移していくと、「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「家庭の教育力の低下」には、「地域の教育力の低下」と同様に、若干ではあるが「地域の子どもに大人が関わる必要がある」と回答した人ほど「家庭の教育力が低下している」という傾向があることがわかる。

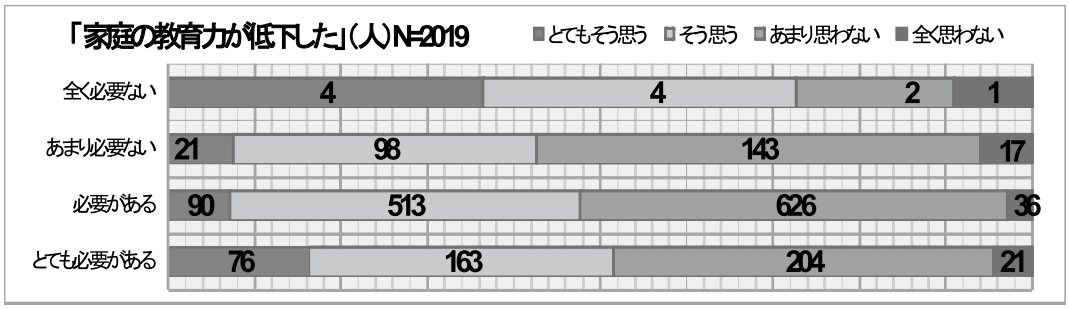


図5.2-3-2 「地域の子どもに大人が関わる必要」と「家庭の教育力の低下」の関係

5.2-3-3 「地域の大人の子どもへの関わりの状況」との関係

「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「地域の大人の子どもへの関わりの状況」の関係を示したものが図 5.2-3-3 である。

この図から、「とても必要がある」という回答の中での「地域の大人が子どもに関わっているととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く必要がない」という回答へ目を移していくと、「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「地域の大人が子どもに関わっている」には、「地域の子どもに大人が関わる必要がある」と回答した人ほど「地域の大人が子どもに関わっている」と見ているという有意な相関があることがわかる。

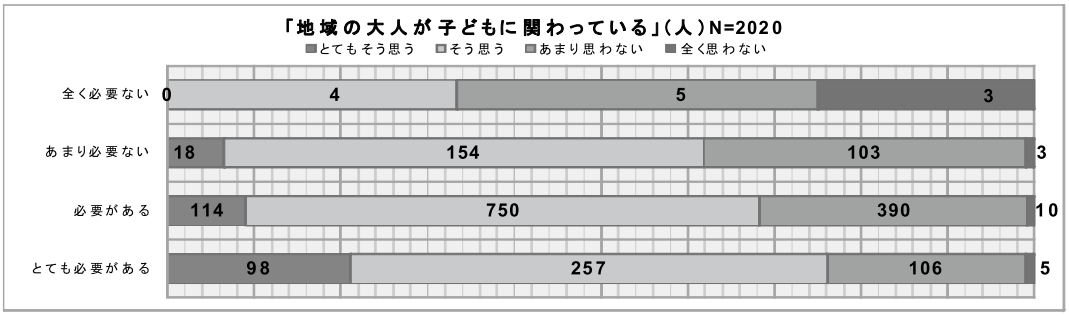


図5.2-3-3 「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「地域の大人の子どもへの関わり」の関係

5.2-3-4 「地域の大人同士の交流」との関係

「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「地域の大人同士の交流」の関係を示したものが図 5.2-3-4 である。

この図から、「とても必要がある」という回答の中での「地域の大人同士の交流が盛んであるととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く必要がない」という回答へ目を移していくと、「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「地域の大人同士の交流」には、「地域の子どもに大人が関わる必要がある」と回答した人ほど「地域の大人同士が交流している」と見ているという有意な相関があることがわかる。

「地域の大人同士が挨拶する」という別の項目においても、同様な傾向があることから、地域の大人が子どもに関わることと、日常的な大人同士の繋がりが関係していると推測できる。

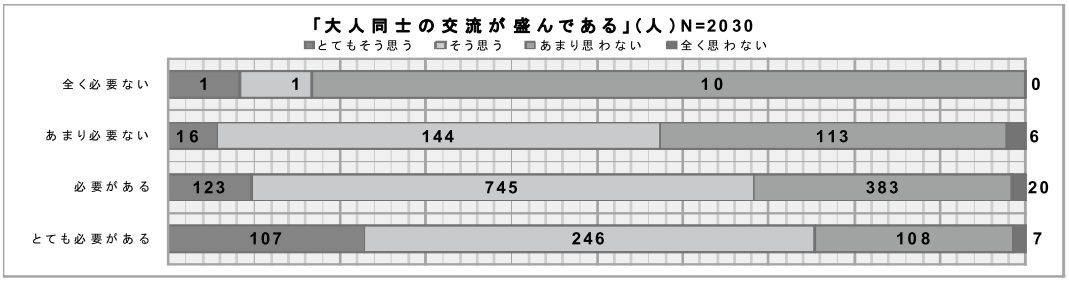


図5.2-3-4 「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「地域の大人同士の交流」の関係

5.2-3-5 「子どもの道徳心・公共心の薄れ」との関係

「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「子どもの道徳心・公共心の薄れ」の関係を示したものが図 5.2-3-5 である。

この図から、「とても必要がある」という回答の中での「子どもの道徳心・公共心が薄れているととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全く必要がない」という回答へ目を移していくと、「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「子どもの道徳心・公共心の薄れ」には、「地域の子どもに大人が関わる必要がある」と回答した人ほど「子どもの道徳心・公共心が薄れている」と見ているという傾向があることがわかる。

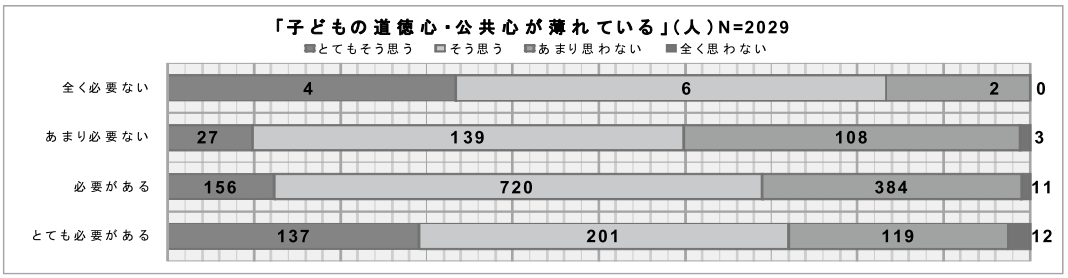


図5.2-3-5「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「子どもの道徳心・公共心が薄れ」の関係

5.2-3-6　「学校支援活動の経験の有無」との関係

「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「学校支援活動の経験の有無」の関係を示したものが図 5.2-3-6 である。

この図から、「とても必要がある」という回答の中での「学校支援活動の経験がある」の割合を、徐々に「全く必要がない」という回答へ目を移していくと、「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「学校支援活動の経験の有無」には、「地域の子どもに大人が関わる必要がある」と回答した人ほど「学校支援活動の経験がある」という有意な相関があることがわかる。

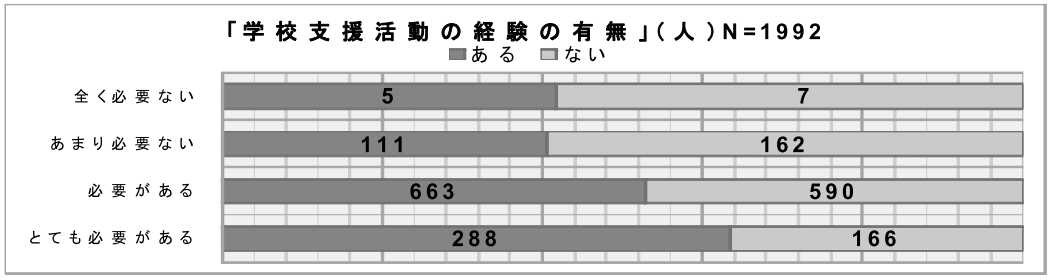


図5.2-3-6 「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「学校支援活動の経験の有無」の関係

5.2-3-7　「学校支援活動に参加しての自分の変化」との関係

「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「学校支援活動に参加しての自分の変化」の関係を示したものが図 5.2-3-7 である。これまでと異なり、「学校支援活動に参加しての自分の変化」を縦軸にして示している。「自分の変化」ごとに見ると、各項目とも「とても必要がある」「必要がある」が約 90%あり、「地域の子どもに大人が関わる必要がある」と回答した多くの人が自分なりの変化（効果）を感じていることがわかる。

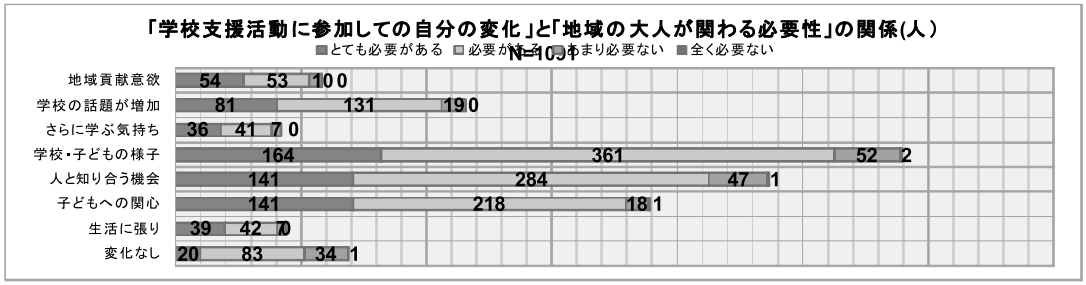


図5.2-3-7 「子どもに大人が関わる必要性」と「学校支援に参加しての自分の変化」の関係

5.2-4　「学校支援活動への参加経験の有無」のクロス結果

地域住民の学校支援活動への参加経験は、どんな要素と関係があるのかを見ることは、今後の多くの地域住民の参加を促進するうえで重要な要素であることから、地域住民の「学校支援活動への参加経験の有無」と有意な相関が見られる項目について示すこととする。

なお、下記以外に、5.2-2-5 の「地域の学校への関心」と「学校支援活動の経験の有無」及び、5.2-3-6 の「地域の子どもに大人が関わる必要性」と「学校支援活動の経験の有無」において前述したような有意な相関を示す項目もある。

5.2-4-1　「学校の情報の伝わり方」との関係

「学校支援活動への参加経験の有無」と「学校からの情報の伝わり方」の関係を示したものが図 5.2-4-1 である。

この図から、「学校支援活動への参加経験の有」の方が、「学校支援活動への参加経験の無」より、「学校の情報が伝わってくるととても思う」「思う」の割合が若干高いことがわかる。情報提供は他の多くの項目との有意な相関があることもわかっている。

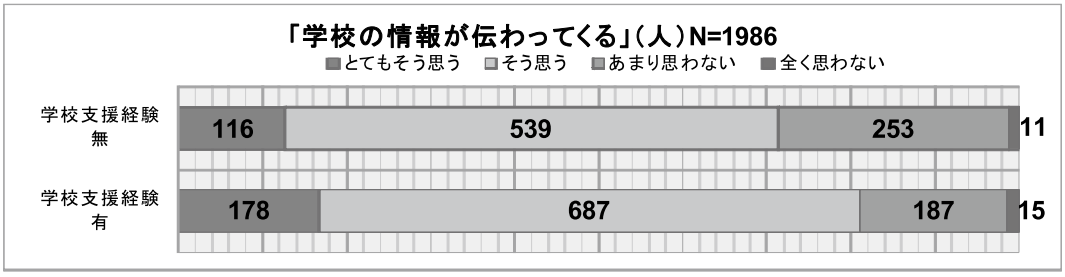


図5.2-4-1 「地域の子どもに大人が関わる必要」と「学校からの情報伝達」の関係

5.2-5　「今後の学校支援活動への参加意志」のクロス結果

地域住民の今後の学校支援活動の参加意思は、地域住民と子どもたちの関わりを推進するうえで重要な要素であることから、「今後の学校支援活動への参加意思」と地域及び家庭の教育力の関係を示したうえで、有意な相関が見られる項目について示すこととする。

5.2-5-1　「地域の教育力の低下」との関係

「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の教育力の低下」の関係を示したものが図 5.2-5-1 である。

この図から、「学校支援活動をとてもしたい」という回答の中での「地域の教育力が低下したととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全くしたくない」という回答へ

目を移していくと、「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の教育力の低下」には、若干ではあるが「学校支援活動をしたい」と回答した人ほど「地域の教育力が低下している」と見ているという傾向が見られる。

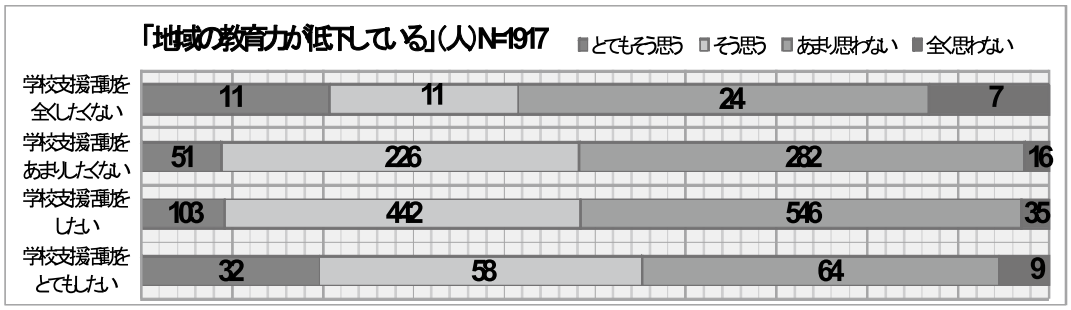


図5.2-5-1 「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の教育力の低下」の関係

5.2-5-2 「家庭の教育力の低下」との関係

「今後の学校支援活動への参加意志」と「家庭の教育力の低下」の関係を示したものが図 5.2-5-2 である。

この図から、「学校支援活動をとてもしたい」という回答の中での「家庭の教育力が低下したととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「今後の学校支援活動への参加意志」と「家庭の教育力の低下」には、若干の傾向はあるが相関はみられない。

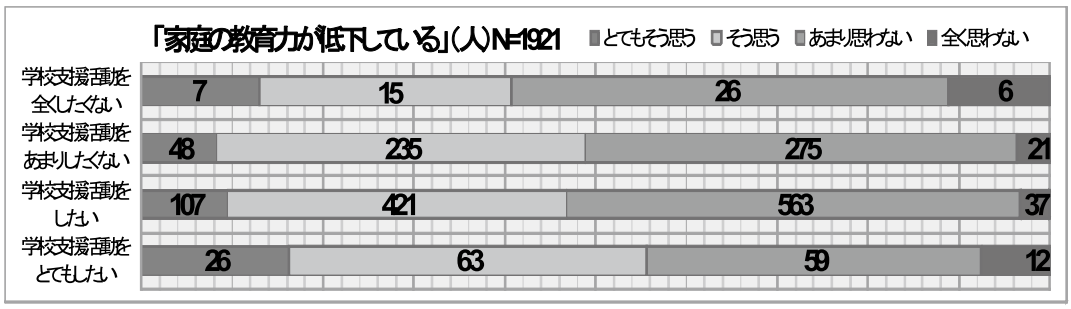


図5.2-5-2 「今後の学校支援活動への参加意志」と「家庭の教育力の低下」の関係

5.2-5-3 「地域の大人の子どもへの関わりの状況」との関係

「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の大人の子どもへの関わり」の関係を示したものが図 5.2-5-3 である。

この図から、「学校支援活動をとてもしたい」という回答の中での「地域の大人が子どもに関わっているととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の大人の子どもへの関わり」には、「今後の学校支援活動に参加したい」と回答した人ほど「地域の大人が子どもに関わっている」と見ているという有意な相関があることがわかる。

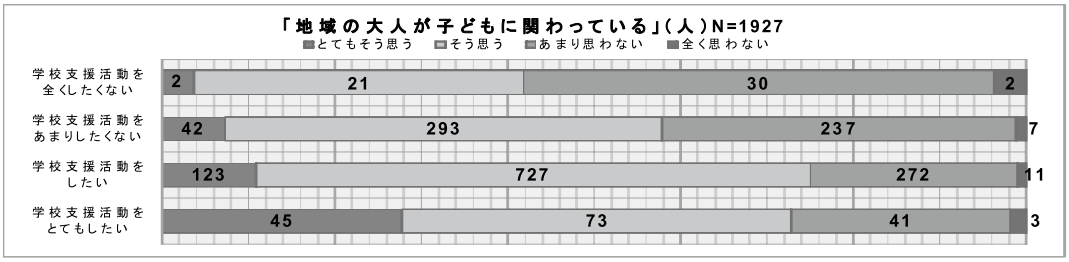


図5.2-5-3 「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の大人の子どもへの関わり」の関係

5.2-5-4 「地域の大人同士の交流」との関係

「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の大人同士の交流」の関係を示したものが図 5.2-5-4 である。

この図から、「学校支援活動をとてもしたい」という回答の中での「地域の大人同士の交流が盛んであるととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の大人同士の交流」には、「今後の学校支援活動に参加したい」と回答した人ほど「地域の大人同士の交流が盛んである」と見ているという有意な相関があることがわかる。

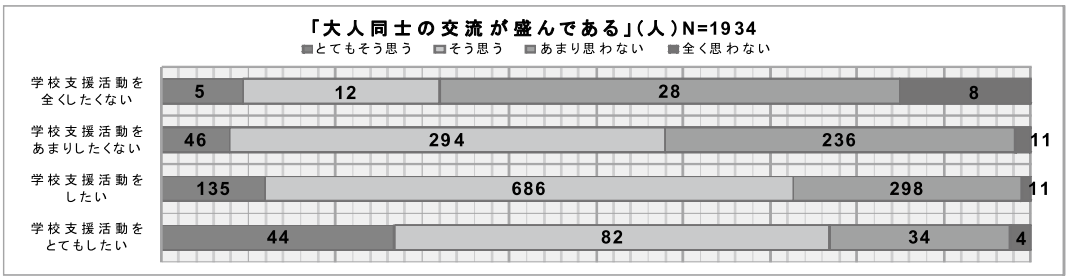


図5.2-5-4 「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の大人同士の交流」の関係

5.2-5-5 「地域の大人同士の挨拶」との関係

「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の大人同士の挨拶」の関係を示したものが図 5.2-5-5 である。

この図から、「学校支援活動をとてもしたい」という回答の中での「地域の大人同士が挨拶するととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の大人同士の挨拶」には、「今後の学校支援活動に参加したい」と回答した人ほど「地域の大人同士が挨拶する」と見ているという有意な相関があることがわかる。

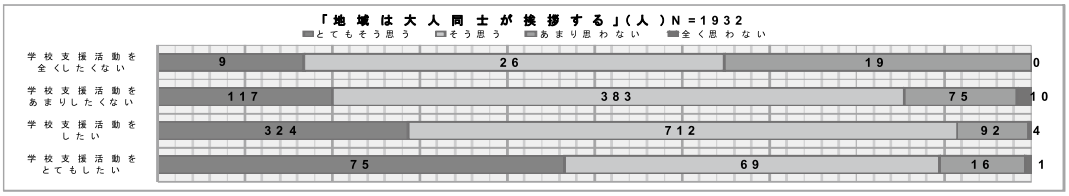


図5.2-5-5 「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の大人同士の挨拶」の関係

5.2-5-6　「学校の情報の伝わり方」との関係

「今後の学校支援活動への参加意志」と「学校の情報の伝わり方」の関係を示したものが図 5.2-5-6 である。

この図から、「学校支援活動をとてもしたい」という回答の中での「学校の情報が伝わってくるととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「今後の学校支援活動への参加意志」と「学校の情報伝達」には、「今後の学校支援活動に参加したい」と回答した人ほど「学校の情報が伝わってくる」と見ているという有意な相関があることがわかる。

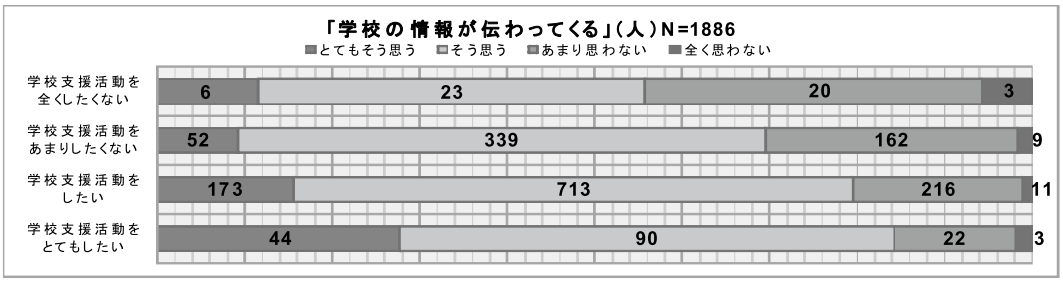


図5.2-5-6「今後の学校支援活動への参加意志」と「学校の情報の伝わり方」の関係

5.2-5-7　「地域の学校への関心」との関係

「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の学校への関心」の関係を示したものが図 5.2-5-7 である。

この図から、「学校支援活動をとてもしたい」という回答の中での「地域の学校に関心がとてもある」「ある」の割合から、徐々に「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の学校への関心」には、「今後の学校支援活動に参加したい」と回答した人ほど「地域の学校に関心がある」という有意な相関があることがわかる。

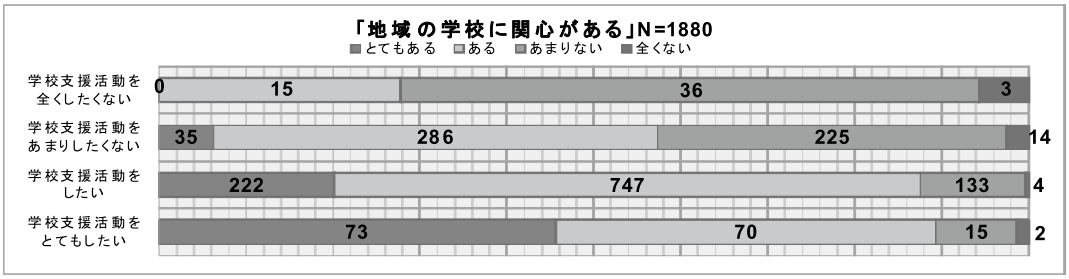


図5.2-5-7 「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の学校への関心」の関係

5.2-5-8　「地域の子どもに大人が関わる必要性」との関係

「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の子どもに大人が関わる必要性」の関係を示したものが図 5.2-5-8 である。

この図から、「学校支援活動をとてもしたい」という回答の中での「地域の子どもに

大人が関わる必要があるととても思う」「思う」の割合から、徐々に「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の子どもに大人が関わる必要性」には、「今後の学校支援活動に参加したい」と回答した人ほど「地域の子どもに大人が関わる必要がある」と思っているという有意な相関があることがわかる。

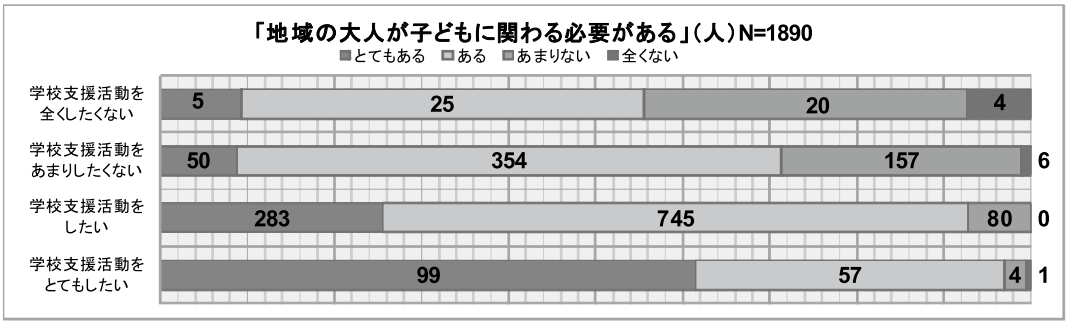


図5.2-5-8 「今後の学校支援活動への参加意志」と「地域の子どもに大人が関わる必要」の関係

5.2-5-9 「学校支援活動への参加経験の有無」との関係

「今後の学校支援活動への参加意志」と「学校支援活動への参加経験の有無」の関係を示したものが図 5.2-5-9 である。

この図から、「学校支援活動をとてもしたい」という回答の中での「学校支援活動への参加経験がある」の割合から、徐々に「全くしたくない」という回答へ目を移していくと、「学校支援活動への参加経験の有」が少なくなっていることから、「今後の学校支援活動への参加意志」と「学校支援活動への参加経験の有無」には、「今後の学校支援活動に参加したい」と回答した人ほど「学校支援活動への参加経験がある」という有意な相関があることがわかる。

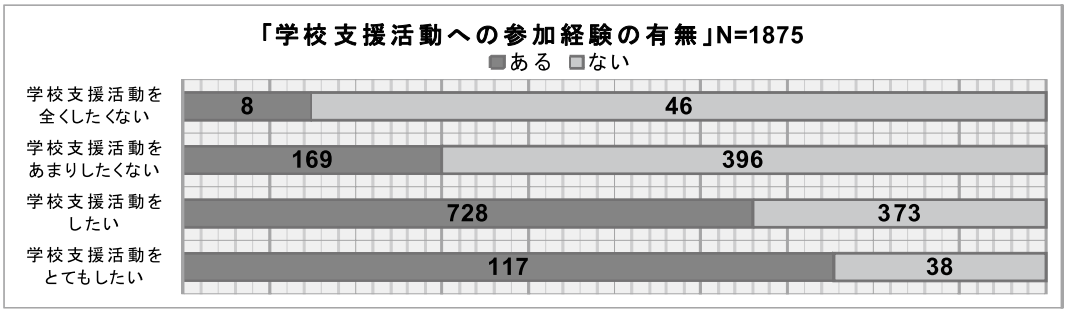


図5.2-5-9 「今後の学校支援活動への参加意志」と「学校支援活動への参加経験の有無」の関係

5.2-5-10 「学校支援活動に参加しての自分の変化」との関係

「今後の学校支援活動への参加意志」と「学校支援活動に参加しての自分の変化」の関係を示したものが図 5.2-5-10 である。これまでと異なり、「学校支援活動に参加しての自分の変化」を縦軸にして示している。この図から、「学校支援活動に参加しての自分の変化」の内容ごとに見ると、各項目とも「とてもしたい」と「したい」を合計する

と約 90%であり、「今後の学校支援活動へ参加したい」と回答した多くの人が、これまでの活動で自分なりの変化（効果）を感じていることがわかる。

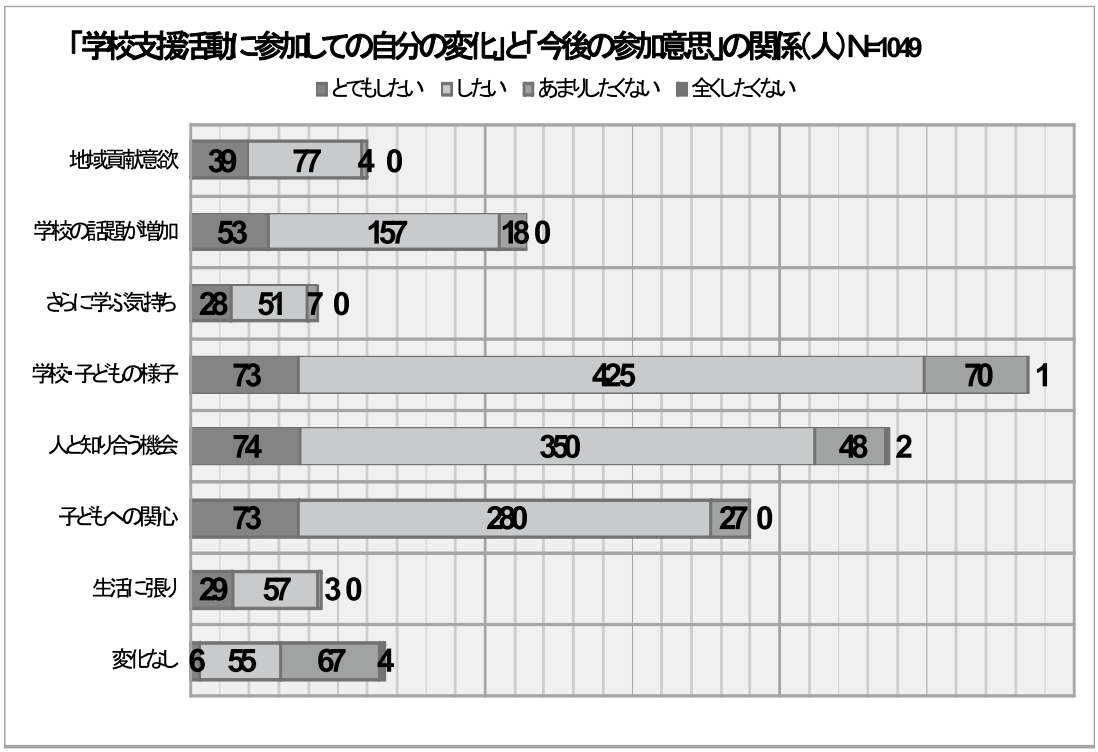


図5.2-5-10 「今後の学校支援活動への参加意志」と「学校支援活動に参加しての自分の変化」の関係

5.2-6 学校支援活動に「参加した活動」と「今後参加したい活動」との関係

学校支援活動に「参加した活動」と「今後、参加したい活動」について、相関係数を表 5.2-6 に示すが、すべての活動内容には有意な相関があることがわかる。このことから地域住民は、「した活動」を「今後もしたい」と思っていることがわかる。

表5.2-6 「参加した活動」と「今後、参加したい活動」に関する相関表（N=2,127）

クラブ部活	特別支援	図書活動	G T/総合	学習補助	教具作成	パソコン	安全パト	環境整備
.493(**)	.231(**)	.459(**)	.502(**)	.405(**)	.253(**)	.079(**)	.329(**)	.401(**)

** $p < 0.01$

第３部　調査のまとめ

第６章　「教育の協働」を推進する視点

6.1　基本的事項の共通理解

本調査と並行して、教職員やコーディネーター、社会教育関係者及び実際に学校でのボランテイア活動を行う地域住民の研修会や情報交換会に参画してきた。その中で、多くの人は「したい」という思いから、「させられる」という思いまで、幅広い感じ方があることも見えてきた。教育の協働の推進者から教育の協働への参画者、参加者・協力者が少なくとも最低限の共通理解を持っていなければ「学校支援地域本部事業」終了以降の「教育の協働による地域社会の構築」という方向性が見えてこないのではないか、という危惧を抱かざるをえない。言い換えれば、本事業を推進する部署は、文部科学省においても、大分県の各自治体においても教育行政の生涯学習推進部局であることの意味を踏まえることが重要であるということである。中央教育審議会答申や国の「教育振興基本計画」においても、生涯学習社会の形成において、社会教育行政がその中核を担う必要性や、生涯学習振興行政の役割として、各部局等の施策の連携・融合の役割が示されていることの認識が必要である。教育の協働が目指すものは、家庭、学校、地域社会が教育力を相互に補完することだけではなく、それぞれの教育活動をより効果的に推進する方策であることなどを前提として、本事業の実施に当たって、次の視点が必要であると考えられる。

１つ目は、「次世代を担う子ども」「次世代の我が地域社会を担う子ども」に対する「子ども育成」という視点が必要である。家庭だけ、学校だけ、地域社会だけでは、そのことを担いきれないことは多くの識者のみならず、本調査からも分かるように、保護者や地域住民、学校教育現場においても徐々に認識されていることは事実である。このことが、改正教育法の第 13 条に新たに規定されたことの重要性を表している。

２つ目に、教育の協働に参画・参加・協力する「大人自身の学び」と「生涯学習の振興」という視点が必要である。本調査からも分かるように、「子どもに関わることによる喜びや自分自身の学び」に広がろうとしている。子どもに関わることを通して、大人同士の新しい繋がりが生まれ、学校の子どもたちの教育活動への支援が広がるなど、地域の連帯感や活性化という、大人社会の再構築を目指すことができるとう視点を持つことが出来ると考えられる。

その際、家庭、学校、地域社会が、それぞれの役割を担うことが重要であることは言うまでもないが、これまでの様々な調査や本調査から、学校教育への過度の期待や、それぞれの教育機能が充分に発揮されていないことが指摘されてきた。その対応として規定されたものが前述した改正教育基本法の第 13 条であると考えられる。その具体的な施策として実施される「学校支援地域本部事業」には、今後、地域において「体系的」「効果的」「日常的」「継続的」に地域総参加の子育てのまちづくりを推進するためのシステムを構築することが期待されている。しかし、本調査や各種研修会等において、本事業の実施を全県的に推進するためには、次のことへの早急な対応が必要であることを感じている。

(1)「学校支援」という言葉へのアレルギー対策

文部科学省が事業の趣旨として説明する「学校支援」とは、「学校における様々な教育活動において、地域住民が持つ知識や技能を子どもたちのために発揮して学習効果を上げることや、教育環境を整備する。」ことである。そのことによって、教職員が子どもと向き合うための時間の確保や、大人自身の生涯学習を振興するなど、様々な効果をもたらすと考えられる。しかし、実際に取り組んでいる学校支援地域本部では、教職員及び地域住民共に、「学校支援」という言葉から来るイメージにアレルギーが生じていることは事実である。教職員にしてみれば、「学校のためにしていただく」という意識からくる拒否反応がうかがえる。「子どものために地域の教育力の活用は必要である。」という回答が 90%近くあるにも関わらず、「今でもしているから、わざわざ取り組まなくてもいい。」「予算（謝礼）の確保が難しい。」という声や、様々な形での感謝の気持ちを表す活動などに配慮していることなどからもわかる。また、地域住民は、「学校の先生が地域に協力しないのに・・・。」や「学校のことは教職員がすればいい。」といった拒否反応の声も多い。確かに、一部の地域住民と学校の間で共通理解を持って「学校支援」を行うのであれば抵抗は無いのであろうが、多くの地域住民の理解を得ながら、「できる人が」「できる時に」「できる事をする」という取り組みを推進するのであれば、「学校支援」という言葉へのアレルギーを払拭する必要があるのではないだろうか。そのためには、推進する立場にある教育行政が、「学校支援地域本部事業」の実施に関する基本的な方針を明確にすることが求められと考える。

(2)生涯学習の振興という視点からの推進

各学校支援地域本部において、まず取り組んでいることが「人材バンク」づくりであろう。学校が求める人材を確保し、学校へ紹介して活動をしていただくためには事前の準備としての「人材バンク」は不可欠であろう。そのために行政においても、コーディネーターにおいても啓発・広報や実際の依頼活動を行うことが重要な役割として活動されている。大分県においては、教育の協働のためのシステムを構築するために、地域における「協育」ネットワークづくりをめざしており、その中核的な事業として「学校支援地域本部事業」を実施していることから、事業の終了後において、継続して「協育」ネットワークが拡充していくことが求められている。このネットワークは、「次世代を担う青少年の育成」のために大人が学んだ知恵と技能、そして一人一人の地域づくりに対する想いによって構築されるものである。このことは、今の様々な課題のみに止まらず、これからも起こるであろう新しい課題へも迅速に対応できるための、地域住民による大人社会づくりであり、「学び」を地域へ還元する生涯学習社会の形成であることを押さえておくことが重要であると考える。

6.2　課題への対応

「子どものために大人が様々な形で関わる」こと、具体的には「学校教育の場において関わる」活動が、教職員においても、地域住民においても「必要」という認識は充分に持っていることが理解できた。しかし、実際の教育活動においてのシステム的な取り組みを

推進するには、教職員の「多忙化に繋がる恐れがある」という危惧など、様々な課題があることもわかった。さらに、教育の協働の方策には地域性があり、地域が目指すものや取り組み方、重点、課題なども異なることなどから、全県調査によって見えてきた教育の協働の推進のための課題や方策に関する具体的な対応の視点を考察することとする。なお、次回の調査においては、課題等への具体的な対応の実施と事業成果の関係も見ることとしたい。

（1）子どもの「負の意識」について

「学校支援」の目的は子どもの育成であり、地域住民のボランティア活動によって学校教育活動が充実し、子どもたちが生き生きと学ぶことを目指しているが、「学校で地域の大人と交流・活動などをして欲しくない」という児童生徒が約 26%いることを、まず認識しておくことが必要である。今回の調査では、「学校に行くのが楽しくない」という子どもほどその傾向があることから、両者の関係についても調査・分析の必要があると考えられる。

子どもは人と関わることによって道徳心や公共心を学び、人から生きた学力を学ぶことを考えると、今回の調査データから見えてきた様々な有意な相関を認識して、学校教育において育てたい人間性を明確にし、地域住民と子どもたちの交流・活動の場をどう設定するかを考えることが必要である。

（2）学校の情報提供の充実について

教育の協働のキーワードは「情報の共有」と「コーディネート機能」であることは大分県教育委員会が指摘していることであるが、今回の調査においても「学校支援」を充実するうえで重要なこととして、地域住民・保護者、教職員が共にトップに上げていることが「学校の情報」を地域住民に発信することである。コーディネーターが発信する内容、学校が主体的に行う内容、教育行政が発信する内容の違いはあるが、地域住民への啓発・広報が一番重要なことであることが理解できた。情報発信が、学校や行政の多忙化に繋がりかねないが、学校・学級通信や市報・公民館報など、今ある情報提供機能の有効的な活用やホームページによる情報提供など、「情報提供の工夫」という視点が必要である。

（3）予算の確保について

前述したように、教育の協働における 1 つのキーワードは「コーディネート機能」であり、大分県では、その機能を果たすポジションを明確にするために、「学校支援地域本部事業」において専任のコーディネーターを公民館に配置し、公民館がその役割を担うことを推進してきた。とりあえずその人件費は 3 年間期限で確保されているが、「学校支援者」に係る経費、「学校支援活動」に係る経費等が確保されていないのが現状である。各自治体において、必要経費が何なのかを充分に検討しながら、「既存の事業の見直しによる経費の確保を行う。」という視点が必要である。

（4）学校内の情報の保守について

教職員には、「学校で知り得た情報の守秘義務」があるように、学校には様々な守らなくてはならない公的な情報や児童生徒・教職員の個人情報がある。地域住民は、この「情報の保守」と言う義務を守ることによって学校支援が可能となることを、まず認識

することが重要である。そのためには、教育行政及び学校としては、特に「学習活動への支援」など、子どもに直接関わる活動においては、支援者への研修を充分に行うことが求められる。さらに、日常的に教職員と関わり、学校へ出入りすることによって知り得た情報の保守に関することの重要性については全ての支援者へ周知するという視点が必要である。

(5) 学校教育活動の多忙化について

「学校支援」の拡大が「教職員の多忙化に繋がる」という考えを持つ教職員が多いことも明らかになった。確かに、打ち合わせや学校内での計画・調整など、自分だけでやるよりも多くの労力や時間が必要なことは事実である。また、「学校支援活動を計画していたが急に変更せざるをえなくなった」などの例も多くある。その反面、中学校における職場体験の受入先の確保や安全パトロール、地域を熟知した人材の発掘などをコーディネーターや地域住民に任せることは、教職員の教育活動への時間の確保が可能になる。さらに、技術や補助が必要な授業や、危険が伴う授業などにおいては、専門的指導者や多くの支援者によってより充実した授業ができることも事実である。

「学校支援のシステムができるまでは大変だが、できると多忙化は解消される。」という先進事例の報告もされており、「多忙化」という課題と教育効果を対比させてみるという視点が必要である。

(6) 事故責任の所在について

活動にはリスクを伴うのは当然であり、リスクへの対応は不可欠である。学校への支援活動の内容によっては傷害保険への加入は基本であり、様々なケースの対応策を事前に整備しておく必要がある。リスクは傷害だけでなく、情報の流出、支援者と子ども・保護者や教職員とのトラブルなども考えられ、行政と学校、支援者で構成する協議会において充分協議したうえで、行政としての責任の所在の在り方を明確にしておくという視点が必要である。

(7) 教育行政の役割について

教育行政が、教育の協働の推進について責任を負うためには、上記の 6 つの視点を含めた推進方針を明確にすることが重要である。そのことによって初めて学校支援地域本部や各学校での主体的な取り組みが可能となる。今こそ現場任せではなく、行政が主体的に必要・不可欠な条件を整備することによって、地域住民や学校が安心して活動でき、参加できるよう推進することが重要であると考える。その上で、効果を上げている先進事例を参考にしつつ、地域住民への啓発・広報、学校教育行政と社会教育行政の連携・協力に関する具体的な取り組みを行うこと、さらに、首長部局の「まちづくり施策との協働」を推進するなど、体系的に推進するという視点を持つことが必要である。

【調査資料】

１－児童生徒の集計結果

２－教職員の集計結果

３－地域住民（保護者）の集計結果

１－児童生徒の集計結果

V1：市町村

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
中津市	236	8.2
豊後高田市	73	2.5
宇佐市	451	15.6
別府市	325	11.3
杵築市	85	2.9
国東市	374	13
姫島村	148	5.1
津久見市	399	13.8
佐伯市	296	10.3
竹田市	121	4.2
豊後大野市	123	4.3
日田市	137	4.7
玖珠町	118	4.1
合計	2886	100

V2：学校番号（調査対象地区一覧参照）

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
1	1469	50.9
2	1090	37.8
3	327	11.3
合計	2886	100

V3：小中学校種

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
小学校	1591	55.1
中学校	1294	44.8
欠損値	1	0
合計	2886	100

V4：性別

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
男	1527	52.9
女	1350	46.8
欠損値	9	0.3
合計	2886	100

V5：学年

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
小3	411	14.2
小4	393	13.6
小5	419	14.5
小6	357	12.4
中1	413	14.3
中2	449	15.6
中3	432	15
欠損値	12	0.4
合計	2886	100

V6：毎朝、自分で起きる

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	779	27
あてはまる	1097	38
あまりあてはまらない	714	24.7
全くあてはまらない	291	10.1
欠損値	5	0.2
合計	2886	100

V：7毎朝、朝ごはんを食べる

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	2331	80.8
あてはまる	358	12.4
あまりあてはまらない	136	4.7
全くあてはまらない	46	1.6
欠損値	15	0.5
合計	2886	100

V8：夜は、決まった時間に寝る

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	438	15.2
あてはまる	999	34.6
あまりあてはまらない	850	29.5
全くあてはまらない	582	20.2
欠損値	17	0.6
合計	2886	100

V9：誰とでもよく話をする

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	1043	36.1
あてはまる	1318	45.7
あまりあてはまらない	446	15.5
全くあてはまらない	75	2.6
欠損値	4	0.1
合計	2886	100

V10：少し難しい勉強などにぶつかると、すぐ人に手伝ってもらう

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	328	11.4
あてはまる	1100	38.1
あまりあてはまらない	1062	36.8
全くあてはまらない	382	13.2
欠損値	14	0.5
合計	2886	100

V11：学校の出来事について家族とよく話をする

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	966	33.5
あてはまる	906	31.4
あまりあてはまらない	702	24.3
全くあてはまらない	292	10.1
欠損値	20	0.7
合計	2886	100

V12：家族と買い物や遊びなどによく行く

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	1126	39
あてはまる	1052	36.5
あまりあてはまらない	559	19.4
全くあてはまらない	136	4.7
欠損値	13	0.5
合計	2886	100

V13：家の手伝いをよくする

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	657	22.8
あてはまる	1034	35.8
あまりあてはまらない	885	30.7
全くあてはまらない	299	10.4
欠損値	11	0.4
合計	2886	100

V14：地域での活動（お祭りや清掃など）によく参加する

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	845	29.3
あてはまる	934	32.4
あまりあてはまらない	737	25.5
全くあてはまらない	361	12.5
欠損値	9	0.3
合計	2886	100

V15：地域での活動（お祭りや清掃など）に参加したいと思っている

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	796	27.6
あてはまる	971	33.6
あまりあてはまらない	713	24.7
全くあてはまらない	390	13.5
欠損値	16	0.6
合計	2886	100

V16：近所の人によくあいさつをする

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	1464	50.7
あてはまる	998	34.6
あまりあてはまらない	336	11.6
全くあてはまらない	76	2.6
欠損値	12	0.4
合計	2886	100

V17：学校に行くのが楽しい

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもあてはまる	1125	39
あてはまる	1123	38.9
あまりあてはまらない	430	14.9
全くあてはまらない	206	7.1
欠損値	2	0.1
合計	2886	100

☆あなたが、学校の生活で楽しいと感じることはどんなことですか。（2つまで）

V18：朝の読書などの活動

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2539	88
はい	347	12
合計	2886	100

V19：数学、国語、英語、社会、理科の学習

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2515	87.1
はい	370	12.8
欠損値	1	0
合計	2886	100

V20：体育、音楽、技術家庭、美術の学習

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1795	62.2
はい	1088	37.7
欠損値	3	0.1
合計	2886	100

V21：総合的な学習の時間の活動

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2653	91.9
はい	232	8
欠損値	1	0
合計	2886	100

V22：クラブ活動・部活動

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2167	75.1
はい	719	24.9
合計	2886	100

V23：学級会や生徒会活動

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2795	96.8
はい	91	3.2
合計	2886	100

V24：遠足・運動会などの行事

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1842	63.8
はい	1044	36.2
合計	2886	100

V25：休み時間などに友達や先生と遊ぶこと

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1247	43.2
はい	1638	56.8
欠損値	1	0
合計	2886	100

V26：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2812	97.4
はい	72	2.5
欠損値	2	0.1
合計	2886	100

V27：中学生になってから先生以外の人に学校で、勉強やクラブ活動・部活動などを教えてもらったり、いっしょに活動したりしたことがある

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
よくある	843	29.2
時々ある	1294	44.8
あまりない	504	17.5
全く無い	201	7
欠損値	44	1.5
合計	2886	100

☆あなたが教えてもらったり、いっしょに活動したりしたことは、どんなことですか。（すべて選ぶ）

V28：数学や英語、音楽、体育などの教科の勉強

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1279	44.3
はい	906	31.4
欠損値	701	24.3
合計	2886	100

V29：地域のこと（歴史や伝統など）や昔の遊び、野菜の育て方など

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1378	47.7
はい	808	28
欠損値	700	24.3
合計	2886	100

V30：クラブ活動・部活動

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1234	42.8
はい	952	33
欠損値	700	24.3
合計	2886	100

V31：放課後などに学校などでする宿題や自由勉強など

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1946	67.4
はい	240	8.3
欠損値	700	24.3
合計	2886	100

V32：運動会や餅つきなどの行事

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1663	57.6
はい	523	18.1
欠損値	700	24.3
合計	2886	100

V33：朝読書などの本の読み聞かせ

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1319	45.7
はい	867	30
欠損値	700	24.3
合計	2886	100

V34：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1821	63.1
はい	364	12.6
欠損値	701	24.3
合計	2886	100

V35：地域の人に学校に来てもらい、勉強やクラブ活動・部活動などを教えてもらったり、いっしょに活動したりしたいと思う

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とても思う	616	21.3
そう思う	1137	39.4
あまり思わない	822	28.5
全く思わない	251	8.7
欠損値	60	2.1
合計	2886	100

☆あなたが地域の人にしてもらいたいことは、どんなことですか。（2つまで）

V36：数学や英語、音楽、体育などの教科の勉強を教えてほしい

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2323	80.5
はい	561	19.4
欠損値	2	0.1
合計	2886	100

V37：地域のこと（歴史や伝統など）や昔の遊び、野菜の育て方などを教えてほしい

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1920	66.5
はい	964	33.4
欠損値	2	0.1
合計	2886	100

V38：クラブ活動（部活動）のことを教えてほしい

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1961	67.9
はい	922	31.9
欠損値	3	0.1
合計	2886	100

V39：放課後などに学校などでする宿題や自由勉強などを見てほしい

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2703	93.7
はい	182	6.3
欠損値	1	0
合計	2886	100

V40：運動会や餅つきなどの行事を一緒にしたい

度数	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2195	76.1
はい	690	23.9
欠損値	1	0
合計	2886	100

V41：朝読書などの本の読み聞かせをして欲しい

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2584	89.5
はい	301	10.4
欠損値	1	0
合計	2886	100

V42：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2800	97
はい	85	2.9
欠損値	1	0
合計	2886	100

V43：別に何もしてほしくない

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2316	80.2
はい	564	19.5
欠損値	6	0.2
合計	2886	100

２ー教職員集計結果

V1：市町村

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
中津市	25	6.5
豊後高田市	19	5
宇佐市	53	13.8
別府市	28	7.3
杵築市	35	9.1
国東市	38	9.9
姫島村	23	6
津久見市	33	8.6
佐伯市	35	9.1
竹田市	21	5.5
豊後大野市	20	5.2
日田市	34	8.9
玖珠町	19	5
合計	383	100

V2：学校番号（調査対象地区一覧参照）

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
1	181	47.3
2	147	38.4
3	54	14.1
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V3：性別

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
男	131	34.2
女	157	41
欠損値	95	24.8
合計	383	100

V4：年代

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
２０歳代	34	8.9
３０歳代	71	18.5
４０歳代	159	41.5
５０歳代以上	111	29
欠損値	8	2.1
合計	383	100

V5：小中学校種

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
小学校	226	59
中学校	153	39.9
欠損値	4	1
合計	383	100

V6：当該校勤務年数

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
１年未満	146	38.1
１年から２年未満	77	20.1
２年から３年未満	69	18
３年から４年未満	32	8.4
４年から５年未満	14	3.7
５年から６年未満	20	5.2
６年から７年未満	4	1
７年以上	1	0.3
欠損値	20	5.2
合計	383	100

V7：役職

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
校長	23	6
教頭	32	8.4
教諭	216	56.4
養護教諭	21	5.5
事務職員	21	5.5
その他	58	15.1
欠損値	12	3.1
合計	383	100

V8：自分の子どもの頃と比較して、家庭の教育力が低下していると思う

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	48	12.5
そう思う	238	62.1
あまり思わない	89	23.2
全く思わない	7	1.8
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V9：自分の子どもの頃と比較して、学校に協力的でない家庭が多いと思う

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	11	2.9
そう思う	139	36.3
あまり思わない	212	55.4
全く思わない	18	4.7
欠損値	3	0.8
合計	383	100

V10：自分の子どもの頃と比較して、子どもたちの道徳心や公共心が薄れていると思う

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	45	11.7
そう思う	218	56.9
あまり思わない	115	30
全く思わない	3	0.8
欠損値	2	0.5
合計	383	100

V11：自分の子どもの頃と比較して、子どもたちの学習意欲が低下していると思う

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	20	5.2
そう思う	136	35.5
あまり思わない	213	55.6
全く思わない	12	3.1
欠損値	2	0.5
合計	383	100

V12：地域の子どもたちに対して地域の大人が積極的に関わる必要があると思う

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	67	17.5
そう思う	270	70.5
あまり思わない	43	11.2
全く思わない	1	0.3
欠損値	2	0.5
合計	383	100

V13：勤務校は、学校の行事などの情報を地域へよく伝えている

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	97	25.3
そう思う	265	69.2
あまり思わない	18	4.7
欠損値	3	0.8
合計	383	100

V14：勤務校の地域住民は学校に協力してくれる人が多い

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	107	27.9
そう思う	256	66.8
あまり思わない	17	4.4
欠損値	3	0.8
合計	383	100

V15：勤務校は、地域住民によるボランティア活動を積極的に受け入れている

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	76	19.8
そう思う	228	59.5
あまり思わない	70	18.3
全く思わない	1	0.3
欠損値	8	2.1
合計	383	100

V16：勤務校にとって、地域住民によるボランティア活動は必要であると思う

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	78	20.4
そう思う	265	69.2
あまり思わない	33	8.6
全く思わない	1	0.3
欠損値	6	1.6
合計	383	100

☆地域住民のボランティアの成果として期待されることはどのような事だと思いますか。（2つまで）

V17：児童生徒の学校内活動での関心・意欲・態度の向上

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	228	59.5
はい	154	40.2
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V18：児童生徒の授業における理解力・集中力の向上

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	360	94
はい	22	5.7
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V19：児童生徒の基本的な生活習慣の向上

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	306	79.9
はい	76	19.8
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V20：児童生徒の休み時間の過ごし方の向上

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	373	97.4
はい	9	2.3
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V21：学校の花壇や校舎等の環境の充実

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	244	63.7
はい	137	35.8
欠損値	2	0.5
合計	383	100

V22：教職員のゆとりの時間の確保

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	363	94.8
はい	19	5
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V23：学校全体としての地域住民との協力・連携

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	136	35.5
はい	246	64.2
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V24：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	364	95
はい	18	4.7
欠損値	1	0.3
合計	383	100

☆地域住民にどのようなボランティア活動に参加してもらうのが望ましいと思いますか。（2つまで）

V25：クラブ活動・部活動の指導

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	328	85.6
はい	54	14.1
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V26：特別な支援が必要な子どもの指導補助

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	367	95.8
はい	14	3.7
欠損値	2	0.5
合計	383	100

V27：読み聞かせ、図書資料（蔵書）の補修・整理などの図書館活動

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	296	77.3
はい	86	22.5
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V28：ゲストティーチャーとしての総合的な学習の時間等の活動

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	150	39.2
はい	232	60.6
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V29：ドリルの採点、放課後の補習、家庭科・体育等の実習補助

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	368	96.1
はい	14	3.7
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V30：授業で使用する教材や教具の作成

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	380	99.2
はい	2	0.5
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V31：パソコンの管理やホームページ作成

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	379	99
はい	3	0.8
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V32：登下校時における安全パトロール

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	173	45.2
はい	209	54.6
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V33：花壇の整備・校舎の補修や清掃

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	272	71
はい	110	28.7
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V34：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	369	96.3
はい	13	3.4
欠損値	1	0.3
合計	383	100

☆地域住民によるボランティア活動が「必要ない」という意見もありますが、どのような理由からだと思いますか。（2つまで）

V35：学校の教育活動は教職員が責任を持つべきである

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	338	88.3
はい	44	11.5
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V36：資料の作成や打ち合わせ等の仕事量が増加して多忙になる

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	242	63.2
はい	140	36.6
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V37：日程等に左右され、学校の活動に支障がでる

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	315	82.2
はい	67	17.5
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V38：守るべき個人情報・学校の内部情報の保守が心配である

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	239	62.4
はい	143	37.3
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V39：事故責任の所在が不明確である

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	245	64
はい	137	35.8
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V40：予算が十分に確保されていない

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	263	68.7
はい	119	31.1
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V41：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	375	97.9
はい	7	1.8
欠損値	1	0.3
合計	383	100

☆地域住民が学校へのボランティア活動をするために、行政にしてほしいことは何ですか。（2つまで）

V42：学校と地域を繋ぐコーディネーターの配置

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	251	65.5
はい	131	34.2
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V43：手引きや事例集等の作成・発行

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	348	90.9
はい	34	8.9
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V44：活動に必要な予算の確保

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	92	24
はい	290	75.7
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V45：ボランティア対象の研修会の実施

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	336	87.7
はい	46	12
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V46：教員対象の研修会の実施

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	374	97.7
はい	8	2.1
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V47：地域住民への啓発・広報の充実

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	305	79.6
はい	77	20.1
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V48：ボランティアの人たちの活動拠点（室）などの整備

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	311	81.2
はい	71	18.5
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V49：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	373	97.4
はい	9	2.3
欠損値	1	0.3
合計	383	100

☆地域住民が学校へのボランティア活動をするために学校は何をしたらいいと思いますか。（2つまで）

V50：学校が必要としているボランティアの内容を地域に発信すること

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	136	35.5
はい	246	64.2
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V51：学校におけるボランティア活動の状況を地域へ発信すること

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	273	71.3
はい	109	28.5
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V52：ボランティアの控室を確保すること

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	364	95
はい	18	4.7
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V53：地域のボランティアセンターや公民館、自治会などと連携すること

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	263	68.7
はい	119	31.1
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V54：学校（教員）と地域住民・保護者の交流の機会をつくること

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	295	77
はい	87	22.7
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V55：学校経営に位置づけて、学校全体としての取り組みを行うこと

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	322	84.1
はい	60	15.7
欠損値	1	0.3
合計	383	100

V56：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	372	97.1
はい	9	2.3
欠損値	2	0.6
合計	383	100

３ー地域住民（保護者）の集計結果

V1：市町村

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
中津市	164	7.7
豊後高田市	119	5.6
宇佐市	316	14.9
別府市	139	6.5
杵築市	82	3.9
国東市	177	8.3
姫島村	40	1.9
津久見市	197	9.3
佐伯市	225	10.6
竹田市	199	9.4
豊後大野市	125	5.9
日田市	174	8.2
玖珠町	169	7.9
合計	2127	100

V2：性別

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
男	472	22.2
女	1528	71.8
欠損値	127	6
合計	2127	100

V3:年代

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
２０歳代	45	2.1
３０歳代	527	24.8
４０歳代	750	35.3
５０歳代	230	10.8
６０歳代以上	552	26
欠損値	23	1.1
合計	2127	100

V4：居住年数

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
１年未満	43	2
１年以上３年未満	84	3.9
３年以上５年未満	104	4.9
５年以上１０年未満	298	14
１０年以上２０年未満	570	26.8
２０年以上	994	46.7
欠損値	34	1.6
合計	2127	100

V5：通学する子の有無

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有	1329	62.5
無	752	35.4
欠損値	46	2.2
合計	2127	100

V6：自分が住んでいる地域では、地域の大人が積極的に子どもに関わっている

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	235	11
そう思う	1212	57
あまり思わない	628	29.5
全く思わない	24	1.1
欠損値	28	1.3
合計	2127	100

V7：自分が住んでいる地域では、地域の人たち同士の交流は盛んである

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	260	12.2
そう思う	1167	54.9
あまり思わない	643	30.2
全く思わない	38	1.8
欠損値	19	0.9
合計	2127	100

V8：自分が住んでいる地域では、地域の人たち同士が挨拶をよく交わしている

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	589	27.7
そう思う	1286	60.5
あまり思わない	214	10.1
全く思わない	18	0.8
欠損値	20	0.9
合計	2127	100

V9：自分が住んでいる地域が、安全でなくなっている

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	98	4.6
そう思う	689	32.4
あまり思わない	1173	55.1
全く思わない	144	6.8
欠損値	23	1.1
合計	2127	100

V10：自分の子どもの頃と比較して、地域の教育力が低下している

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	218	10.2
そう思う	802	37.7
あまり思わない	995	46.8
全く思わない	75	3.5
欠損値	37	1.7
合計	2127	100

V11：自分の子どもの頃と比較して、家庭の教育力が低下している

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	208	9.8
そう思う	799	37.6
あまり思わない	997	46.9
全く思わない	87	4.1
欠損値	36	1.7
合計	2127	100

V12：自分の子どもの頃と比較して、学校に協力的でない家庭が多い

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	130	6.1
そう思う	659	31
あまり思わない	1149	54
全く思わない	111	5.2
欠損値	78	3.7
合計	2127	100

V13：自分の子どもの頃と比較して、子どもたちの道徳心や公共心が薄れている

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	328	15.4
そう思う	1078	50.7
あまり思わない	615	28.9
全く思わない	31	1.5
欠損値	75	3.5
合計	2127	100

V14：自分の子どもの頃と比較して、子どもたちの学習意欲が低下している

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	143	6.7
そう思う	750	35.3
あまり思わない	1064	50
全く思わない	72	3.4
欠損値	98	4.6
合計	2127	100

V15：自分の地域では、学校の行事などの情報がよく伝わってきている

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	303	14.2
そう思う	1257	59.1
あまり思わない	453	21.3
全く思わない	27	1.3
欠損値	87	4.1
合計	2127	100

V16：地域の学校に関心がある

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	359	16.9
そう思う	1206	56.7
あまり思わない	444	20.9
全く思わない	24	1.1
欠損値	94	4.4
合計	2127	100

V17：地域の子どもたちに対して地域の大人が積極的に関わる必要がある

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	470	22.1
そう思う	1280	60.2
あまり思わない	280	13.2
全く思わない	12	0.6
欠損値	85	4
合計	2127	100

V18：あなたは、今まで学校に対するボランティア活動に参加したことがありますか

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有	1083	50.9
無	945	44.4
欠損値	99	4.7
合計	2127	100

学校でのボランティア経験のあるかたにお聞きします（19～52）

☆どんな活動に参加しましたか。（すべて選ぶ）

V19：クラブ活動・部活動の指導

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	988	46.5
はい	120	5.6
欠損値	1019	47.9
合計	2127	100

V20：特別な支援が必要な子どもの指導補助

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1069	50.3
はい	40	1.9
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V21：読み聞かせ、図書資料（蔵書）の補修・整理などの図書館活動

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	975	45.8
はい	134	6.3
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V22：ゲストティーチャー（講師）としての総合的な学習の時間等の活動

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1034	48.6
はい	75	3.5
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V23：ドリルの採点、放課後の補習、家庭科・体育等の実習補助

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1046	49.2
はい	63	3
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V24：授業で使用する教材や教具の作成

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1060	49.8
はい	49	2.3
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V25：パソコンの管理やホームページ作成

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1101	51.8
はい	8	0.4
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V26：登下校時における安全パトロール

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	409	19.2
はい	700	32.9
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V27：花壇の整備・校舎の補修や清掃

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	572	26.9
はい	537	25.2
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V28：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1005	47.2
はい	104	4.9
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

☆活動に参加したきっかけは何ですか。（2つまで）

V29：学校から個人的に誘われて

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	879	41.3
はい	229	10.8
欠損値	1019	47.9
合計	2127	100

V30：学校だより等を見て

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	687	32.3
はい	421	19.8
欠損値	1019	47.9
合計	2127	100

V31：授業参観等での募集で

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	857	40.3
はい	251	11.8
欠損値	1019	47.9
合計	2127	100

V32：学校のホームページを見て

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1101	51.8
はい	7	0.3
欠損値	1019	47.9
合計	2127	100

V33：自分から学校に提案して

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1069	50.3
はい	39	1.8
欠損値	1019	47.9
合計	2127	100

V34：市町村の広報紙を見て

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1070	50.3
はい	38	1.8
欠損値	1019	47.9
合計	2127	100

V35：既に参加している人やコーディネーターに誘われて

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	968	45.5
はい	140	6.6
欠損値	1019	47.9
合計	2127	100

V36：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	895	42.1
はい	213	10
欠損値	1019	47.9
合計	2127	100

☆活動に参加した理由はどのようなことですか。（2つまで）

V37：学校の教育活動に協力したい

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	680	32
はい	429	20.2
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V38：子どもが学校に通学している

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	411	19.3
はい	698	32.8
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V39：地域のためになる

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	886	41.7
はい	223	10.5
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V40：自分の知識・技能を生かしたい

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1056	49.6
はい	53	2.5
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V41：学校での子どもの様子を知りたい

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	864	40.6
はい	245	11.5
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

V42：自分の生きがいになる

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1031	48.5
はい	77	3.6
欠損値	1019	47.9
合計	2127	100

V43：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1057	49.7
はい	52	2.4
欠損値	1018	47.9
合計	2127	100

☆活動に参加して、自分にどのような変化がありましたか。（すべて選ぶ）

V44：生活に張り合いが出てきた

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1021	48
はい	90	4.2
欠損値	1016	47.8
合計	2127	100

V45：地域の子どもに関心が深まった

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	725	34.1
はい	386	18.1
欠損値	1016	47.8
合計	2127	100

V46：人と知り合う機会が増えた

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	626	29.4
はい	485	22.8
欠損値	1016	47.8
合計	2127	100

V47：学校や子どもの様子がわかってきた

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	527	24.8
はい	584	27.5
欠損値	1016	47.8
合計	2127	100

V48：いろいろなことを学んでみようと思うようになった

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1024	48.1
はい	87	4.1
欠損値	1016	47.8
合計	2127	100

V49：周囲の人と学校の話題を話すようになった

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	875	41.1
はい	236	11.1
欠損値	1016	47.8
合計	2127	100

V50：学校以外にも、地域のために何かやってみたいと考えるようになった

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	989	46.5
はい	122	5.7
欠損値	1016	47.8
合計	2127	100

V51：あまり変化はない

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	972	45.7
はい	139	6.5
欠損値	1016	47.8
合計	2127	100

V52：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1096	51.5
はい	14	0.7
欠損値	1017	47.8
合計	2127	100

V53：あなたは、今後、学校へのボランティア活動をしたいと思いますか。

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
とてもそう思う	164	7.7
そう思う	1140	53.6
あまり思わない	589	27.7
全く思わない	55	2.6
欠損値	179	8.4
合計	2127	100

☆あなたが今後、ボランティア活動に参加するとしたらどんな活動に参加したいですか。（2つまで）

V54：クラブ活動・部活動の指導

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1893	89
はい	202	9.5
欠損値	32	1.5
合計	2127	100

V55：特別な支援が必要な子どもの指導補助

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1916	90.1
はい	179	8.4
欠損値	32	1.5
合計	2127	100

V56：読み聞かせ、図書資料（蔵書）の補修・整理などの図書館活動

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1789	84.1
はい	307	14.4
欠損値	31	1.5
合計	2127	100

V57：ゲストティーチャー（講師）としての総合的な学習の時間等の活動

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1990	93.6
はい	106	5
欠損値	31	1.5
合計	2127	100

V58：ドリルの採点、放課後の補習、家庭科・体育等の実習補助

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1948	91.6
はい	148	7
欠損値	31	1.5
合計	2127	100

V59：授業で使用する教材や教具の作成

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1978	93
はい	118	5.5
欠損値	31	1.5
合計	2127	100

V60：パソコンの管理やホームページ作成

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2046	96.2
はい	50	2.4
欠損値	31	1.5
合計	2127	100

V61：登下校時における安全パトロール

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1134	53.3
はい	961	45.2
欠損値	32	1.5
合計	2127	100

V62：花壇の整備・校舎の補修や清掃

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1420	66.8
はい	674	31.7
欠損値	33	1.6
合計	2127	100

V63：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2019	94.9
はい	76	3.6
欠損値	32	1.5
合計	2127	100

☆地域住民が学校へのボランティア活動をするために、行政にしてほしい事は何ですか。（2つまで）

V64：学校と地域を繋ぐコーディネーターの配置

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1563	73.5
はい	532	25
欠損値	32	1.5
合計	2127	100

V65：手引きや事例集等の作成・発行

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1909	89.8
はい	186	8.7
欠損値	32	1.5
合計	2127	100

V66：活動に必要な予算の確保

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1274	59.9
はい	821	38.6
欠損値	32	1.5
合計	2127	100

V67：ボランティア対象の研修会の実施

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1798	84.5
はい	295	13.9
欠損値	34	1.6
合計	2127	100

V68：教員対象の研修会の実施

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1949	91.6
はい	146	6.9
欠損値	32	1.5
合計	2127	100

V69：地域住民への啓発・広報の充実

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1472	69.2
はい	623	29.3
欠損値	32	1.5
合計	2127	100

V70：ボランティアの人たちの活動拠点（室）な

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1796	84.4
はい	299	14.1
欠損値	32	1.5
合計	2127	100

V71：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2065	97.1
はい	29	1.4
欠損値	33	1.6
合計	2127	100

☆地域住民が学校へのボランティア活動をするために、学校にしてほしい事は何ですか。（2つまで）

V72：学校が必要としているボランティアの内容を地域に発信すること

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	836	39.3
はい	1264	59.4
欠損値	27	1.3
合計	2127	100

V73：学校におけるボランティア活動の状況を地域へ発信すること

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1547	72.7
はい	554	26
欠損値	26	1.2
合計	2127	100

V74：ボランティアの控室を確保すること

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2031	95.5
はい	70	3.3
欠損値	26	1.2
合計	2127	100

V75：地域のボランティアセンターや公民館、自治会などと連携すること

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1675	78.7
はい	426	20
欠損値	26	1.2
合計	2127	100

V76：学校（教員）と地域住民・保護者の交流の機会をつくること

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1574	74
はい	527	24.8
欠損値	26	1.2
合計	2127	100

V77：学校経営に位置づけて、学校全体としての取り組みを行うこと

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	1827	85.9
はい	274	12.9
欠損値	26	1.2
合計	2127	100

V78：その他

	回答数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
いいえ	2070	97.3
はい	31	1.5
欠損値	26	1.2
合計	2127	100